

# 平成21年度業務実績報告書

平成22年6月  
独立行政法人国立美術館

# 目 次

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上	
1 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開	
(1) 多様な鑑賞機会の提供	3
① 所蔵作品展	3
② 企画展	4
③ 5館共同企画展	6
④ 巡回展	7
⑤ 東京国立近代美術館フィルムセンター映画上映等	7
(2) 美術創造活動の活性化の推進	9
① 公募団体等への展覧会会場の提供(国立新美術館)	9
② 新しい芸術表現への取り組み	9
(3) 美術に関する情報の拠点としての機能の向上	11
① 情報通信技術(ICT)を活用した展覧会情報や調査研究成果などの公表等	11
② 美術情報の収集、記録の作成・蓄積、デジタル化、レファレンス機能の充実	13
(4) 国民の美的感性の育成	15
① 幅広い学習機会の提供	15
② ボランティアや支援団体の育成等による教育普及事業	16
③ 映画フィルム・資料を活用した教育普及活動	18
(5) 調査研究成果の美術館活動への反映	18
(6) 快適な観覧環境の提供	23
① 高齢者、身体障害者、外国人等への対応	23
② 展示、解説の工夫と音声ガイドの導入	23
③ 入場料金、開館時間等の弾力化	24
④ キャンパスメンバーズ制度の実施	25
⑤ ミュージアムショップ、レストラン等の充実	25
2 我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションの形成・継承	
(1) 美術作品の収集	25
(2) 収蔵庫等保存施設の狭隘・老朽化への対応と適切な保存環境の整備等	28
① 収蔵庫等の狭隘・老朽化への対応	28
② 保存環境の整備等と防災対策の推進・充実	28
(3) 所蔵作品の修理・修復	29
(4) 美術作品の保管・修理等に関する調査研究	30
3 我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与	
(1) 所蔵作品等に関する調査研究成果の発信	33
① 研究紀要、学術雑誌、展覧会刊行物、学会等での発信	33
② 所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催	42
(2) 国内外の美術館等との連携	44
① シンポジウムの開催等による国内外の優れた研究者等との人的ネットワークの構築	44
② 我が国の作家、美術作品による展覧会開催のための海外の美術館との連携・協力	48
(3) 国内外の美術館及びフィルム・アーカイブ等との保存・修復に関する情報交換	48
(4) 所蔵作品の貸与等	49
(5) 美術教育の一翼を担うナショナルセンターとしての活動	50
① 美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修の実施	50
② 先駆的・実験的な教材やプログラムの開発	50
(6) 美術館活動を担う中核的人材の育成	51
(7) 全国の美術館等との連携・人的ネットワークの構築	51
① 企画展・上映会等の共同主催と共同研究	51
② キュレーター研修	52
(8) 我が国の映画文化振興の中核的機関としてのフィルムセンターの活動	52
① 国際フィルム・アーカイブ連盟(FIAF)の正会員としての活動	52

②	日本映画情報システムの運営	52
③	所蔵映画フィルム検索システムの拡充	53
④	映画関係団体等との連携	53
⑤	フィルムセンターの東京国立近代美術館からの独立の検討	53
II	業務運営の効率化	
1	業務の効率化のための取り組み	55
(1)	各美術館の共通的な事務の一元化	55
(2)	使用資源の削減	55
(3)	美術館施設の利用推進	56
(4)	民間委託の推進	57
(5)	競争入札の推進	57
2	事業評価及び職員の研修等	57
3	管理情報の安全性向上	58
4	人件費の抑制, 給与体系の見直し	58
III	予算(人件費の見積もりを含む), 収支計画及び資金計画	
1	予算	60
2	収支計画	61
3	資金計画	62
4	貸借対照表	62
5	短期借入金	63
6	重要な財産の処分等	63
7	剰余金	63
8	人事に関する計画	63
9	施設整備に関する計画	67
10	関連公益法人	67

(別紙1) 公益調達の適正化(財計第2017号)等に即した実施状況  
(別紙2) 独立行政法人国立美術館の役職員の報酬・給与等について

## I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上

### 1 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開

#### (1) 多様な鑑賞機会の提供

##### ① 所蔵作品展

館名	開催日数	展示替回数	入館者数	目標数
東京国立近代美術館(本館)	293	4	225,201	203,000
東京国立近代美術館(工芸館)	216	4	77,209	52,000
京都国立近代美術館	237	12	121,630	194,000
国立西洋美術館	280	4	404,681	250,000
国立国際美術館	56	0	15,951	10,000
計	1,082	24	844,672	709,000

#### 各館の特徴

##### ア 東京国立近代美術館

###### (本館)

所蔵作品展「近代日本の美術」では、絵画・彫刻・水彩・素描・版画・写真など、約 10,000 点のコレクションから、毎回 170～220 点の作品を選び、20 世紀初頭から現代に至る日本の近・現代美術の流れが概観できるよう展示している。

また、所蔵作品展と併設して 4F 特集コーナー、3F 版画コーナー・写真コーナー、2F ギャラリー4 では、「木に潜むもの」「油彩技法から見た近代日本絵画」など特定の作家に絞った展示や特定のテーマによる小企画を 9 回実施することにより、編年順の所蔵作品展とは異なった視点を導入し、新鮮さと会期ごとの変化を印象づけるよう努めた。

さらに、ギャラリー内各所に展示された関連作品をたどって鑑賞する新企画「テーマで歩こう」を立ち上げ、めりはりのある展示になるよう充実を図った。

現代美術を身近に感じてもらうため、作品の前で作家本人が語るアーティスト・トークを 5 回実施した。アンケートでは、作家の人生観や具体的な制作方法を知ることのできるこのトークは、きわめて好評であった。

平成 20 年度に引き続き、『読売新聞』都内版と連携し、特集展示、小企画とリンクする内容のコラム「近代美術の眼」を連載することにより、所蔵作品展の広報を積極的に行った。

###### (工芸館)

陶磁、ガラス、染織、漆工、木竹工、金工・ジュエリー、人形、グラフィック・デザイン等の各分野にわたる約 2,900 点の所蔵作品の中から、約 100～130 点の作品を選び、「近代工芸の名品—花」「ヨーロッパの工芸とデザイン—アール・ヌーヴォーから現代まで」「近代工芸の名品—陶芸」等工芸の歴史や特定のテーマに沿った展示を実施した。

工芸作品の名称は難しい漢字が使われたり、読みが独特であったりと、一般的になじめないものも多いが、会場のキャプションの作家名と作品名にフリガナをふり、あわせて作品をより身近に感じてもらえるように素材や技法についての表記を行うなど、来館者サービスの充実に努めた。

##### イ 京都国立近代美術館

日本画、洋画、版画、彫刻及び陶芸、染織、金工、木竹工、漆工、ジュエリー等の工芸、写真等約 9,700 点の中から展示替え（年 12 回）により、企画展に合わせた「写真—東松照明によ

る「京都」「日本画—再興日本美術院の作家たち」などの小企画展を開催した。

可能な限り展示替えを行うことによって、「コレクション」の有効活用に配慮し、単に「コレクションの名品」だけの展示のみならず、企画展との連動によって、タイムリーな作品紹介、さらには作品が有するコレクション上の位置づけ及び美術史的な意義等についても、よりわかりやすく周知させるよう努めた。

また、当館が中心となって申請し採択された科学研究費補助金（基盤研究 A）の研究テーマ（「東西文化の磁場—日本近代建築・デザイン・工芸の超一、脱—境界的作用史の基礎研究」）を、研究成果発表の場となるよう「コレクション・ギャラリー」において関連の小企画展「19世紀末・京都の一動向—田村宗立、伊東忠太を中心に」として実現し、併せて海外からも研究者を招へいしてシンポジウムを開催した。

#### ウ 国立西洋美術館

国立西洋美術館の所蔵作品展は、所蔵作品約 4,600 点の中から、約 200 点の絵画・彫刻を選んでおおむね時代順に配列し、中世末期から 20 世紀までの西洋美術の流れを辿ることのできる展示を行っている。平成 19 年 9 月以降、新館設備改修工事のため、規模を縮小して前庭と本館のみによる所蔵作品展を行ってきたが、平成 21 年 2 月に新館の工事が完了し、6 月 4 日に前庭・本館・新館をあわせた本来の規模による常設展のリニューアル・オープンを果たした。また、平成 21 年度は開館 50 周年にあたり、これを記念して小企画展「ル・コルビュジエと国立西洋美術館」展、「ローマ 未来の原風景 by HASHI」展、「所蔵水彩・素描展—松方コレクションとその後」を所蔵作品展スペースの中で実施した。

このほか、企画展示館において開催した「かたちは、うつる」展も、所蔵作品のみによる企画であることから所蔵作品展の一環と位置づけて、同展開催中は本館・新館・企画展示館の展示のすべてを常設展観覧料で鑑賞できるようにした。

#### エ 国立国際美術館

国立国際美術館の所蔵作品展は、所蔵作品約 6,100 点の中から作品を選び、特別展の展示室使用状況から年間で 1 回の開催とし、「長澤英俊—オーロラの向かう所—」展との関連で開催した。長澤英俊がイタリアに在住し作品の制作を続けていることから、主に所蔵作品からヨーロッパの近代及び現代美術の流れが理解できるように 6 章にわたり展示を構成した。セザンヌやピカソなどからなる「1. 近代絵画の巨匠たち」、デュシャンやマン・レイなどからなる「2. ダダとシュルレアリスム」、クリストなどからなる「3. フランスのヌーヴォー・リアリスムを中心に」、ホックニーなどからなる「4. イギリス現代美術の展開」、ベッヒャーやグルスキーなどからなる「5. 現代写真—ベッヒャー以降」、リヒターやデュマスなどからなる「6. ヨーロッパ現代美術の新展開」と、それぞれに区分し作品を展示した。また、近年の購入作品の中から未だ展示されていない作品については積極的に展示するよう心がけるとともに、特集展示として「工藤哲巳」作品の展示を実施し、寄託作品の活用を図った。

## ② 企画展

企画展は、利用者のニーズに応え、以下の観点に留意して実施した。

イ 国際的視野に立ち、海外の主要美術館と連携し、確固たる評価を得ている世界の美術を紹介するとともに、我が国の作家や芸術的動向を海外に紹介する展覧会等に積極的に取り組む。

ロ 展覧会テーマの設定やその提示方法等について新しい方向性を示すことに努める。

ハ メディアアート、アニメ、建築など我が国が世界から注目される新しい領域の芸術表現

を積極的に取り上げ、最先端の現代美術への関心を促す。

ニ 過去の埋もれていた作家・作品・動向の発見や再評価に努める。

ホ その他

館名	展覧会名	開催日数	入館者数	目標数	企画趣旨
東京国立近代美術館(本館)	①ビデオを待ちながらー映像, 60年代から今日へ	59	12,240	21,000	ロ, ハ
	②ゴッガン展	74	288,444	280,000	イ
	③権鎮圭	50	11,683	9,000	イ, ニ
	④河口龍夫展 言葉・時間・生命	53	11,350	10,000	ロ, ハ
	⑤ウィリアム・ケントリッジ ー歩きながら歴史を考える ーそしてドローイングは動き始めた……	38	12,718	14,000	ロ, ハ
	⑥生誕 120 年 小野竹喬展	27	33,464	22,000	ロ, ニ
	計	301	369,899	356,000	
東京国立近代美術館(工芸館)	①染野夫妻陶芸コレクションーリーチ・濱田・豊蔵・壽雪ー	52	22,500	12,000	ホ
	②現代工芸への視点ー装飾の力	64	10,569	12,000	ロ
	③早川良雄ー“顔”と“形状”ー	38	11,402	9,000	ニ
	計	154	44,471	33,000	
京都国立近代美術館	①ラグジュアリー：ファッションの欲望	39	25,908	40,000	ロ, ホ
	②京都新聞創刊 130 年記念 京都学「前衛都市・モダニズムの京都」 1895-1930	37	17,664	25,000	ロ
	③無声時代ソビエト映画ポスター展	45	16,958	13,000	ニ
	④生誕 120 年野島康三 ある写真家が見た日本近代	24	7,021	12,000	ニ
	⑤ウィリアム・ケントリッジ ー歩きながら歴史を考える ーそしてドローイングは動き始めた……	40	12,777	14,000	ロ, ハ
	⑥ボルゲーゼ美術館展	52	94,315	170,000	イ
	コレクション展【※1】	ー	ー	9,000	
	モホリ・ナジ展【※2】	ー	ー	4,000	
	⑦マイ・フェイバリットーとある美術の検索目録／所蔵作品から【※3】	7	1,653	ー	ロ, ニ
	計	244	176,296	287,000	
国立西洋美術館	①ルーヴル美術館展 ー17 世紀ヨーロッパ絵画ー	66	634,498	360,000	イ, ロ
	②かたちは、うつる ー国立西洋美術館所蔵版画展	37	23,653	25,000	ロ
	③古代ローマ帝国の遺産 ー栄光の都ローマと悲劇の街ポンペイー	75	195,477	100,000	イ
	④フランク・ブラングイン展	32	29,892	20,000	イ,ロ,

					ニ
	計	210	883,520	505,000	
国立国際美術館	①杉本博司 歴史の歴史	49	22,065	17,000	ロ
	②やなぎみわ 婆々娘々!	83	293,688	151,000	ハ
	③慶應義塾創立 150 年記念 関連企画展 慶應義塾をめぐる芸術家たち	83	293,688	151,000	ニ
	④ルーヴル美術館展 美の宮殿の子どもたち	81	280,528	150,000	イ
	⑤長澤英俊展—オーロラの向かう所—	56	11,340	10,000	イ
	⑥国立国際美術館新築移転 5 周年記念 絵画の庭—ゼロ年代日本の地平から	64	57,196	19,000	ロ
	計	416	958,505	498,000	
国立新美術館	①アーティスト・ファイル 2009—現代の作家たち	32	18,933	15,000	ホ
	②ルーヴル美術館展 美の宮殿の子どもたち	54	201,251	180,000	イ
	③野村仁 変化する相—時・場・身体	54	14,037	20,000	ハ
	④生誕 150 年 ルネ・ラリック 華やぎの ジュエリーから煌きのガラスへ	66	120,990	100,000	イ
	⑤光 松本陽子/野口里佳	54	20,188	20,000	ロ
	⑥THE ハプスブルク 華麗なる王家と美 の巨匠たち	70	390,219	250,000	イ
	⑦DOMANI・明日展 2009—未来を担う 美術家たち	26	14,037	13,000	ホ
	⑧ルノワール —伝統と革新	61	295,770	200,000	イ
	⑨平成 21 年度[第 13 回]文化庁メディア芸術 祭	11	58,242	30,000	ハ
	⑩アーティスト・ファイル 2010—現代の作家たち	25	16,100	12,000	ホ
	計	453	1,149,767	840,000	
合計	1,778	3,582,458	2,519,000		

備考：【※1～3】京都国立近代美術館の当初予定していた「コレクション展」及び「モホリ・ナジ展」は、美術館施設改修工事の期間と重なったため、工事終了後「コレクション展」を「マイ・フェイバリット—とある美術の検索目録/所蔵作品から」展として変更し開催した。

### ③ 5 館合同企画展

国立美術館全体の所蔵作品を最大限に活かした 5 館合同の展覧会については、視覚芸術の起源と深く関わるにも関わらず、総合的に顧みられることが従来ほとんどなかった『影』をテーマに各館の所蔵作品によって展覧会を構成することとし、作品の選定など平成 22 年度における開催のための事前の準備を行った。

展覧会名：「陰影礼讃—国立美術館コレクションによる」

会 期：平成 22 年 9 月 8 日（水）～10 月 18 日（月）（36 日間）

会 場：国立新美術館

出点数：約160点

④ 巡回展

企画館	展覧会名	開催館	開催日数	入館者数
京都国立近代美術館	国立美術館巡回展「明治・大正・昭和100年の名画 国立美術館名作選」	香川県立ミュージアム	27	12,082
		徳島県立近代美術館	38	6,115
東京国立近代美術館（工芸館）	飛騨高山美術館開館13周年記念特別展 東京国立近代美術館工芸館名品展	飛騨高山美術館	50	4,240
		和光本館6階 和光ホール	12	4,382
計			127	26,819

企画館	タイトル	会場数	開催日数	入館者数
東京国立近代美術館（フィルムセンター）	平成21年度優秀映画鑑賞推進事業	188会場	347 (延べ日数)	94,052
	日本アニメーション映画史	1会場	12	320
	「生誕百年 映画監督 マキノ雅弘」巡回事業	7会場	57	8,369 (全7会場の総入館者数)
	川喜多かしこ生誕100年記念 日本映画海外巡回特集上映	1会場	7	638
	「MANGA IMPACT」展「日本の初期アニメーション映画」部門	2会場	4	1,020
	「生誕百年 映画監督 山中貞雄」巡回事業	6会場	23	683
計		205会場	450	105,082

⑤ 東京国立近代美術館フィルムセンター映画上映等

【上映会】

タイトル	会場	上映回数	日数	入館者数	目標数	企画趣旨
①映画の中の日本文学 Part2	大ホール	30	15	3,720	3,500	ロ
②発掘された映画たち 2009	大ホール	24	12	2,857	3,500	ロ・ニ
③日本映画史横断④ 怪獣・SF映画特集 Part2	大ホール	42	21	4,275	6,000	ニ
④EU フィルムデーズ 2009	大ホール	40	20	7,835	5,000	ホ
⑤特集・逝ける映画人を偲んで 2007-2008【※4】	大ホール	97	49	14,364	18,000	ニ
⑥第31回ぴあフィルムフェスティバル【※5】	大ホール	47	17	7,607	5,000	ロ・ニ

⑦生誕百年 映画監督 山中貞雄 【※6】	大ホール	28	12	4,175	3,500	ニ
⑧生誕百年 映画女優 田中絹代	大ホール	207	71	27,907	26,500	ニ
⑨映画監督 大島渚【※7】	大ホール	66	22	9,495	11,000	ニ
映画監督 吉田喜重【※8】	大ホール	—	—	—	11,000	
⑩アンコール特集:1995-2004 年 度の上映作品より【※9】	大ホール	36	12	6,466	—	ホ
⑪映画監督 篠田正浩	大ホール	75	25	11,438	12,000	ニ
⑫日本・ブルガリア外交関係再開 50周年記念 ブルガリア映画特 集	小ホール	18	9	1,619	1,500	イ
⑬日本インディペンデント映画史 シリーズ② ぴあフィルムフェス ティバルの軌跡 vol.2	小ホール	44	22	810	2,500	ロ・ニ
⑭ドキュメンタリー作家 土本典 昭	小ホール	36	18	2,190	3,500	ニ
⑮映画の教室 2009	小ホール	18	9	1,949	2,000	ホ
⑯アンコール特集:2008年度上映 作品より	小ホール	18	9	1,744	2,500	ホ
⑰川喜多かしこ生誕100年記念事 業 川喜多賞受賞監督作品選集	小ホール	32	16	3,517	3,000	イ・ニ
⑱NFC 所蔵外国映画選集 アメ リカ映画史研究③	小ホール	18	9	1,709	1,500	イ・ニ
計		876	368	113,677	121,500	

備考：【※4】「第31回ぴあフィルムフェスティバル」【※5】の会期延長に伴い会期を53日から49日とした。

【※5】海外招待作品プログラム等を充実させたため会期を4日間延長し、13日から17日とした。

【※6】新たに判明した現存作品を加えて上映プログラムを充実させて上映回数を24回から28回とした。

【※7】大ホール座席張替工事期間を確保するため会期を24日から22日とした。

【※8～9】大ホール座席張替工事期間を確保するため会期を6日間減らす必要があったため、「映画監督 吉田喜重」を次年度に延期し、代替企画として「アンコール特集:1995-2004年度の上映作品より」を開催した。

#### 【展覧会】

展覧会名	日数	入館者数	目標数	企画趣旨
①映画資料でみる 映画の中の日本文学 Part2 (併設:「展覧会 映画遺産」)	66	2,752	2,500	ロ・ニ
②ドキュメンタリー作家 土本典昭 (併設:「展覧会 映画遺産」)	54	2,636	1,500	ロ
③生誕百年 映画女優 田中絹代 (併設:「展覧会 映画遺産」)	87	5,050	4,000	ロ・ニ
④戦後フランス映画ポスターの世界 東京国立近代美	69	5,080	3,500	ロ・ニ

術館フィルムセンター所蔵《新外映コレクション》より（併設：「展覧会 映画遺産」）				
計	276	15,518	11,500	

## （２）美術創造活動の活性化の推進

### ① 公募団体等への展覧会会場の提供（国立新美術館）

公募展団体数：69 団体

年間利用室数：延べ 3,500 室／年

稼働率：100%

入館者数：1,246,840 人

1 公募団体等から寄せられた意見・要望も参考としつつ、公募展の効率的な開催準備と円滑な運営を図るため、以下のような取組みを行った。

- ・作品搬入出時の車両の入退館時間の指定や駐車場の割振りを団体ごとに実施。
- ・作品用エレベータの使用時間割振りや使用備品の事前配置等の徹底。
- ・審査、展示等に必要な備品の充実。
- ・展示作品の素材や陳列方法等について、施設の管理運営上問題の生じる可能性のある公募団体等との事前協議の徹底。
- ・公募展運営サポートセンターにおいて、使用公募団体等に関する電話（国立新美術館公募展案内ダイヤル）への問い合わせ対応の実施。
- ・公募展のポスター掲示や公募展開催案内チラシの作成及び配布による広報の実施。
- ・館ホームページの公募展紹介ページに、文字情報に加えポスター等の画像情報を掲載することにより広報を充実。
- ・平成 21 年度から国立新美術館ニュースへ公募団体からの寄稿を掲載することにより、広報の支援を実施。
- ・公募展と企画展の観覧料の相互割引について、実施団体の情報を館内で周知。

2 公募団体等が行う教育普及活動

館を使用する公募団体等での教育普及活動が活発化しており、講堂や研修室の利用が増加している。

3 平成 24 年度展示室（公募展用）使用団体の募集について

平成 19 年度に展示室（公募展用）の使用決定を行った団体に対して認めた優先使用が平成 23 年度で終了することから、平成 24 年度の展示室（公募展用）の使用決定のため、以下の取組みを行った。

- ・展示室使用 69 団体に対し、今後の展示室の使用希望等についてヒアリングを実施。
- ・展示室の使用の方針案の館内での検討。
- ・展示室の使用の方針について館評議員会への諮問・答申を得て決定。
- ・展示室使用募集要項の作成、ホームページでの公開、関係団体への周知。
- ・展示室使用団体決定のための抽選会の実施準備。

### ② 新しい芸術表現への取組

【東京国立近代美術館本館】

展覧会名	日数	ジャンル	入館者数	目標数	共催者
------	----	------	------	-----	-----

ビデオを待ちながら—映像、60年代から今日へ	59	ビデオアート	12,240	21,000	—
ウィリアム・ケントリッジ—歩きながら歴史を考える—そしてドローイングは動き始めた……	38	ビデオアート, アニメーション, 現代音楽	12,718	14,000	京都国立近代美術館
計	97		24,958	35,000	

・平成21年度科学研究費補助金(基盤研究(B))「1960~70年代のビデオアート:作品の所在調査とデータ・ベース構築」を得て,調査と資料収集を実施した。

・「ビデオを待ちながら—映像,60年代から今日へ」展の研究・調査の成果に基づき,ビデオアート作品20本を購入した。

#### 【東京国立近代美術館フィルムセンター】

展覧会名	日数	ジャンル	入館者数	目標数	共催者
日本アニメーション映画史	全12	アニメーション	320	—	ミュンヘン市博物館・映画博物館
「MANGA IMPACT」展「日本の初期アニメーション映画」部門	4	アニメーション	1,020	—	ロカルノ国際映画祭 トリノ国立映画博物館
計			1,340	—	

#### 【京都国立近代美術館】

展覧会名	日数	ジャンル	入館者数	目標数	共催者
ウィリアム・ケントリッジ—歩きながら歴史を考える—そしてドローイングは動き始めた……	40	ビデオアート, アニメーション, 現代音楽	12,777	14,000	東京国立近代美術館
計	40		12,777	14,000	

・「ウィリアム・ケントリッジ—歩きながら歴史を考える—そしてドローイングは動き始めた……」展に併せ,京都会馆第2ホールを使い,作家自身のライブ・レクチャー/パフォーマンスを実施した。

#### 【国立西洋美術館】

展覧会名	日数	ジャンル	入館者数	目標数	共催者
ル・コルビュジエと国立西洋美術館	77	建築	44,006	—	—
計	77		44,006	—	

・本展に関連したプログラムとして,講演会(4回),建築ツアー(4回),ワークショップ(2種)を実施した。また,東京芸術大学演奏芸術センターと連携して,建築家としてル・コルビュジエの事務所で働き,後に作曲家となったクセナキスの作品やその時代の楽曲をとりあげたレクチャーコンサート(2回)を行った。さらに常設展を楽しむための「FUN DAY」や「ファミリープログラム」も,今年度は本展の会期にあわせて行い,本館や出品作品に関連するプログラムを企画実施した。

【国立国際美術館】

展覧会名	日数	ジャンル	入館者数	目標数	共催者
やなぎみわ 婆々娘々！	83	ビデオアート, 写真等	293,688	151,000	朝日新聞社
計	83				

- ・現代音楽、サウンドインスタレーションの分野で先駆的活動を行ってきた小杉武久による「二つのコンサート」を当館メディア担当の客員研究員の協力を得ながら実施した。

【国立新美術館】

展覧会名	日数	ジャンル	入館者数	目標数	共催者
アーティスト・ファイル 2009 ー現代の作家たち	32	ビデオアート, ヴィデオインスタレーション	18,933	15,000	ー
野村仁 変化する相一時・場・身体	54	ビデオアート, サウンドインスタレーション	14,037	20,000	ー
光 松本陽子/野口里佳	54	ビデオアート	20,188	20,000	ー
DOMANI・明日展 2009ー未来を担う美術家たち	26	ビデオインスタレーション	14,037	13,000	文化庁 読売新聞社
平成 21 年度 [第 13 回] 文化庁メディア芸術祭	11	ビデオアート, アニメーション, マンガ, ゲーム, インタラクティブアート	58,242	30,000	文化庁 CG-ARTS 協会
アーティスト・ファイル 2010 ー現代の作家たち	25	ビデオインスタレーション, アニメーション	16,100	12,000	ー
計	202		141,537	110,000	

- ・「アーティスト・ファイル 2010ー現代の作家たち」関連事業として、同展出品作家斎藤ちさと氏によるワークショップ「傘をつかってアニメーションを作ろう」を開催した。
- ・アニメーション表現などの新しい視覚表現を紹介するための試みとして、(A)「館内ディスプレイによる映像上映プログラム」、(B)「インター・カレッジ・アニメーション・フェスティバル(ICAF)2009」への共催および(C)「TOKYO ANIMA!ーBOOT UP」への共催を行った。(A)では ICAF2009 での出品作品の先行上映を行った。(B)の ICAF2009 では国内の大学などの学生によるアニメーション作品 145 点に加え、韓国とヨーロッパの映像作品を 4 日間にわたり講堂において上映したほか、アニメーション作家、アニメーション作家グループらによるシンポジウムなどを開催した。(C)の「TOKYO ANIMA!ーBOOT UP」は六本木アートナイト 2010 のイベントのひとつとして開催した。

(3) 美術に関する情報の拠点としての機能の向上

① 情報通信技術 (ICT) を活用した展覧会情報や調査研究成果などの公表等

ア ホームページアクセス件数

館名	アクセス件数	目標数 (第 1 期平均)
本部	13,233,953	74,434

東京国立近代美術館（本館・工芸館・フィルムセンター含む）	13,915,620	4,341,163
京都国立近代美術館	1,902,503	222,502
国立西洋美術館	9,456,467	720,126
国立国際美術館	3,503,807	366,054
国立新美術館	8,280,313	—
計	50,292,663	5,724,279

注 国立新美術館は、第2期中期計画の平成18年度から設置のため、目標数を設定していない。

## イ 各館の ICT 活用の特徴

### （ア）本部

法人ホームページにおいて、引き続き国立美術館5館の開催展覧会および各種催事等トピックスの一覧を掲出した。また、国立美術館キャンパスメンバーズについてメンバー校の一覧を整備するなど広報に努めた。

独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システムに新収蔵作品の文字画像データを追加するとともに、作品画像掲載を進めるため、許諾を得た彫刻作品 531 点について画像を新規登録した。また、版画についての著作権者情報を整備するとともに、著作権許諾申請手続を開始した。

### （イ）東京国立近代美術館

平成19年度より稼働のコンテンツ・マネジメント・システム（CMS）を用いて、ホームページ・コンテンツの追加更新を迅速化し、平成21年度は特に企画展等の英文情報の充実化を進めた。

また、河口龍夫展では Twitter 上に展覧会ページを立ち上げるとともに、「ビデオを待ちながら」展においてはプロモーション映像を YouTube に掲載した。平成22年4月から開催予定の「建築はどこにあるの？」展においては、参加建築家それぞれが制作の各段階での状況を書き込んでいく特設ブログを開設した。

フィルムセンターでは、事業関連の情報を提供する「NFC メールマガジン」とウェブサイトの両者に新たに新着図書情報を掲載することにし、日常の図書充実の成果をインターネット上で示せるようにした。NFCD（フィルムセンターデータベース）については、ウェブ化開始以来の懸案であった人物データのコンバートのテストを進めた。

また、映画関連資料へのアクセス希望に対しては、図版提供をすみやかにを行うためデジタル・データの形で提供しているが、これまでにデータ化された写真等の画像を共有ファイル内に集積し、今後円滑に活用できるように「画像集積所」の環境整備を開始した。

### （ウ）京都国立近代美術館

コレクションギャラリーの小企画、テーマ展示に関する小解説をホームページに毎回掲載し、情報発信の充実に努めた。

### （エ）国立西洋美術館

法人全体の国立美術館所蔵作品総合目録検索システムと並行して、独自に所蔵品データベースを構築し、通常の商品検索手段を提供すると共に「所蔵作品展にどの作品が出ているか」が誰にでも分かるような作品情報の公開に努めた（「所蔵作品展」ページの画像一覧）。この所蔵作品展情報を最新の状態に保つため、ウェブ版データベースの土台となる業務用の収蔵作品管理システムにおいて、作品所在情報の適切な更新に努めた。加えて、科学研究費補助金を獲得し、個々の作品に関する展覧会歴、掲載文献、英文解説等の詳細情報の遡及入力を行った。また国立美術館版「想—IMAGINE」との自動連携について国立情報学研究所と検討を重ね、試験データの公開を実施した。

また、ホームページの50周年記念サイトで記念事業に関する広報を積極的に行う一方、ホームページ本体の日本語版・英語版においても展覧会、講演会、プログラムなど各種情報の充実に努めた。英語版ページは海外でも好評で、欧州発信の美術サイトでは世界の美術館ウェブサイト・ランキングの上位に選ばれた(Kunstpedia, *Museum Website Ranking 2009*)。

(オ) 国立国際美術館

展覧会等の情報を利用者に分かりやすく提供するため、展覧会の内容や館の周知、特に関連イベント情報、施設利用案内情報の充実に努めた。

また、展覧会毎に英語版を作成し、海外への情報発信にも努めた。

(カ) 国立新美術館

展覧会情報収集提供事業(アートコモンズ)では、収集した展覧会情報と関連する美術情報(国立美術館の所蔵する作品情報や図書情報)と結びつけるため、国立情報学研究所の協力の下、「国立美術館版 想—Imagine」の構築を国立美術館本部と共に行った。

交通案内等の基本的な情報の充実により美術館への来館の利便を図り、また、国立新美術館の多彩な事業をわかりやすく利用者に伝えるため、ホームページのリニューアルを行い、平成21年4月から実運用を開始した。

携帯電話や携帯情報端末でホームページのほぼ全文を閲覧可能な「携帯電話向けページ」を開設した。さらに携帯電話からの閲覧を促進するため、一部の印刷物に携帯版ホームページのアドレスを符号化した二次元バーコード(QRコード)の掲載を行った。

月1回のメールマガジンの発行を平成21年12月から開始し、約1,100名が受信登録を行った。

② 美術情報の収集、記録の作成・蓄積、デジタル化、レファレンス機能の充実

ア 図書資料等の収集

館名		収集件数	累計件数	利用者数	目標数 (第1期平均)
東京国立近代美術館	本館	5,315	110,944	2,827	1,853
	工芸館	1,594	19,044	307	317
	フィルムセンター	903	29,832	3,206	3,085
京都国立近代美術館		1,132	18,412	—	—
国立西洋美術館		1,792	44,450	511	119
国立国際美術館		780	33,373	—	—
国立新美術館		13,979	97,296	38,591	—
計		25,495	353,351	45,442	5,374

注1 京都国立近代美術館は4階、国立西洋美術館は1階、国立国際美術館は地下1階に図録等が閲覧できる情報コーナーを設け、入館者が自由に閲覧できるようにしており、その場所については、利用者数の把握はしていない。

注2 国立新美術館は、第2期中期計画の平成18年度から設置のため、目標数を設定していない。

イ 特記事項

(ア) 東京国立近代美術館

東京国立近代美術館ニュース『現代の眼』576号(平成20年6-7月)において、当館と国立国会図書館、国立情報学研究所との共同事業について、特集記事「〈連携〉する美術情報」で解説し、広報した。

フィルムセンターでは、平成20年度に引き続き、戦前期の重要な映画雑誌である「キ

「ネマ週報」の復刻（ゆまに書房刊行）に際し、139号から223号まで85冊の原本提供を行った。（今回復刻される259冊のうち平成21年度内に第4回～第5回分を配本。）

また、日常の図書収集活動について来館者に周知するため、図書室内に新着図書コーナーを新たに設置するとともに、インターネットの上でも新着図書情報の積極的な発信を開始した。

(イ) 国立西洋美術館

平成21年度導入した最新の電子レファレンス・ツール（学術雑誌アーカイブ JSTOR や欧州競売カタログ総覧データベース等）について、全国美術館会議の研修会等で積極的に紹介した。併せて専門図書館協議会関東地区協議会やアート・ドキュメンテーション学会等において、国立西洋美術館研究資料センターの活動について紹介を行った。

また、平成20年度から整理・公開方法を検討してきた一過性資料（新聞記事切抜き、文献複写、チラシ、小冊子等）について、諸外国の主要美術館の図書室で採用されている方法にしたがい、作家毎に資料を整理する「アーティスト・ファイル」として公開を開始した。

(ウ) 国立国際美術館

国内外の現代美術に関連する図書資料等を中心に収集を継続して行った。特に近年は企画展や所蔵作家関連文献に加え、国際展に関する文献などの積極的な収集に努めている。

(エ) 国立新美術館

日本の展覧会カタログを中心に網羅的、遡及的収集に努めた。国内約300、国外約60の美術館・博物館と展覧会カタログの相互寄贈関係を構築したほか、複数の個人から展覧会カタログの大口寄贈を受けた。

ウ 所蔵作品データ等のデジタル化

館名		画像データ				テキストデータ			
		デジタル化件数	デジタル化累計	公開件数	目標公開件数	デジタル化件数	デジタル化累計	公開件数	目標公開件数
東京国立近代美術館	本館	285	10,168	4,071	1,394	170	10,449	9,826	9,144
	工芸館	280	3,263	125	23	104	3,707	2,906	2,516
	フィルムセンター (映画関連資料)	—	—	—	—	9,488	109,457	—	—
京都国立近代美術館		71	6,421	1,321	517	310	9,811	8,510	5,612
国立西洋美術館		71	5,065	202	202	53	4,553	4,369	4,058
国立国際美術館		152	6,119	1,538	2,356	96	7,006	6,055	5,101
計		859	31,036	7,257	4,492	10,221	144,983	31,666	26,431

注 「公開件数」は、所蔵作品総合目録における画像及びテキストデータの公開件数である。なお、国立西洋美術館は「国立西洋美術館所蔵作品データベース」で画像データ4,084点を公開している。フィルムセンターについては、映画フィルムを除いた映画の関連資料についての件数を掲載している。

エ インフォメーションデータセンター（IDC）の確立

国立美術館5館全体で採用しているVPN（Virtual Private Network：暗号化された通信網）を用いてグループウェア及びテレビ会議システムを稼働させた。

平成20年度に情報資源の多面的・効果的提供システムとして国立情報学研究所と共同開発した国立美術館版「想-IMAGINE」の試行版を、データ等の更新を行い国立美術館の所蔵作品、図書、展覧会に関わる情報資源の連携検索システムの本版として公開した。

独立行政法人国立美術館の情報資産を安全に運用するために「国立美術館情報資産安全対策基本方針」「国立美術館情報資産安全管理規則」を策定した。

#### (4) 国民の美的感性の育成

##### ① 幅広い学習機会の提供（講演会，ギャラリートーク，アーティスト・トーク等）

館名	実施回数	参加者数	目標数	
東京国立近代美術館	本館	127	5,635	2,718
	工芸館	50	1,601	1,285
	フィルムセンター	192	10,649	1,470
京都国立近代美術館	107	5,587	1,590	
国立西洋美術館	146	14,507	5,582	
国立国際美術館	36	3,433	2,662	
国立新美術館	108	10,942	—	
計	766	52,354	15,307	

#### ア 各館の特徴

##### (ア) 東京国立近代美術館

###### (本館)

幅広い層への解説プログラム（所蔵品ガイド，ハイライトツアー，キュレータートーク，アーティストトーク，音声ガイド，子ども用セルフガイドやイベント等）や来館者サービス（ライブラリー，ショップ，レストラン，休憩室，バリアフリー情報，夜間開館，無料観覧日，MOMAT パスポート等）を一覧できるリーフレット「活用ガイド」を新たに制作した。

都立文京盲学校からの見学依頼をきっかけに，解説ボランティアに研修を行い，視覚障害者への鑑賞サポートを行えるようにした。

また，「竹喬展」において関連企画として，小学生向けのワークショップを行った。

###### (工芸館)

「現代工芸への視点—装飾の力」展の開催中にギャラリートーク及び作家によるトークを実施した。

また，雑誌『美しいキモノ』（アシェット婦人画報社）の連載と連動した特別鑑賞会を開催した。

###### (フィルムセンター)

上映作品にゆかりのある映画人や研究者，評論家を招いてのトークも多く開催しているが，本年も昨年に続き「発掘された映画たち 2009」で研究員が上映作品の発掘や復元の経緯について解説を行い，映画保存業務の重要性をアピールした。

「EU フィルムデーズ 2009」では，来日ゲストのトークや質疑応答に加え，ゲスト全員を集めてのシンポジウムを初めて開催し，「第 31 回びあフィルムフェスティバル」では，日本の古典映画の魅力を現在第一線で活躍する映画人などが解説する「大島渚講座」を開催した。

また，教育普及を目的とする上映イベントでは，小中学生を対象とする従来の「こども映画館」に加え，新たに学生を対象とした新規事業として「カルト・ブランシュ～期待の映画人・文化人が選ぶ日本映画～」を開催した。

##### (イ) 京都国立近代美術館

「ウィリアム・ケントリッジ展」においては，京都会館で作家本人によるレクチャー／

パフォーマンスを開催した。また、同展関連事業として、ノートルダム学院小学校と当館による学習支援的取り組みとして、アナモルフォーシスの手法を使った作品を主眼に、同手法による制作を体験した後、展覧会を鑑賞するというワークショップを企画・実施した。

(ウ) 国立西洋美術館

平成 21 年度は、開館 50 周年記念で開催した「ル・コルビュジエと国立西洋美術館」展および「かたちは、うつる」展で、複数の関連プログラムを実施した。「FUN DAY」においては、開催日がこれらの展覧会と重なることもあり、常設展に関連するプログラムに加え建築に関連したツアーやトーク、版画のデモンストレーションなどを行った。建築のプログラムは本館を世界遺産へ登録申請していることから、周囲の関心も高くプログラム参加者も多く好評だった。「古代ローマ帝国の遺産」展では国際シンポジウムを開催した。

(エ) 国立国際美術館

企画展ごとに講演会、対談、ギャラリートークなどを実施するとともに、シンポジウム「オーラル・アート・ヒストリーの可能性」（参加者 85 名）とシンポジウム「国立国際美術館新築移転 5 周年記念 絵画の庭ーゼロ年代日本の地平から」（参加者 444 名）を開催した。また、上記のほか、以下の教育プログラムを実施した。

- ・「ルーヴル美術館展」において鑑賞支援教材制作に関連した「ジュニア・セルフガイド」の発行
- ・大学の課外授業及びスクーリングによる団体鑑賞の受入れ
- ・小・中・高等学校団体鑑賞の受入れ
- ・教員研修の実施（5 回 合計 214 名）

(オ) 国立新美術館

展覧会に合わせた講演会や解説会、アーティスト・トークのほか、子供から大人まで幅広い層を対象にしたワークショップを開催した。アーティスト・ワークショップ（全 7 回）では、絵画や写真、彫刻など従来の美術表現に関連したもののほか、子供を対象とした身体表現をとおした絵画鑑賞や既成の玩具を用いた造形表現など、幅広い分野からアーティストを講師に迎えた多彩なプログラムを実施した。

また、ワークショップの様子を記録してスライドショーを編集・作成し、館内のモニターで上映することにより、参加者以外の来館者にも広くプログラムを知ってもらい、楽しんでもらえるよう工夫した。

美術家の宮島達男氏他が参加したシンポジウム「ウガンダのエイズ孤児、アーティストに出会う」では、広く社会における芸術の役割と可能性を探る貴重な機会を提供することができた。

② ボランティアや支援団体の育成等による教育普及事業

ア ボランティアによる教育普及事業

館 名		ボランティア 登録者数	ボランティア 参加者数	事業参加者数
東京国立近代美術館	本館	35	463	3,293
	工芸館	24	241	1,593
京都国立近代美術館		30	141	—
国立西洋美術館		33	446	3,343
国立国際美術館		38	57	—
国立新美術館		52	96	—
計		212	1,444	8,229

## イ 各館の特徴

### (ア) 東京国立近代美術館

本館では、フォローアップ研修（10月）において、NPOから講師を迎えて視覚障害者への鑑賞サポートについて学び、盲学校の高校生へのギャラリートークを行った（11月）。開館日毎に実施している所蔵品ガイドについては、参加人数や対象作品、参加者の反応などを発足以来日誌に記してきたが、これをブログ（担当者と当館ボランティアのみ閲覧可能）に記載するようにし、自宅からでも活動状況を確認できるよう工夫を行った。

工芸館では、平成20年度に引き続き、ボランティアガイドが担当する鑑賞プログラム（ポーラ伝統文化振興財団との共催）を開催した。また、高度な質問にも十分な対応ができるようフォローアップ研修を毎月実施した。

### (イ) 京都国立近代美術館

ボランティアによる聞き取りアンケートの実施等の活動を行った。

### (ウ) 国立西洋美術館

平成20年度に募集したボランティア・スタッフによる新たなプログラム「美術トーク」と「建築ツアー」を毎週日曜日の午後に実施した。「建築ツアー」は他の建築プログラム同様に、毎回定員以上の参加希望者が出るなど大変好評であった。「美術トーク」は日によって参加者の少ないときもあったが、後半はリピーターが出るなど、これも人気が出てきている。新館の空調工事を行っていたため、ファミリー向けのプログラムについて、「どようびじゅつ」を例年より多く実施した。また、クリスマスの時期には平成20年度から始めた「10分トーク」を今年も実施した。スタッフの数も増え、ボランティアによるプログラムをさらに充実させることができた。

### (エ) 国立国際美術館

学生ボランティアを広く募り、教育普及事業の実施補助、広報資料の発送、図書資料等の整理などの美術館運営の補助業務を実施することを通して、美術館活動に接する機会を提供した。

### (オ) 国立新美術館

美術館事業の支援及び美術館の活動に関心を持つ学生（大学生、大学院生）への実務体験の機会の提供を目的としたサポート・スタッフ制度により、講演会やワークショップをはじめとする教育普及事業のほか、情報資料室や広報の業務補助等、幅広い活動に参加させることにより、将来、文化活動に携わる可能性のある学生に対して、美術館や美術活動への理解を深める機会を提供することができた。

## ウ 支援団体等の育成と相互協力による事業

### (ア) コンサート等の実施

京都市立芸術大学、東京芸術大学、東京・春・音楽祭実行委員会、東京都、ダイキン工業現代美術振興財団等との協力により、各館においてコンサートや落語会、演劇などを開催した（20回）。

### (イ) ぐるっとパスへの参加

東京の美術館・博物館等66館が実施する共通入館券事業「東京・ミュージアムぐるっとパス2009」及び関西の美術館・博物館等64館が実施する「ミュージアムぐるっとパス・関西2009」に参加（京近美を除く。）し、所蔵作品展観覧料の無料化や企画展観覧料の割引などを実施した。

### (ウ) NPO法人との連携

東京国立近代美術館において、平成22年1月2日（土）NPO法人美術ファンクラブと

の連携により、本館所蔵作品展「近代日本の美術」及び「早川良雄－“顔”と“形状”－」展の無料観覧を実施した。（入館者：1,082人）

(エ) 企業との連携

国立西洋美術館では、セイコーエプソン株式会社とエプソン販売株式会社の支援を受け、OPEN museum（美術を通して人々が出会う開かれた美術館をみざすプロジェクト）を平成19年度より継続し、美術館無料開放日「FUN DAY」の開催、映像ガイドの上映、クリスマス・プログラムの実施等各種プログラムの充実を図った。

国立国際美術館では、企業とのタイアップによる前売券の発券、企業等が発行する印刷物への展覧会情報の掲載等を実施し、企業との連携を進めた。

国立新美術館では、外部協力者（参与）と連携し、外部資金の募集活動を行い、コンサート事業等の支援を目的に、企業から協賛金を受け入れた。

③ 映画フィルム・資料を活用した教育普及活動

平成21年度で3年目となるフィルムセンターと京都国立近代美術館との共同開催による映画の上映会については、ドイツ文化センター（京都）を会場として上映を行った。また、児童生徒を対象とした事業については、特に相模原分館において市及び近隣施設との連携により映画の上映会と施設探検ツアーを実施した。

- ・「NFC 所蔵作品選集 MoMAK Films@Goethe」 (5回) 791名
- ・「こども映画館 2009年の夏休み」 (4回) 357人
- ・相模原市内の小・中学生を対象とした上映会（由野台中学校） (1回) 110人
- ・相模原分館「子供映画鑑賞会と施設探検ツアー」 (2回) 113人
- ・相模原分館「さがみ風っ子文化祭」親子映画鑑賞会 (2回) 20人

(5) 調査研究成果の美術館活動への反映

ア 東京国立近代美術館

調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
ビデオアートに関する調査研究	「ビデオを待ちながら」展を開催しカタログを編集発行	
ポール・ゴーギャンに関する調査研究	「ゴーギャン展」を開催しカタログを編集発行	名古屋ボストン美術館
河口龍夫に関する調査研究	「河口龍夫展」を開催しカタログを発行	
権鎮圭と韓国の近代彫刻に関する調査研究	「権鎮圭」を開催しカタログを発行	武蔵野美術大学, 韓国国立現代美術館
小野竹喬に関する調査研究	「小野竹喬展」を開催しカタログを発行	笠岡市竹喬美術館, 大阪市立美術館
鑑賞教育に関する美術館と学校の連携や、学校の授業と美術館での鑑賞の連続性に関する調査研究	教育団体との合同研修の開催、小冊子「スクール・プログラム・ガイド」の刊行など	東京都図画工作研究会 東京都中学美術教育研究会
国立美術館版「想－IMAGINE」の開発を進め、本版として公開	システムの公開	
国立美術館の情報資源と国立情報学研究所によるWebcatPlus, 文化遺産オンライン等に掲載の文化情報資源を、「想－IMAGINE」において連携して検索・閲覧できるシステムの公開について調査研究を実施	システム公開へ向けての検討	国立情報学研究所
1960～70年代のビデオアート：作品の所在調査とデータ・ベース	成果の一部が展覧会に出品、今後の収蔵作品候補に関する情報収集	京都国立近代美術館, 国立新美術館

ス構築		
ビデオアートに関する調査研究	平成20-21年度に展覧会を開催し、カタログを発行 60~70年代のビデオアート作品20本を収集	EAI(Electronic Arts Inter-mix), New York ICC(NTTインターコミュニケーションセンター)
萬鉄五郎の身体表現に関する調査研究	平成20年度『研究紀要』掲載論文に基づき、平成21年度に小企画を開催し、小冊子を発行	
水浴図に関する調査・研究	平成21年度に小企画を開催し、小冊子を発行	
油彩技法から見た近代日本絵画に関する調査・研究	平成21年度に特集展示を行い、成果をパネル展示	斉藤敦氏（修復家）
現代工芸における装飾的傾向に関する調査研究	特別展「現代工芸への視点-装飾の力」展	
現代の茶陶に関する調査研究	平成22年度に特別展を開催予定	山口県立萩美術館・浦上記念館との共同研究
イギリスの陶芸家ルーシー・リーに関する調査研究	平成22年度に特別展「ルーシー・リー」展を国立新美術館で開催予定	国立新美術館、益子陶芸美術館、大阪市立東洋陶磁美術館
近代におけるデザインの成立と展開についての調査研究	特別展「早川良雄展」を開催	大阪市立近代美術館建設準備室との共同研究
日本における先駆的なグラフィックデザイナー杉浦非水の調査研究	所蔵作品展「アール・デコ時代の工芸とデザイン」に反映	宇都宮美術館
国際フィルム・アーカイブ連盟（FIAF）会員、その他同種機関、現像所等からの情報に基づく、未発見の日本映画フィルムの所在調査	平成22年度実施の上映会「発掘された映画たち2010」の開催（予定）	広島市映像文化ライブラリー
文化庁との共同事業による「近代歴史資料調査」の結果に基づき、新たに残存が確認された映画フィルムの詳細調査	『史劇 楠公訣別』（1921年）について、文化審議会による重要文化財答申及び平成22年度実施の上映会「発掘された映画たち2010」の開催（予定）	
映画フィルムの登録・長期保管・保存、アナログ及びデジタル技術を活用した復元に関する調査研究（FIAF会員、国内外の同種機関、映画研究教育機関、美術館・博物館、映像機器メーカー、現像所等との共同研究）	平成22年度実施の上映会「発掘された映画たち2010」の開催（予定）	株式会社IMAGICA, 株式会社IMAGICAウエスト
シルバー・カラー作品『幸福』とその技術、時代背景の調査研究	ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別イベント「特別上映会『幸福』シルバー・カラーの復元」の開催	
可燃性フィルムを元素材とする最適なデジタル修復の方法に関する研究、染調色が施された可燃性フィルムの復元に関する調査研究	平成22年度実施の上映会「発掘された映画たち2010」の開催（予定）	※科学研究費補助金・若手研究(B)「可燃性フィルムの安全保存に関する基礎的研究」（研究代表者・板倉史明 平成20-21年度）として実施
昭和戦前・戦中期の日本文学と日本映画の関係に関する調査研究	上映会「映画の中の日本文学 Part2」及び展覧会「映画資料でみる 映画の中の日本文学 Part2」の開催	
日本のジャンル映画（怪獣映画、SF映画等）に関する調査研究	上映会「日本映画史横断④ 怪獣・SF映画特集 Part2」の開催	
映画産業の枠外で製作された日本映画・インディペンデント映画等の歴史に関する調査研究	上映会「日本インディペンデント映画史シリーズ② ぴあフィルムフェスティバルの軌跡vol.2」の開催	ぴあ株式会社
山中貞雄監督に関する調査研究	上映会「生誕百年 映画監督 山中貞雄」の開催	
映画女優・田中絹代に関する調査研究	上映会「生誕百年 映画女優 田中絹代」及び展覧会「生誕百年 映画女優 田中絹代」の開催	NPO法人芸游会

大島渚監督に関する調査研究	上映会「映画監督 大島渚」の開催	
篠田正浩監督に関する調査研究	上映会「映画監督 篠田正浩」の開催	
ブルガリア映画に関する調査研究	上映会「日本・ブルガリア外交関係再開50周年記念 ブルガリア映画特集」の開催	ブルガリア共和国大使館
ドキュメンタリー映画監督土本典昭に関する調査研究	上映会「ドキュメンタリー作家 土本典昭 [京橋映画小劇場No.14]」及び展覧会「ドキュメンタリー作家 土本典昭」の開催	映画同人シネ・アソシエ
戦前期のハリウッド映画に関する調査研究	上映会「NFC所蔵外国映画選集 アメリカ映画史研究③ [京橋映画小劇場No.17]」の開催	
フランス映画とフランス映画ポスター、またそれらの日本への紹介に関する調査研究	展覧会「戦後フランス映画ポスターの世界 東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵《新外映コレクション》より」の開催	

### イ 京都国立近代美術館

調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
ファッションと美術との重複領域についての調査研究	展覧会「ラグジュアリー：ファッションの欲望」として実現。	京都服飾文化研究財団（KCI）
近代京都の変遷を、美術・工芸・建築を含む都市文化論としての新たな視点で調査・研究	展覧会「京都新聞創刊130年記念 京都学「前衛都市・モダニズムの京都」1895-1930」として実現。 研究成果は6月20日のシンポジウム「ひとつの京都学 美術・工芸・建築・都市」で発表。	ジャポニスム学会
写真家・野島康三の日本近代美術史における位置付け、及び同時代の世界の写真動向の中での位置についての調査研究	展覧会「生誕120年 野島康三 ある写真家が見た日本近代」として実現。	渋谷区立松濤美術館 イタリア・モデナ市写真美術館
ドローイングとアニメーション、映画とメディアアートの物語の生成についてのプロセスに関する調査研究	展覧会「ウィリアム・ケントリッジー歩きながら歴史を考える そしてドローイングは動き始めた……」として実現。	東京国立近代美術館 広島市現代美術館
京都国立近代美術館所蔵の現代美術作品についての包括的研究	展覧会「マイ・フェイバリットとある美術の検索目録／所蔵作品から」として実現。また、調査・研究の成果と資料を「京都国立近代美術館・所蔵品目録Ⅷ」として刊行。	
イタリア・ルネサンスと近代についての調査研究	展覧会「ボルゲーゼ美術館展」として実現。	ローマ市ボルゲーゼ美術館
「京都学」展にあわせ、京都市内に残る近代建築等の施設調査を、一般の参加者を募りフィールドワーク実習として実施する。	友の会会員とともにフィールドワーク実習を実施。	
館所蔵の写真作品を基に、大学の授業と連動した専門的な「プリント・スタディ」の授業を同館において実施する	「プロムオイルプリント～ピクトリアリズム（絵画主義写真）体験講座～」として実現。	大阪芸術大学 京都造形芸術大学
昭和戦前期の官展工芸における「伝統」的作品の調査研究	常設展示場での小企画に反映させるとともに、所蔵作品の中の官展出品作について研究を行った。	秋田公立美術工芸短期大学
1960～70年代のビデオ・アート：作品の所在調査とデータ・ベース構築	宮島達男が15年前に制作した貴重なビデオ作品のデジタル化を支援した。2セット制作することで、作家と美術館が各1セット所蔵可能となるようにし、作家から寄贈を受けた。	東京国立近代美術館
染め型紙のジャポニスムへの影響に関する研究	2012年に研究成果を展覧会「型紙とジャポニスム（仮称）」展として実現予定。	日本女子大学
東西文化の磁場—日本近代建築・デザイン・工芸の脱—、超—領域的作	常設展示場での小企画、研究分担者をパネラーとしたシンポジウムを実施。	

用史の基盤研究		
イディッシュ語文化圏における芸術活動の研究	2012年に研究成果の一部を展覧会「型紙とジャポニスム（仮称）」展として実現予定。	大阪大学

ウ 国立西洋美術館

調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
17世紀風景画に関する調査研究	「ルーヴル美術館－17世紀ヨーロッパ絵画－」展開催。同展の図録を刊行，新聞等への掲載，講演会等による発表を実施	ルーヴル美術館，京都市美術館
所蔵版画作品に関する調査研究	「かたちは，うつる展」（平成21年度開催）企画構成	
フランク・ブラングインと国立西洋美術館のコレクションに関する調査研究	「フランク・ブラングイン展」（平成21年開催）企画構成	ブラングイン美術館，英国王立芸術院
アルブレヒト・デューラーの版画芸術に関する調査研究	「アルブレヒト・デューラー版画・素描展」（平成22年開催予定）企画構成	メルボルン・ナショナル・ギャラリー・オブ・ヴィクトリア，アルベルティーナ版画素描館
古代ローマ美術とポンペイ遺跡に関する研究	「古代ローマ帝国の遺産」展（平成21年開催）企画構成	ローマ国立美術館，ナポリ＝ポンペイ考古学監督局
イタリア，ルネサンス・バロック美術研究	「ナポリ・宮廷と美」展（平成22年開催予定）企画構成	カポディモンテ美術館，ナポリ美術監督局
ギリシャ美術研究	「大英博物館ギリシャ美術展（仮）」（平成23年開催予定）	大英博物館
国立西洋美術館所蔵バウツ派研究	作品・文献調査，小企画展，刊行物	ロンドン・ナショナル・ギャラリー
国立西洋美術館所蔵キクラデス彫刻に関する研究	作品調査，文献収集，『西洋美術館研究紀要』への寄稿	アテネ国立博物館
「レンブラント及びレンブラント派における和紙による版画素描作品の研究」	「レンブラント：光の画家（仮）」展（平成23年開催予定）企画構成	アムステルダム国立美術館，レンブラント・ハウス
「初代アッティカ黒像式陶器の技法と図像に関する調査研究」	作品調査，文献収集	
「Kleitias and Attic Black-Figure Vases in the Sixth-Century B. C.」	「ギリシアの陶画家クレイティアスの研究」の英訳・刊行。	
「火山噴火罹災地の文化・自然環境の復元の総括」6年目	「古代ローマ帝国の遺産」展（平成21年開催）企画構成	東京大学大学院，お茶の水女子大学，東京工業大学大学院，東京大学地震研究所
「火山噴火罹災遺跡における生活・文化環境の復元研究」6年目	「古代ローマ帝国の遺産」展（平成21年開催）企画構成	東京大学大学院
「国立西洋美術館所蔵作品データベース」	国立西洋美術館所蔵作品データベース	
「ル・コルビュジエによる国立西洋美術館本館の設計に関する調査研究」	「ル・コルビュジエと国立西洋美術館」展（平成21年開催）企画構成	ル・コルビュジエ財団（パリ），東京理科大学，日本大学，京都工芸繊維大学
「カーレル・ファン・マンデル『北方画家列伝』の成立と影響に関する比較芸術論的研究」1年目	常設展・企画展，刊行物，講演発表，解説等	東北大学
「美術館の機関アーカイブズに関する調査研究」1年目	美術資料の提供事業	
「アメリカのミュージアムにおける教育プログラムの公共性と民間資金に関する基礎的研究」1年目	教育普及事業	
旧松方コレクションを含む松方コレクション全体に関する調査研究	収集，作品・文献調査，常設展・企画展，刊行物，講演発表，解説等	
中世末期から20世紀初頭の西洋美術に関する調査研究	収集，作品・文献調査，常設展・企画展，刊行物，講演発表，解説等	ロンドン・ナショナル・ギャラリー，メルボルン・ナショナル

		・ギャラリー
所蔵版画作品に関する調査研究	「かたちは、うつる」展（平成21年度開催）関連事業	
西洋美術作品の保存修復に関する調査研究	修復処置の実施，シンポジウム（平成21年度開催）企画	J・P・Getty美術館
美術館教育に関する調査研究	教育普及プログラムを実施。ワークシート等制作，インターンシップ，ボランティア指導，解説（企画展作品解説パネル制作等）	東京大学，東京藝術大学，東京国立博物館，全国美術館会議，ロンドン・ナショナル・ギャラリー
館蔵資産の資源化に関する調査研究	美術館アーカイブズ，コレクション・マネジメント・システム，美術図書館におけるエフェメラの整理	ケベック・ナショナル・ギャラリー，IFLA（国際図書館連盟）

#### エ 国立国際美術館

調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
アジアの現代美術並びに美術館運営に関する調査研究	美術館，展覧会運営	アジア次世代キュレーター会議
ピエロ・マンゾーニに関する調査研究	展覧会の企画構成	
杉本博司に関する調査研究	「杉本博司 歴史の歴史」	金沢21世紀美術館
「やなぎみわ」作品に関する調査研究	「やなぎみわ 婆々娘々！」	東京都写真美術館
慶應義塾に関連する作品に関する調査研究	「慶應義塾創立150年記念関連企画展 慶應義塾をめぐる芸術家たち」	慶應義塾大学
ルーヴル美術館作品に関する調査研究	「ルーヴル美術館展 美の宮殿の子どもたち」	ルーヴル美術館，国立新美術館
長澤英俊に関する調査研究	「長澤英俊展－オーロラの向かう所－」	埼玉県立近代美術館，川崎市立美術館，神奈川県立近代美術館，長崎県美術館
現代日本絵画に関する調査研究	「国立国際美術館新築移転5周年記念 絵画の庭－ゼロ年代日本の地平から」	
ルノワールの技法と芸術に関する調査研究	「ルノワール－伝統と革新」（平成22年度開催予定）	国立新美術館，ポーラ美術館
メディアアートに関する調査研究	「束芋：断面の世代」（平成22年度開催予定）	
ルネッサンス期から今日にいたるまでの自画像表現に関する調査研究	「ウフィツィ美術館 自画像展」（平成22年度開催予定）	損保ジャパン東郷青児美術館
現代のコンセプチュアル・アートに関する調査研究	「風穴－もうひとつのコンセプチュアリズム，アジアから」（平成22年度開催予定）	

#### オ 国立新美術館

調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
日本の現代美術の動向に関する調査研究	「アーティスト・ファイル2010－現代の作家たち」展を開催，同展の図録を刊行。	
ルーヴル美術館所蔵作品のうち「子ども」をテーマとした作品に関する調査研究	「ルーヴル美術館展 美の宮殿の子どもたち」を開催，同展の図録を刊行。	ルーヴル美術館，国立国際美術館
ルネ・ラリックとヨーロッパ近代装飾美術並びに工芸に関する調査研究	「生誕150年 ルネ・ラリック 華やぎのジュエリーから煌きのガラスへ」を開催，同展の図録を刊行。	オルセー美術館，グルベンキアン美術館
ハプスブルク家収集の近世ヨーロッパ美術工芸に関する調査研究	「THE ハプスブルク 華麗なる王家と美の巨匠たち」展を開催，同展の図録を刊行。	ウィーン美術史美術館，ブダペスト国立西洋美術館，京都国立博物館

ルノワールの技法と芸術に関する調査研究	「ルノワール展－伝統と革新」を開催，同展の図録を刊行。	国立国際美術館，ポーラ美術館
野村仁の作品に関する調査研究	「野村仁 変化する相－時・場・身体」を開催，同展の図録を刊行。	
松本陽子の作品に関する調査研究	「光 松本陽子／野口里佳」展を開催，同展の図録を刊行。	
野口里佳の作品に関する調査研究	「光 松本陽子／野口里佳」展を開催，同展の図録を刊行。	
マン・レイの生涯と芸術に関する調査研究	展覧会（平成 22 年度開催予定）企画構成	マン・レイ財団，国立国際美術館
シュルレアリスムに関する調査研究	展覧会（平成 22 年度開催予定）企画構成	ポンピドゥー・センター
ポスト印象派の絵画とその時代に関する調査研究	展覧会（平成 22 年度開催予定）企画構成	オルセー美術館
ルーシー・リーの生涯と芸術に関する調査研究	展覧会（平成 22 年度開催予定）企画構成	東京国立近代美術館
ファン・ゴッホとその芸術の形成に関する調査研究	展覧会（平成 22 年度開催予定）企画構成	国立ゴッホ美術館，クレラー＝ミュラー美術館，名古屋市美術館
ナショナル・ギャラリーのコレクションにおける印象派ならびにポスト印象派の絵画に関する調査研究	展覧会（平成 23 年度開催予定）企画構成	ナショナル・ギャラリー（ワシントン）
美術館の教育普及事業（ワークショップ，鑑賞ガイド等）に関する調査研究	教育普及事業	
日本の近現代美術資料に関する調査研究	美術資料の収集・提供事業	
戦後の公立美術館における展覧会データの収集及び公開に関する調査研究	美術情報の収集・提供事業	
美術情報の収集・提供システムに関する調査研究	美術情報の収集・提供事業	
美術館におけるデジタル・アーカイブの構築に関する調査研究	美術情報の収集・提供事業	

## （6）快適な観覧環境の提供

### ① 高齢者，身体障害者，外国人等への対応

平成 20 年度に引き続き，各館とも次のような対応を実施している。

- ・多目的（身体障害者用）トイレ，エレベータ（エスカレーター），スロープ（手摺り）の設置
- ・車椅子，ベビーカーの貸出
- ・自動体外式除細動器（AED）の設置
- ・盲導犬，介助犬の同伴による観覧
- ・多言語による館案内表示
- ・多言語による館内リーフレット，ミュージアムカレンダー等の配布
- ・東京都が実施する「ウェルカムカード」に参加し，外国人来館者の所蔵作品展観覧料を割引
- ・国土交通省の実施する「YOKOSO! JAPAN WEEKS 2010」に参加し，外国人旅行者の所蔵作品展観覧料の割引等を実施

### ② 展示，解説の工夫と音声ガイドの導入

各館とも次のような対応を実施している。

- ・共催展における音声ガイドの導入
- ・館内リーフレット，フロアプラン，ミュージアムカレンダー等の配布

その他，フィルムセンターでは，展覧会の開催に際し，展示作品の出品目録の配布（4回）を  
するとともに，共催上映及び特別展の開催に際し，カタログの制作を行った。

国立西洋美術館においては，開館 50 周年を記念して，館内ロビーでDVD「研究員が語る国  
立西洋美術館の 50 年」を放映するとともに，ボランティアによる「美術トーク／建築ツアー」  
を開始した。また，所蔵作品ガイド「Touch the museum」のダウンロード・サービスを開始し  
た。

国立新美術館においては，「野村仁展」鑑賞ガイドブック『アートのとびら vol.4』（日英併  
記），「アーティスト・ファイル 2010」鑑賞用パンフレット『ちいさなアーティスト・ファイ  
ル 2010』を作成配布した。

### ③ 入場料金，開館時間等の弾力化

文化の日（11月3日）及び国際博物館の日（5月18日（東京国立近代美術館は5月19日，国  
立国際美術館は5月17日に実施））に観覧料を無料（国立西洋美術館，国立新美術館を除く。）  
にするとともに，開館時間等については，夜間開館の実施，年始やゴールデンウイーク等休館  
日の臨時開館を実施した。また，所蔵作品展及び自主企画展について，高校生以下及び18歳未  
満の者の観覧料の無料化を実施した。

その他平成 21 年度の各館の取組は以下のとおりである。

#### （ア）東京国立近代美術館

- ・年始は1月2日（「美術館へ行こう ～ A Day in the Museum」の実施）  
から開館し，図録やオリジナルグッズをプレゼント
- ・「ゴッガン展」では，会期中の金・土曜を20時まで開館
- ・本館・工芸館では，千代田区「さくらまつり2010公式ガイドマップ」持参者について  
「小野竹喬展」及び工芸館所蔵作品展の一般料金を割引
- ・本館では，天皇陛下御在位 20 年を記念して 11 月 12 日を所蔵作品展・特別展の無料化
- ・工芸館では，JR 東日本が企画する「駅からハイキング」に参加，所蔵作品展の一般料  
金を割引
- ・フィルムセンターでは，1 日の上映回数を弾力化
- ・フィルムセンターでは，「中央区まるごとミュージアム」への協力をを行い，11 月 1 日  
の観覧料を無料化
- ・フィルムセンターでは，天皇陛下御在位 20 年を記念して 11 月 12 日を展示室の無料化

#### （イ）京都国立近代美術館

- ・関西文化の日（11月14日，11月15日）の所蔵作品展観覧料の無料化
- ・京都市駐車場公社と連携による駐車場料金の割引
- ・天皇陛下御在位 20 年を記念して 11 月 12 日を所蔵作品展と「ボルゲーゼ美術館展」観  
覧料の無料化

#### （ウ）国立西洋美術館

- ・開館記念日（6月10日）を所蔵作品展の無料化
- ・世界遺産登録活動を推進するため，1月9日から2月14日まで所蔵作品展の無料化
- ・天皇陛下御在位 20 年を記念して 11 月 12 日を常設展の無料化

#### （エ）国立国際美術館

- ・毎月第一土曜日に所蔵作品展観覧料の無料化
- ・関西文化の日（11月14日，11月15日）に所蔵作品展観覧料の無料化

- ・天皇陛下御在位 20 周年記念（11 月 12 日）に所蔵作品展，「長澤英俊展」観覧料の無料化
- ・企画展開催期間中の金曜日は夜 7 時まで延長開館を実施

(オ) 国立新美術館

- ・「平成 21 年度〔第 13 回〕文化庁メディア芸術祭」の観覧料を無料とした
- ・六本木アート・トライアングル参加館との観覧料の相互割引及び共通マップの作成・配布
- ・公募団体展と企画展の観覧料の相互割引
- ・東京メトロ，都営地下鉄ワンデーパスによる観覧料割引
- ・ペア観覧券等による観覧料割引
- ・共催展で，高校生無料観覧日の設定を推進
- ・東京都及び近隣の施設等と連携して「六本木アートナイト 2010」（3 月 27 日（土）～ 28 日（日））を実施し，3 月 27 日については，「アーティスト・ファイル 2010—現代の作家たち」及び「ルノワール—伝統と革新」の開館時間を夜 10 時まで延長
- ・天皇陛下御在位 20 周年記念（11 月 12 日）に「THE ハプスブルク 華麗なる王家と美の巨匠たち」展の観覧料の割引

④ キャンパスメンバーズ制度の実施

平成 18 年 2 月より，国立美術館全体の事業として発足した，大学，短期大学，高等専門学校及び専修学校等を対象とした会員制度「国立美術館キャンパスメンバーズ」について，メンバー校は新規 15 校を加え 59 校，各館利用者数は 56,123 名となった。また，学生へのキャンパスメンバーズ制度周知のために，慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科と連携し，広報サイト「アートキャンパス」の開設（平成 21 年 12 月 17 日）に協力した。

⑤ ミュージアムショップ，レストラン等の充実

ミュージアムショップについては，国立西洋美術館では，開館 50 周年に合わせ，オリジナルデザインのエコバッグを作成，所蔵作品の「睡蓮」「果物籠のある静物」をモチーフにしたミニクッションの新商品の開発，国立国際美術館では，オリジナルグッズの充実のほか，企画展に合わせた書籍販売等来館者のニーズに合わせた運営，国立新美術館では，「六本木アートナイト 2010」において，イベントに合わせた延長営業やプレゼントなど，美術館が行う企画に参画した。

レストランについては，東京国立近代美術館，国立西洋美術館，国立国際美術館及び国立新美術館で，企画展に関連した料理をメニューに取り入れた。また，京都国立近代美術館では，市民によるアート鑑賞団体「プラスリラックスアートクラブ」による当館のコレクション作品を紹介する連続的な取り組み，「ファンがつなごう！まちとミュージアムプロジェクト プラっときんび ～なにがあるかな？ 京都国立近代美術館～ Vol. 3:京菓子で味わう池田満寿夫の世界」に関連し，イベント期間中に池田満寿夫にちなんだ京菓子を提供した。

2 我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションの形成・継承

(1) 美術作品の収集

館名	購入点数	購入金額 (千円)	寄贈点数	年度末 所蔵作品数	年度末 寄託品数
東京国立近代美術館 本館	132	193,682	38	10,045	224

	工芸館	45	31,929	59	2,921	117
京都国立近代美術館		115	270,368	63	9,679	1,055
国立西洋美術館		34	188,083	0	4,600	36
国立国際美術館		74	152,538	69	6,109	97
計		400	836,660	229	33,354	1,529

館名	購入本数	購入金額 (千円)	寄贈本数	年度末 所蔵本数	年度末 寄託品本数
東京国立近代美術館(フィルムセンター)	1,194	1,259,910	1,648	62,482	8,018

## ア 収集作品の特徴

### (ア) 東京国立近代美術館

#### (本館)

①1940年代以前の日本画の収集②1960年代から今日までの映像作品の収集（パブリック・スペースへの設置作品を含む）③1970年代以降の日本人作家の作品の収集に努めた。

購入作品については、長年所蔵不明だった作品の吉川霊華《菟姑射之処子》、鏑木清方《晩涼》、長谷川利行《カフェ・パウリスタ》が所蔵できた。Electronic Arts Intermix配給映像作品20点は、ビデオアートの歴史を語る上で欠かせない著名作品を、初めて「上映権の買取り」というかたちで収蔵した。ロバート・ラウシェンバーグ《ポテト・バッズ》は、作家逝去により価格高騰中のところ、調査に基づき適正価格で購入した。写真作品では、奈良原一高「人間の土地」他著名シリーズのマスター・プリントをまとめたかたちで収蔵した。

寄贈作品については、藤田嗣治《ラ・フォンテーヌ頌》《動物宴》は、当館に欠けていた作家の戦後作品を補うものであり、河口龍夫《関係 - 質》他3点は、21年度開催の個展を機に、作家よりまとめて寄贈を受けた。

#### (工芸館)

①日本工芸の近代化を示す作品の補完②戦後から現代にいたる伝統工芸やクラフト、造形的な表現の重要作品の収集③近代ヨーロッパの工芸及びデザイン作品の収集④橋本真之の鍛金大作《果樹園—果実の中の木もれ陽、木もれ陽の中の果実》（1978-1988）の収集に努めた。

購入作品については、日本工芸の近代化を示す作品の補完として富本憲吉の《白磁壺》を収蔵した。現代の伝統工芸を代表する森口邦彦や佐々木苑子らの着物作品、陶芸の島田文雄、人形の中村信喬と岩瀬なほみら現代の伝統工芸を代表する作家の代表作、また現代の造形的な表現による小川待子や川崎毅、平井智、北川宏人らと、一つのテーマに沿った滝口和男の24点の小品群の陶芸作品、松島巖のガラス作品を収蔵した。3年度を通じた橋本真之の金工大型作品の購入を完了した。

寄贈作品については、重要無形文化財保持者で彫金の増田三男の戦前から晩年までの主要作品および増田が所蔵した富本憲吉の陶芸と書の作品や、同じく保持者の染織（佐賀錦）の古賀フミの7点と木工芸の大坂弘道の代表作10点の寄贈を受け入れた。戦後の日展をリードした金工の豊田勝秋と伊藤萌木の作品や、現代の造形的な表現の小池頌子の陶芸作品などを収蔵した。

#### (フィルムセンター)

映画フィルムの購入作品については、上映企画に合わせ、『水俣 患者さんとその世界』（1971年）を初めとする土本典昭監督作品15作品、『処刑の島』（1967年）を初めとする篠田正浩監督作品11作品、『女醫の記録』（1941年）を初めとする田中絹代出演作品19作品のフィルム

を購入した。ビネガー・シンドロームや褪色の危険性が高い1950年代後半から60年代にかけての作品については、新東宝作品や加藤泰、千葉泰樹監督作品等を重点的に収集した。また、戦後の日本アニメーション映画のメインストリームとなった東映動画時代の作品で、未収蔵作品のプリント13本を購入し、アニメーション映画のコレクションの充実を図ることができた。

このほか、また、日本の実験映画の嚆矢と言える松本俊夫監督の『銀輪』（1955年）についても、全篇デジタル復元を行うとともに、三色分解による白黒ネガへの保存、及びその白黒ネガから再度スキャニングしたデータによるデジタル上での三色合成を試み、復元の成果を相互に比較した。

寄贈された映画フィルムについては、葵映画合資会社、株式会社吉甚等、日本劇映画、文化・記録映画の製作会社からの原版寄贈に加え、鳥類研究で著名な財団法人山階鳥類研究所、戦後ソビエト映画の輸入・紹介を務めてきた日本ユーラシア協会等から、可燃性フィルムを含むユニークなコレクションを受け入れたことが大きな特徴である。また、一般社団法人芸遊会からは、田中絹代のアメリカ旅行を記録した貴重なフィルムの寄贈を受けた。

映画関連資料の寄贈については、女優香川京子氏所蔵のアルバムほか220点が寄贈されたこと、株式会社IMAGICA 東京映像センターよりアメリカ映画テレビ技術協会機関誌「SMPTE Journal」419点を受領したことがもっとも特筆される。

#### (イ) 京都国立近代美術館

所蔵の近代美術作品の系統的展示の要となる優品を重点的に収集するとともに、旧川西コレクション、アイリーン・スミス・コレクションなど、長年続けている重点作品の購入を継続し、メディアアートの作品の収集にも留意するとの方針に基づき収集を行った。

購入作品については、日本画家・土田麦僊が旧蔵していたオディロン・ルドン「若き日の仏陀」を本部留保金を活用することで購入した。また、今年度開催した「ウィリアム・ケントリッジ―歩きながら歴史を考える―そしてドローイングは動き始めた……」展の核となるヴィデオインスタレーションの最新作を購入した。

寄贈作品については、明治期京都の重要画家である田村宗立の日本画5点の寄贈、国画創作協会の中心画家である岡本神草の資料多数、1960年代世界的規模で展開された前衛美術家たちの運動「フルクサス」の資料多数などの寄贈を受けた。

#### (ウ) 国立西洋美術館

当館の近代美術コレクションの幅を広げるため、20世紀初頭の重要な美術動向を代表する絵画作品を収集する。また、オランダ、フランドル、フランスを中心に、ヨーロッパ版画コレクションの充実に努めるとの方針に基づき収集を行った。

購入作品については、20世紀初頭の重要な美術動向であるキュビズムを代表する作品として、ジョルジュ・ブラックの絵画《静物》を購入した。

#### (エ) 国立国際美術館

日本美術の発展と世界の美術との関連を明らかにするため、①1945年以降の日本の現代美術の系統的収集（日本の戦後美術を跡づける主要作）②1945年以降の欧米の現代美術の系統的収集（オセアニアなど欧米圏以外の現代美術の収集）③国際的に注目される国内外の同時代の美術の収集を行った。

購入作品については、荒川修作、工藤哲巳など、日本の戦後美術を代表する作家の作品を収集した。また、平成19年度に当館で個展を開催したオーストラリアの画家エミリー・カーメ・ウングワレーの作品《私の故郷》を収蔵したことにより、欧米地域以外のオセアニア地

域の現代美術を収集することができた。

寄贈作品については、フルクサスの中心メンバーである塩見允枝子氏から、同氏が長年保管してきたフルクサス及びジョージ・マチューナスなどの代表的作品や資料について纏めて寄贈を受けた。また、すでに寄贈作品を多数所蔵している横尾忠則の近年制作されたポスターを受贈した。

## (2) 収蔵庫等保存施設の狭隘・老朽化への対応と適切な保存環境の整備等

### ① 収蔵庫等の狭隘・老朽化への対応

#### ア 東京国立近代美術館

本館では、収蔵庫の狭隘化により作品が集密化し、空調の不徹底や虫害の発生を防ぐため、定期的な清掃等を行い、その解消に努めた。

東京国立近代美術館を含め、国立美術館の収蔵庫が今後数年で限界に達することが見込まれることから、東京国立近代美術館フィルムセンター相模原分館に隣接する「キャンプ淵野辺留保地」の利用について相模原市、宇宙航空研究開発機構及び東京国立近代美術館の3者で将来的な利用計画についての協議を進めている。

工芸館では、平成21年度は購入・寄贈104点、寄託4点の大量の新収蔵を受け入れたが、そのうち陶芸、ガラス、人形で7点の大型作品があったため、床面での積み重ねを行い対処した。

フィルムセンターでは、平成21年度補正予算で相模原分館増築が認められたことを受け、「東京国立近代美術館フィルムセンター相模原分館増築工事に伴う設計業務選定委員会」を設置し、プロポーザル方式により設計業者を決定することともに基本設計及び実施設計を完了した。

#### イ 京都国立近代美術館

資料等の収納を可能とするため、地階準備室、倉庫1、倉庫2の改修工事を実施した。

#### ウ 国立西洋美術館

平成21年度は、前年度に実施された新館空調調和機更新工事の竣工にともない、空調設備の安定化及び収蔵庫内の躯体劣化の修繕を行い、収蔵庫内の環境を改善することができた。しかし、常設展示室の一部閉室等に伴って多数の作品を収蔵庫へ収める場合には、絵画ラックの面積不足が問題となるため、旧来のS管に換え地震対策も含めた新たなフックを導入し、ラックに2段3段と重ねて収蔵することにより面積不足を解消した。また、彫刻類を効率よく収蔵するために彫刻固定用鉄骨ラックを設置した。

#### エ 国立国際美術館

既に収蔵スペースの許容量に達している状況であるが、収納方法を工夫し作品の保存環境を維持している。

### ② 保存環境の整備等と防災対策の推進・充実

#### ア 東京国立近代美術館

(本館・工芸館)

収蔵庫エリアへのアクセスに関する徹底した制限、可燃物の管理等を行った。

(フィルムセンター)

消防用設備、自家発電設備など定期点検を実施し、点検により判明した不活性ガス消火設備、蓄電池設備などの老朽箇所の修理を行った。

#### イ 京都国立近代美術館

平成21年9月28日に消防署指導のもとで避難誘導訓練・消火訓練を実施した。

#### ウ 国立西洋美術館

平成 19 年度から継続して屋内彫刻免震化すべり板装着作業を行った。6 月に免震滑り板の加震実験を愛知工業大学で行い、すべり板を装着することで、阪神大震災、新潟中越地震で記録された地震波にも転倒しないことが確かめられた。また、7 月には J・P・Getty 美術館との共催で、国際シンポジウム「博物館コレクションの地震対策」を開催した。

#### エ 国立国際美術館

火災発生時の適切な避難誘導、初期消火にあたるため、職員、警備員、看視員等による全館避難訓練を実施した。

### (3) 所蔵作品の修理・修復

#### ① 東京国立近代美術館

絵画 13 件、工芸 4 件、映画フィルムデジタル復元 13 本、ノイズリダクション等 271 本、不燃化作業 42 本、映画フィルム洗浄 1 本

(本館)

山元春挙《塩原の奥》および跡見玉枝《桜花図鑑》について、修復方針の提案内容を詳細に比較する「企画競争入札」を行い、業者を決定した。また、新発見作品である福沢一郎《メトロ工事人》《人》、および長谷川利行《カフェ・パウリスタ》については、損傷が激しかったため、技法調査を行うとともに修復を実施した。

(工芸館)

平成 20 年度から着手した、現状保存及び修復の緊急度の高い志村ふくみの絨織作品のうち 2 点のシミと黴、汚れの除去、洗い張り、裏地の交換等を行った。漆芸では、特に公開等の活用頻度が高く漆の劣化やすり傷が目立った松田権六の飾箱 2 点の保存修復を実施した。

(フィルムセンター)

映画初の重要文化財指定を受けた『紅葉狩』（1899年、柴田常吉撮影）について、スキャンニングする素材として白黒マスターポジとカラーマスターポジの二種類を使用し、デジタル修復を行った結果の違いを相互に比較しながら、全篇デジタル復元を施した。

市川崑監督『幸福』（1981年）について、上映用プリントの現像において、温度、速度を微妙に調整しながらカラー現像、白黒現像を連続して行うことで、独特な発色をもたらす「シルバー・カラー」という技法を、当時の現像プロセス自体を再現することで、限りなく忠実な復元を行った。

また、日本の実験映画の嚆矢といえる松本俊夫監督『銀輪』（1955年）について、デジタル修復後のデータをカラーネガで保存・復元する従来のデジタル復元版に加え、修復後のデータを三色分解して白黒ネガに保存したのち、合成したプリントを作成するアナログ三色分解版、及び三色分解ネガを再びスキャンニングし、デジタル上で三色合成したのち、カラーネガで保存・復元するデジタル三色合成版を作成し、カラーの再現性や保存性に関する比較研究を行いながら、全篇デジタル復元を施した。

神奈川県茅ヶ崎にあった結核療養所・南湖院に保管されていた、『大禮記念 国産振興東京博覧会』（1928年）等戦前の日本劇映画、文化・記録映画の可燃性プリント10本について、不燃化作業を行った。

#### ② 京都国立近代美術館

絵画 4 件、水彩 1 件、素描 2 件

頻繁に展覧会への出品要請がありながら、脆弱な作品状態のため館外貸出しを停止していた土田麦僊の大作で代表作である「大原女」の修理処置を完了することができ、館外の展覧会への出品依頼に対応できるようになった。

#### ③ 国立西洋美術館

絵画 3 件，水彩 3 件，素描 7 件，版画 3 件

版画・水彩・素描作品の修復を計画的に進め，処置が完了した作品リュシアン・シモン《墓地のブルターニュの女たち》などの展示公開を行った。

④ 国立国際美術館

素描 5 件，版画 7 件，彫刻 1 件

版画，素描などの修復のほか，大型の彫刻作品「遠藤利克《寓話Ⅱーゼーレの棺》1985 年」の修復を行った。

(4) 美術作品の保管・修理等に関する調査研究

各館における調査研究の実施状況は，以下のとおりである。

ア 東京国立近代美術館

(本館)

(ア) 所蔵作品に関する調査研究

「寝る人・立つ人・もたれる人—萬鉄五郎の人体表現」（『東京国立近代美術館研究紀要』第 13 号所収）は，当館所蔵の重要文化財《裸体美人》に関する研究論文をもとに，平成 21 年度は最新の研究成果をわかりやすく一般の来館者に伝える試みとして，コレクションによる小企画「寝るひと・立つひと・もたれるひと」を開催し，小冊子を作成した。他にコレクションによる小企画「水浴考」，特集展示「坂本繁二郎」「油彩技法から見た近代日本絵画」「小林和作」「須田国太郎」，新企画「テーマで歩こう 庭—画家の小宇宙」など，すべて所蔵作品の研究成果に基づき展示を行ったものである。特に「油彩技法から見た近代日本絵画」は修復家との密な連携という点，「庭—画家の小宇宙」は新たな展示・解説手法の開発という点において，それぞれ大きな成果をあげた。

(イ) 保管・修理に関する調査研究

山元春挙《塩原の奥》および跡見玉枝《桜花図鑑》については，修復方針を外部の有識者とともに詳細に検討した。また昨年収蔵した福沢一郎《メトロ工事人》《人》，および今年度収蔵した長谷川利行《カフェ・パウリスタ》につき，修復家の協力のもと，技法調査および大規模な修復を行った。鬚光《眼のある風景》につき東京文化財研究所と赤外線写真撮影による調査を，荻原守衛《女》につき東京藝術大学と電子測定による像内部の調査を，それぞれ協力して行った。新海竹太郎《ゆあみ》の石膏原型（重要文化財）については，修復家の協力のもと，経年による劣化に対処する保存・展示活用方法の研究を行った。

(ウ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映

「70 年代美術における『しみ』の意味」「素描における触覚性」「負の造形」については，それぞれコレクションを中心とした小企画として平成 22 年度に展示を行い，小冊子を作成するため，その準備に着手した。また，福沢一郎《メトロ工事人》および《人》，長谷川利行《カフェ・パウリスタ》，鬚光《眼のある風景》，新海竹太郎《ゆあみ》については，それぞれ平成 22 年度に詳しい解説を付した特集展示を行うために準備を開始した。

(工芸館)

(ア) 所蔵作品に関する調査研究

陶芸，染織に続き所蔵作品による名品集を企画し，人形作品の研究を行い『工芸

館名品集—人形』を刊行した。毎年実施している工芸館所蔵作品巡回展に加え、東京・銀座の和光ホールにおいて所蔵の工芸名品展を企画し、開催に向けて出品作品の調査を行った。

(イ) 保管・修理に関する調査研究

平成 19・20・21 年度に新収蔵した木村雨山の帝展出品等の戦前の壁掛作品および戦後の日本伝統工芸展出品等の友禪の着物作品と、順次保存修復を実施している志村ふくみの紬織作品、友禪の森口華弘作品については、将来の活用が特に見込まれる重要な作品などであるため、シミや黴等の点検・調査研究を行い現状保存修復についての計画策定を図った。

(ウ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映

所蔵作品 41 点による『工芸館名品集—人形』を刊行した。巡回展「東京国立近代美術館工芸館名品展」を飛騨高山美術館で開催し、また東京・銀座の和光と連携した所蔵作品による「工芸名品展」を企画・開催した。

(フィルムセンター)

(ア) 所蔵作品に関する調査研究

- ・昭和戦前・戦中期の日本文学と日本映画の関係に関する調査研究
- ・日本のジャンル映画（怪獣映画，S F 映画等）に関する調査研究
- ・山中貞雄監督に関する調査研究
- ・映画女優田中絹代に関する調査研究
- ・大島渚監督に関する調査研究
- ・篠田正浩監督に関する調査研究
- ・ドキュメンタリー映画監督土本典昭に関する調査研究
- ・戦前期のハリウッド映画に関する調査研究
- ・シルバー・カラー作品『幸福』とその技術，時代背景の調査研究
- ・戦後フランス映画とそのポスター，フランスのグラフィック芸術，また戦後フランス映画の日本への紹介に関する調査研究

(イ) 保管・修理に関する調査研究

<映画フィルムの保管に関する調査研究>

- ・フィルムの検査結果のデータ化に関する研究
- ・フィルム検査において必要な画像取り込みシステムに関する研究
- ・小型映画のフィルム検査に関する研究

<映画フィルムの修理に関する調査研究>

- ・デジタル復元におけるフィルム素材の選択に関する研究
- ・カラー復元における三色分解ネガからのアナログ合成及びデジタル合成に関する研究
- ・カラーフィルムの特殊現像処理である「シルバー・カラー」に関する研究
- ・着色技法の一つである調色に関する研究
- ・8mmフィルムの復元に関する研究

<映画関連資料に関する調査研究>

- ・展覧会「戦後フランス映画ポスターの世界」の開催を踏まえて，展示されるポスターの簡易修復
- ・平成 20 年度に開始されたプレス資料のリスト化を進め，過去に寄贈されたプレスシ

- ート・チラシ・試写状といったさまざまな形態を持つプレス資料の整理
  - ・アニメーション作家の大藤信郎をはじめ複数の映画人の個人資料のカタロギング
- (ウ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映

<映画フィルムの保管における反映>

- ・「フィルム調査カード」及び「プリント報告書」の更新，プリントの取り扱いに関する仕様マニュアルの作成に反映した。
- ・KEM 社製編集台への画像取り込みシステムの付設に反映した。
- ・寄贈受入予定の小型映画フィルムの検査に反映した。

<映画フィルムの修理における反映>

- ・『紅葉狩』（1899年）の全篇デジタル復元に反映した。
- ・『銀輪』（1955年）の全篇デジタル復元及び三色合成に反映した。
- ・『幸福』（1981年）の現像プロセス再現による「シルバー・カラー」の復元に反映した。
- ・『新版大岡政談 後篇』（1928年）等の玩具フィルムの復元に反映した。
- ・『水の幻想』（1981年）のオリジナル 8mm フィルムの復元に反映した。

イ 京都国立近代美術館

(ア) 所蔵作品に関する調査研究

重要作品や資料を含みながら未整理であった所蔵作品の分類種別【その他】および資料，書籍を中心にした研究・整理を行い，作品データの再確認，撮影およびリスト化を完了した。

(イ) 保管・修理に関する調査研究

写真を専門とする客員研究員の協力を得て、写真作品の保管管理の整理・体系化についてほぼ終了した。さらに次年度は、版画を中心とするグラフィック関係の貴重作品約 1,000 点からなる川西英旧蔵コレクションの収蔵をすすめ、修理や展示に向けての額装等の作業を行い、展覧会開催の準備、及び収蔵品カタログの編集に着手する。

(ウ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映

所蔵作品種別【その他】に関する研究成果を，展覧会「マイ・フェイバリットとある美術の検索目録／所蔵作品から」として広く公開し，全てを網羅する図録を「京都国立近代美術館・所蔵作品目録Ⅷ」として刊行した。さらに収蔵をすすめる川西英旧蔵コレクションに関する図録の刊行準備に入る。

ウ 国立西洋美術館

(ア) 所蔵作品に関する調査研究

- ・旧松方コレクションを含む松方コレクション全体に関する調査研究
- ・中世末期から 20 世紀初頭の西洋美術に関する調査研究
- ・所蔵版画作品に関する調査研究
- ・ル・コルビュジエによる国立西洋美術館本館の設計に関する調査研究
- ・フランク・ブラングインと松方コレクションに関する調査研究
- ・アレッサンドロ・ベドリ・マッツォーラ《ウェヌスとアモル》の材料および技法に関する調査研究

(イ) 保存・修復に関する調査研究

防災対策上、屋内彫刻などが転倒しないために、簡易すべり板を付けてきたが、これらが免震性能を発揮するかなどについて、多くの美術館・博物館の床に用いられている床材を試験材として用い、愛知工業大学耐震実験センターで、青木教授の指導の下、JMA小千谷波、JMA神戸波を入力し、加震実験を行った。

また、所蔵作品の絵画技法調査の参考とするため、古典的な色彩のサンプルを古典絵画技法に従って作成した。

ビストルフィ作のブロンズレリーフ彫刻の将来的な展示に向けて、ブロンズ製のフレームで作品を囲み、裏面を鉄骨で補強して壁に固定する方法を考案し、フレームの制作を行った。

(ウ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保存・修復に関する調査研究成果の美術館活動への反映

- ・松方コレクション全体に関する調査研究成果として、小企画展「所蔵水彩・素描展—松方コレクションとその後」を実施した。
- ・所蔵版画作品に関する調査研究成果として、企画展「かたちは、うつる—国立西洋美術館所蔵版画展」を実施した。
- ・ル・コルビュジエによる国立西洋美術館本館の設計に関する調査研究成果として、小企画展「ル・コルビュジエと国立西洋美術館」を実施した。
- ・フランク・ブラングインと松方コレクションに関する調査研究成果として、企画展「フランク・ブラングイン展」を実施した。

エ 国立国際美術館

(ア) 所蔵作品に関する調査研究

所蔵作品のうち、横尾忠則、マルレーネ・デュマス、ライアン・ガンダー、杉戸洋、村瀬恭子、荒川修作の作品を取り上げて調査研究を行い、館広報物において作品解説を行った。

(イ) 保管・修理に関する調査研究

紙に関する専門家と共同で版画の保管状況の調査を行うとともに、展示素材に化学物質が含まれる作品については、紙に変色等の悪影響を及ぼす可能性があることから、緊急性の高いものから順次修復を行い、無害な展示素材に変更して保管を行った。

(ウ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映

所蔵作品のうち、慶應義塾関連の作品について慶應義塾大学アートセンターと共同研究を行い、その研究成果として「慶應義塾創立 150 年記念関連企画展 慶應義塾をめぐる芸術家たち」を開催した。

3 我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与

(1) 所蔵作品等に関する調査研究成果の発信

① 研究紀要、学術雑誌、展覧会刊行物、学会等での発信

ア 館の刊行物による研究成果の発信

各館において、展覧会図録（計 38 冊）、研究紀要（計 3 冊）、館ニュース（計 6 種、33 冊発行）等の刊行物により、研究成果を発信した。

館名		展覧会図録	研究紀要	館ニュース	所蔵品目録	パンフレット・ガイド等	その他
東京国立近代美術館	本館	6	1	6	0	7	0
	工芸館	3			0	3	0
	フィルムセンター	1			0	0	0
京都国立近代美術館		8	1	8	1	0	0
国立西洋美術館		6	1	3	0	1	5
国立国際美術館		6	0	6	0	7	0
国立新美術館		8	0	4	-	0	1
計		38	3	33	1	18	6

注1 京都国立近代美術館の展覧会図録には「マイ・フェイバリット」展、巡回展を含み、所蔵品目録には「マイ・フェイバリット」展の図録を「所蔵作品目録Ⅷ」として刊行した。

注2 「パンフレット・ガイド等」には、小企画展の内容や所蔵作品の解説を掲載したパンフレット、子ども向けの鑑賞ガイド等が含まれる。

注3 「その他」には、『国立西洋美術館50年史』『国立西洋美術館展覧会総覧』（国立西洋美術館）、『平成20年度活動報告』（国立新美術館）等が含まれる。

## イ 館外の学術雑誌，学会等における調査研究成果の発信

### (ア) 東京国立近代美術館

[学会等発表]

タイトル	学会等名	発表者職名・氏名	日付	場所	聴講者数
これからの学校と美術館	日本美術教育連合主催教育講演会	主任研究員 一條彰子	平成21年5月10日	東京国立近代美術館講堂	—
美術館におけるミュージアム・リテラシー	第14回日本ミュージアム・マネジメント学会大会指定討論	一條彰子	平成21年6月6日	東京家政学院大学	—
銀座紀伊國屋ギャラリーをめぐる	明治美術学会	主任研究員 大谷省吾	平成21年7月25日	早稲田大学	—
作品を言葉にすること	「顔」沖縄巡回展 主催：(社福)滋賀県社会福祉事業団、ボーダレス・アートミュージアムNO・MA	研究員 保坂健二朗	平成22年1月9日	沖縄県立博物館	26名
[集中講座] 絵画の歴史	NPO 法人アーツイニシアティブトウキョウ	保坂健二朗	平成22年1月22日、23日	AIT 代官山	21名
[基調報告、パネリスト]「モードとしてのドローイング」	[シンポジウム]絵画の時代・ゼロ年代の地平から	保坂健二朗	平成22年1月24日	国立国際美術館	120名
作品を選ぶこと	アメニティーネットワークフォーラム4	保坂健二朗	平成22年2月6日	大津プリンスホテル	100名
総論 美術情報・資料の活用—提供と利用のはざまにおいて/第Ⅲ講 今日の図書館から俯瞰する美術館の資料活動/第Ⅳ講 電子的リソース(二次資料)	全国美術館会議情報・資料研究部会企画セミナー「美術情報・資料の活用—展覧会カタログからWebまで」	主任研究員 水谷長志	平成21年11月10-11日	東京国立博物館・国立西洋美術館	20名

イントロダクションー日本における MLA 連携の現状と課題	第 4 回アート・ドキュメンテーション研究フォーラム 日本におけるアート・ドキュメンテーションー20年の達成 MLA 連携の現状、課題、そして将来	水谷長志	平成 21 年 12 月 5 日	東京国立博物館	150 名
国立美術館の情報発信ー近年の展開と発信	全国美術館会議学芸員研修会	水谷長志	平成 22 年 3 月 12 日	国立新美術館	112 名
公開講座「批評（創造）の現在シリーズー4」	近畿大学 国際人文科学研究センター東京コミュニティカレッジ 四谷アート・ステディウム	研究員 三輪健仁	平成 21 年 10 月 3 日	近畿大学 国際人文科学研究センター東京コミュニティカレッジ 四谷アート・ステディウム	50 名
国井喜太郎の固有工芸論：1930 年代における『日本的なもの』とモダンデザイン	デザイン史学研究会	木田拓也	平成 22 年 3 月 13 日	埼玉大学	30 名
映画保存の国際的な広がり とアーカイブ間の協力ーFIAF の活動を中心にー	立命館大学特殊講義・映像学「映像文化の創造と倫理 I」	主幹 岡島尚志	平成 21 年 4 月 30 日	立命館大学映像学部	100 名
シネマテークー新たな観客を求めて (Cinemathequesー In Search of New Audiences)	第 65 回国際フィルム・アーカイブ連盟会議	主幹 岡島尚志	平成 21 年 5 月 25 日	シネマテーク・アルヘンティーナ (ブエノスアイレス)	150 名
フィルム・アーカイブと映画上映の未来	全国コミュニティシネマ会議 2009 in 川崎	主幹 岡島尚志	平成 21 年 9 月 4 日	新百合トウェンティワンホール	250 名
世界のフィルム・アーカイブを展望する	あいち国際女性映画祭 2009	主幹 岡島尚志	平成 21 年 9 月 6 日	ウィルあいち3階会議室	30 名
21 世紀のフィルム・アーカイブとデジタル化 (Film Archives and Digitization in the 21 <sup>st</sup> Century)	ギリシャ国立フィルム・アーカイブ主催セミナー	主幹 岡島尚志	平成 21 年 10 月 11 日	ギリシャ国立フィルム・アーカイブ(アテネ)	30 名
F I A F とフィルムセンター (Introducing FIAF and NFC)	中国電影資料館主催セミナー	主幹 岡島尚志	平成 21 年 10 月 22 日	中国電影資料館 (北京)	50 名
映画フィルムの保存と地方映像の重要性	巡回上映「生誕百年 映画監督 マキノ雅弘」	主幹 岡島尚志	平成 21 年 12 月 19 日	山口情報芸術センター (スタジオ C)	30 名
映像アーカイブとメディア文化財の活用	日本学術会議社会学委員会メディア文化研究分科会	主幹 岡島尚志	平成 22 年 1 月 30 日	日本学術会議講堂	100 名
映画上映の未来	映画美学校・映画上映専門家養成講座「シネマ・マネジメント・ワークショップ」	主幹 岡島尚志	平成 22 年 3 月 16 日	映画美学校	20 名
映像アーカイブの現状と未来	サイエンス映像学会第 3 回大会シンポジウム	主幹 岡島尚志	平成 22 年 3 月 21 日	サピアタワー (9 階ホール)	50 名
「はかりごと」としてのフィルム・アーカイビングー映画フィルムにおける規格を巡って	立命館大学映像学部現代 GP 特殊講義	主任研究員 とちぎあきら	平成 21 年 4 月 23 日	立命館大学映像学部	80 名
映像学芸員/映像アート・マネージャーの育成	全国コミュニティシネマ会議 2009 in 川崎 分科会 2	主任研究員 とちぎあきら	平成 21 年 9 月 5 日	新百合トウェンティワンホール会議室	60 名

「映画を残す」という仕事～映画上映を志す人のためのフィルム・アーカイブ入門	映画美学校・映画上映専門家養成講座「シネマ・マネジメント・ワークショップ」	主任研究員 とちぎあきら	平成 21 年 9 月 15 日	映画美学校	20 名
国立台湾歴史博物館所蔵戦前日本アニメーション映画について	国際ワークショップ「植民地期台湾の映画フィルム史料に関する研究」	主任研究員 とちぎあきら	平成 21 年 9 月 26 日	日本大学文理学部	30 名
桐生市立図書館旧蔵 CIE 映画のフィルム・アーカイビング	新潟大学人文学部、愛媛大学法文学部学際協定事業シンポジウム「にいがた 戦争から占領へ 映像で探る記憶のたび」	主任研究員 とちぎあきら	平成 21 年 12 月 19 日	新潟県立生涯学習推進センターホール	50 名
生きた記憶としてのフィルム・アーカイブ	神戸映画資料館を支える会 会議 2010	主任研究員 とちぎあきら	平成 22 年 1 月 30 日	神戸映画資料館	30 名
演劇博物館所蔵映画フィルムの調査・目録整備と保存活用	早稲田大学演劇博物館演劇映像学連携研究拠点での成果報告	主任研究員 入江良郎	平成 22 年 2 月 27 日	早稲田大学早稲田キャンパス 6 号館 3 階 レクチャールーム	約 40 名
Non-film (ノンフィルム) フランスの映画資料保存	映画保存協会ゲストレクチャー No. 8	主任研究員 岡田秀則	平成 21 年 4 月 21 日	協和会の蔵	30 名
たのしい科学—岩波映画の理科教室	記録映画アーカイブ・プロジェクト 第 2 回ワークショップ	主任研究員 岡田秀則	平成 21 年 10 月 18 日	東京大学情報学環・福武ホール	180 名
川喜多かしこの映画人生	鎌倉市教養センター一般教養講座	主任研究員 岡田秀則	平成 21 年 11 月 2 日	鎌倉市教養センター	120 名
日本における映画保存	第 4 回映画の復元と保存に関するワークショップ	研究員 板倉史明	平成 21 年 8 月 29 日	京都府京都文化博物館	70 名

[雑誌等論文掲載]

タイトル	執筆者職名・氏名	掲載誌名(発行者)	発行年月日
銀座紀伊國屋ギャラリーという場所	主任研究員 大谷省吾	『昭和期美術展覧会の研究 戦前篇』(東京文化財研究所)	平成 21 年 4 月
新発見の福沢一郎作品をめぐって	大谷省吾	『福沢一郎記念館ニュース』29 号	平成 21 年 4 月
「影響と自立」	大谷省吾	『躍動する魂のきらめき 日本の表現主義』展カタログ(栃木県立美術館他)	平成 21 年 4 月
The Experimental Workshop — The Meeting of Media	大谷省吾	『Experimental Workshop Japan 1951-1958』展カタログ(アネリー・ジュダ・ファインアート、ロンドン)	平成 21 年 10 月
今村紫紅と新南画	主任研究員 鶴見香織	『別冊太陽 日本のこころ 161 速水御舟—日本画を破壊する』(平凡社)	平成 21 年 9 月
『もっと知りたい速水御舟 生涯と作品』(共著)	鶴見香織	尾崎正明, 吉田春彦, 古田亮と共著, 東京美術	平成 21 年 10 月
ジャッド・発注・絵画	企画課長 中林和雄	『Donald Judd』Fuji Xerox Print Collection カタログ	平成 21 年 6 月
Wachstum und Wandel, Über die Imaginationskraft von Papier und Vegetation	中林和雄	『Kami Silence /Action—Japanische Kunst der Gegenwart auf Papier』展カタログ(Staatliche Kunstsammlungen Dresden Kupferstich-Kabinet)	平成 21 年 10 月
日本画にみる裸婦	研究員 中村麗子	『別冊太陽 日本のこころ 158 裸婦』(平凡社)	平成 21 年 4 月
なぜ建築はコレクションされるべきなのか	研究員 保坂健二郎	『建築以前、建築以後』(アクセス・パブリッシング)	平成 21 年

絵画のヴァリエーション	保坂健二朗	『美術手帖』（美術出版社）	平成 22 年 2 月
物質への動機—鈴木久雄の彫刻	副館長 松本透	『鈴木久雄展—彫刻の領域』カタログ （中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館）	平成 21 年
現代美術とオリジナル	松本透	『“オリジナル”の行方—文化財を伝えるために』（東京文化財研究所編，平凡社）	平成 22 年 3 月
美術館・博物館研究員は語る 美術館の中の図書室(アートライブラリ)—美と知の宝庫	主任研究員 水谷長志	『文部科学時報』1599 号（文部科学省）	平成 21 年 4 月
書評 『図書館 この素晴らしき世界』	水谷長志	『図書館雑誌』103 巻 6 号（日本図書館協会）	平成 21 年 6 月号
〈連携〉する美術情報：IFLA/ARLIS/JADS/ALC の展開を通して	水谷長志	『韓国の視覚芸術の課題と展望』（タハルメディア）	平成 21 年 11 月
ジェーン・ライト(Jane Wright, 1879-1929)、ふたたび	水谷長志	『アート・ドキュメンテーション通信』84 号（アート・ドキュメンテーション学会）	平成 22 年 1 月
“Traditional Art Crafts (Dentō Kōgei)” in Japan: From Reproductions to Original Works	木田拓也	<i>The Journal of Modern Craft, Vol. 3, No. 1</i>	平成 22 年 3 月
一九三〇年代における工芸とナショナルリズム：『伝統工芸』前史について	木田拓也	『美術フォーラム 21』第 19 号	平成 21 年 5 月
世界の映画保存をさらに推進—FIAF 会長に聞く	主幹 岡島尚志	『ユニ通信』No.5446（ユニ通信社）	平成 21 年 8 月 6 日
国際フィルム・アーカイブ連盟（FIAF）会長に就任して	主幹 岡島尚志	『映画テレビ技術』2009 年 9 月号（日本映画テレビ技術協会）	平成 21 年 9 月 1 日
フィルム・アーカイブと映画文化	主幹 岡島尚志	『友 Iwanami Hall』2009 年秋号 No.363（岩波ホール）	平成 21 年 10 月 10 日
鼎談 フィルム・アーカイブ—日本の果たすべき役割—	主幹 岡島尚志	『ミュゼ』第 90 号（アム・プロモーション）	平成 21 年 10 月 25 日
コンテンツ／キャリアの保存と分離—映画・映像の長期保存に関する一考察	主幹 岡島尚志	『日本映像学会報』No.149（日本映像学会）	平成 22 年 1 月 1 日
フィルム・アーカイブと映画上映の未来	主幹 岡島尚志	『全国コミュニティシネマ会議 2009 in 川崎・報告書』（コミュニティシネマセンター）	平成 22 年 2 月 26 日
映画保存の国際的な広がりとアーカイブ間の協力—FIAF の活動を中心に—	主幹 岡島尚志	『立命館大学映像学部現代 GP「映像文化の創造を担う実践的教育プログラム」報告書（2009 年度）・映像文化の創造と倫理』（立命館大学映像学部）	平成 22 年 3 月 25 日
文化財としての映画フィルム	主任研究員 とちぎあきら	『文部科学時報』平成 21 年 4 月号 No.1599	平成 21 年 4 月 10 日
映画『紅葉狩』の重要文化財指定について	主任研究員 とちぎあきら	『映画テレビ技術』2009 年 8 月号 No.684（社団法人日本映画テレビ技術協会）	平成 21 年 8 月 1 日
「ドキュメンタリー作家 土本典昭」展に寄せて よみがえる「魂の労働」	主任研究員 岡田秀則	公明新聞（公明新聞社）	平成 21 年 7 月 5 日
シネマテークと映像教育の可能性	主任研究員 岡田秀則	『シネリテラシー』vol.1（早美出版社）	平成 21 年 9 月 17 日
<i>The Rise and Fall of the Nippon Eigasha Jakarta Studio</i>	主任研究員 岡田秀則	『 <i>The Encyclopedia of Indonesia in the Pacific War</i> 』（Brill）	平成 22 年 1 月

「撮る」と「撮られる」－眼の座標をめぐる：ドキュメンタリー映画の歴史から	主任研究員 岡田秀則	『コンフリクトの人文学』第2号 (大阪大学出版会)	平成22年3月15日
映画と社会心理：S.クラカウアー『カリガリからヒトラーへ』	研究員 板倉史明	井上俊編『ポピュラー文化(社会学ベーシックス7)』(世界思想社)	平成21年4月27日
視線と眩暈——美空ひばりの異性装時代劇	研究員 板倉史明	四方田犬彦・鷲谷花編『戦う女たち—日本映画の女性アクション』(作品社)	平成21年8月8日
フィルム・アーカイブにおける映像資料の保存と復元 歴史学にとっての映画	研究員 板倉史明	『歴史評論』2009年11月号(校倉書房)	平成21年10月10日
『史劇 楠公訣別』(1921年)の可燃性ネガフィルムを同定する	研究員 板倉史明	『東京国立近代美術館研究紀要』第14号	平成22年3月31日
ジャン・ルノワールの再評価と1950年代フランスの「若者文化」	研究員 赤崎陽子	京都国立近代美術館ニュース『視る』439号	平成21年7月7日
東京国立近代美術館フィルムセンター 夏休みキッズ企画 「こども映画館」2009	研究員 赤崎陽子	『美術教育』(財団法人教育美術振興会)	平成21年10月1日
名画の指定席『密告』	研究員 赤崎陽子	東商新聞	平成22年1月20日
名画の指定席『踊るニューヨーク』	研究員 赤崎陽子	東商新聞	平成22年2月20日
名画の指定席『歴史は女で作られる』	研究員 赤崎陽子	東商新聞	平成22年3月20日

(イ) 京都国立近代美術館

[学会等発表]

タイトル	学会等名	発表者職名・氏名	日付	場所	聴講者数
Katagami Collection in Germany-Vorbilder as Official Strategy	日本女子大学主催 『国際シンポジウム「型紙とジャポニスム-各地域における展開」』	主任研究員・池田祐子	平成21年11月7日	日本女子大学	80名

[雑誌等論文掲載]

タイトル	執筆者職名・氏名	掲載誌名(発行者)	発行年月日
慈しまれる雪佳の世界・欧米所蔵の神坂雪佳作品	主任研究員・池田祐子	『芸術はどこから来てどこに行くのか』(晃洋書房)	平成21年5月20日
芸術的精神の現象学(12)	前館長・岩城見一	京都国立近代美術館研究論集『CROSS SECTIONS』第2号	平成21年9月1日
上野伊三郎・リチの「造形意志」	主任研究員・山野英嗣	京都国立近代美術館研究論集『CROSS SECTIONS』第2号	平成21年9月1日

(ウ) 国立西洋美術館

[学会等発表]

タイトル	学会等名	発表者職名・氏名	日付	場所	聴講者数
『国立西洋美術館展覧会総覧 1960-2009』について：展覧会レファレンス・ツール作成の試み	アート・ドキュメンテーション学会第2回秋季研究発表会	主任研究員 川口雅子	平成21年10月17日	国立西洋美術館講堂	約70名

国立西洋美術館の情報戦略：所蔵作品データベースを中心に	アート・ドキュメンテーション学会創立20周年記念第4回アート・ドキュメンテーション研究フォーラム	主任研究員 川口雅子	平成21年12月4日	東京国立博物館平成館大・小講堂	約300名
国立西洋美術館がめざす収蔵作品・図書・資料情報サービス	専門図書館協議会関東地区協議会第15回情報サービス研究会	主任研究員 川口雅子	平成22年2月18日	東京商工会議所403会議室	約30名
総合芸術アーカイブに関する懇談会	東京藝術大学	主任研究員 川口雅子	平成21年7月9日	東京藝術大学	
全国美術館会議情報・資料研究部会セミナー	全国美術館会議情報・資料研究部会	主任研究員 川口雅子	平成21年11月11,12日	東京国立博物館(1日目), 国立西洋美術館(2日目)	30名
全国美術館会議学芸員研修会	全国美術館会議情報・資料研究部会	主任研究員 川口雅子	平成22年3月12日	国立新美術館	約100名
「アレッサンドロ・ベドリ・マッツォーラ作「ウェヌスとアモル」の材料と技法に関する考察」	文化財保存修復学会31回大会	研究補佐員 高島美穂	平成21年6月13日	倉敷市芸文館	約400名
「レンブラント版画研究：和紙の視点から」	ネーデルラント美術研究会	上席主任研究員 幸福輝	平成21年12月	清泉女子大学	約30名
「ミロの寡黙な絵画」	日仏美術学会シンポジウム「シュルレアリスムの時代—越境と混淆の行方」	学芸課長 村上博哉	平成21年11月22日	日仏会館	約80名

[雑誌等論文掲載]

タイトル	執筆者職名・氏名	掲載誌名(発行者)	発行年月日
「ウィーン美術史美術館所蔵 カルロ・サラチェーニ《ホロフェルネスの首を持つユーディット》について」	主任研究員 佐藤直樹	『ルクス・アルティウム』	平成22年3月
「もう一つのアルベルティーナ—第一回国際美術史学会と複製写真」	主任研究員 川口雅子	『ルクス・アルティウム』	平成22年3月
『国立西洋美術館展覧会総覧 1960-2009』について：展覧会レファレンス・ツール作成の試み	主任研究員 川口雅子	『アート・ドキュメンテーション研究』	平成22年3月
『市場のための紙上美術館 19世紀フランス、画商たちの複製イメージ戦略』	研究員 陳岡めぐみ	三元社	平成21年6月
"Vingt ans de Rodin au Japon"	主任研究員 大屋美那	Mélange offerts à Jacques Vilain, Naissance de la modernité, Editions de relief	平成21年3月(パリ)
「アレッサンドロ・ベドリ・マッツォーラ作「ウェヌスとアモル」(16世紀, イタリア, 油絵)の材料と技法に関する考察」	研究補佐員 高島美穂	『文化財保存修復学会誌』, 55号	平成22年3月
「『イメージ』への転回の後で」	研究員 新藤 淳	『Review House 03』	平成21年
「活動する眼, 視線のディレンマ—オットー・ペヒトのドイツ絵画論について」	研究員 新藤 淳	『ルクス・アルティウム』	平成22年3月

## (エ) 国立国際美術館

## [学会等発表]

タイトル	学会等名	発表者職名・氏名	日付	場所	聴講者数
「タイ（バンコク）について」	日メコン交流年 2009 調査報告「誰のためのアート？」—カンボジア、タイ、ベトナム、ミャンマー、ラオスの美術事情—	研究員 橋本梓	平成 21 年 5 月 21 日	国際交流基金	80 名
New Media Art in Curatorial Practice: Japanese New Media Art in Hanoi	第五回アジア次世代キュレーター会議	研究員 橋本梓	平成 21 年 11 月 6 日	シンガポール美術館講堂	40 名
「美術館教育の現在—国立国際美術館の事例から」	金沢 21 世紀美術館 開館 5 周年記念シンポジウム「ミュージアム・エデュケーション 21」	研究員 藤吉祐子	平成 22 年 1 月 16 日	金沢 21 世紀美術館	100 名

## [雑誌等論文掲載]

タイトル	執筆者職名・氏名	掲載誌名（発行者）	発行年月日
浜口芸術の理解のために	主任研究員 中井康之	『浜口陽三 生誕 100 年記念展—未公開の油彩作品群と、きらめく銅版画』（ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション）	平成 21 年 4 月 1 日
法貴信也 偉大なる断絶と恐るべき創造（画家たちの美術史 75）	主任研究員 中井康之	『美術手帖』2009 年 5 月号（美術出版社）	平成 21 年 5 月 1 日
束芋 外と内の往還	主任研究員 植松由佳	『束芋：断面の世代』（青幻舎、横浜美術館/国立国際美術館[監修]）	平成 21 年 12 月 11 日
木村友紀の写真・試論	主任研究員 中井康之	『DAIWA PRESS VIEWING ROOM』 vol.09 （株式会社大和プレス）	平成 22 年 2 月 1 日
山本理恵子	主任研究員 中井康之	『VOCA 展 2010 現代美術の展望—新しい平面の作家たち』（「VOCA 展」実行委員会）	平成 22 年 3 月 15 日

## (オ) 国立新美術館

## [学会等発表]

タイトル	学会等名	発表者職名・氏名	日付	場所	聴講者数
戦後日本の現代美術—その国際性をめぐって	シンポジウム「ロシアにおける日本美術研究」	南 雄介	平成 22 年 2 月 1 日	国立プーシキン美術館附属青少年美術教育センター「ムセイオン」（ロシア、モスクワ）	—
絵画画像の画面上の"明暗変化"と"色彩変化"の情報量に着目した特徴抽出	日本色彩学会全国大会	室屋泰三	平成 21 年 5 月	慶応大学日吉キャンパス	—
絵画画像の微細な色変化に着目した特徴抽出	カラーフォーラム JAPAN2009	室屋泰三	平成 21 年 11 月 4 日	独立行政法人産業技術総合研究所・臨海副都心センター	—

作品情報のアクセスと発信	全国美術館会議 情報・資料研究部会企画 セミナー 美術情報・資料の活用法—展覧会カタログから Web まで—	室屋泰三	平成 21 年 11 月 11 日	国立西洋美術館	—
美術館の情報発信—参加する，つながる，共有する，ウェブの新時代	全国美術館会議学芸員研修会	室屋泰三	平成 22 年 3 月 12 日	国立新美術館	—

[雑誌等論文掲載]

タイトル	執筆者職名・氏名	掲載誌名（発行者）	発行年月日
白髪一雄のアクション・ペインティング	平井章一	白髪一雄展—格闘から生まれた絵画—	平成 21 年 4 月
具体美術協会と『具体』誌について	平井章一	復刻版 具体（藝華書院）	平成 21 年 3 月
絵画画像の画面上の"明暗変化"と"色彩変化"の情報量に着目した特徴抽出	室屋泰三	日本色彩学会誌 VOLUME 33 サプリメント（日本色彩学会）	平成 21 年
AN ANALYSIS OF COLOR COMPOSITION IN PAINTINGS BY MEANS OF INFORMATION ENTROPY	室屋泰三	11th Congress of the International Color Association [AIC] 2009 (AIC)	平成 21 年 9 月
絵画画像の微細な色変化に着目した特徴抽出	室屋泰三	カラーフォーラム JAPAN 2009 論文集（カラーフォーラム JAPAN 事務局）	平成 21 年 11 月
色空間の分割に基づく情報量を用いた絵画画像の色彩構成の分析	室屋泰三	日本色彩学会 画像色彩研究会 2009 年度研究発表会論文集（日本色彩学会 画像色彩研究会）	平成 22 年 2 月

ウ インターネットによる調査研究成果の発信

(ア) 東京国立近代美術館

『研究紀要』の収録論文をホームページ上に掲載した。

(イ) 京都国立近代美術館

特に常設展示における小企画展について，開催意図などを 1,600 字程度にまとめ，当館ホームページ上に掲載した。

(ウ) 国立国際美術館

『artscape (<http://www.dnp.co.jp/artscape/>) 「学芸員レポート」』に 4 回，現代美術及び展覧会に関する研究を紹介し，『ARTiT (<http://www.art-it.asia/top>) 「展覧会レーティング」』に 3 回，現代美術の展覧会に関する調査結果を紹介した。

エ その他

(ア) 東京国立近代美術館

(本館)

読売新聞，『美術手帖』，『すばる』他に執筆を行った。

(フィルムセンター)

「戦後フランス映画ポスターの世界」のカタログを制作した。（平成 22 年 1 月 7 日発行，フィルムセンター編集）

(イ) 京都国立近代美術館

当館が中心となって申請した科学研究費補助金（基盤研究（A））「東西文化の磁場—日本近代建築・デザイン・工芸の超—，脱—領域的作用史」が採択され，平成 24 年までの 4 年間にわたり研究をすすめることとなった。平成 21 年度は，常設展会場での小企画

や研究分担者をパネラーとしたシンポジウム（『東西文化の視点から見た 19 世紀末京都における一動向－第四回内国勸業博覧会開催前後を中心に』）を開催し、研究成果の公表を行った。

(ウ) 国立国際美術館

『京都新聞「アート解剖学 現代美術再入門」』に 12 回、現代美術及び展覧会に関する研究を紹介し、また、『産経新聞「審美のアンクル」』に 10 回、現代美術に関する展覧会評を執筆した。

② 所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催

ア 東京国立近代美術館

(本館・工芸館)

セミナー・シンポジウム名	「ビデオを待ちながら」展連続講演会	開催日	平成 21 年 4 月 18 日, 25 日, 5 月 9 日, 16 日, 23 日
場所	東京国立近代美術館講堂	聴講者数	延べ 498 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	林 道郎(上智大学教授)「方法としての『彫刻』—ポストミニマリズムと映像をめぐって」 門林岳史(関西大学文学部助教)「マクルーハンとビデオアートの接点を考える—その理論的・歴史的条件」 小沼純一(早稲田大学文学学術院教授)「60-70 年代の音楽と美術」 西嶋憲生(多摩美術大学教授)「60-70 年代の構造映画と美術」 木村 覚(日本女子大学専任講師)「ダンスとレディ・メイド—1960-70 年代のダンスと美術」		
内容	展覧会が中心的に扱った 1970 年前後という時代は、メディアを横断するような活動やメディア間の相互影響が盛んになった時期である。したがって出品される映像が、同時代の文化・芸術総体の中でどのような位置を占めていたのかという点についての情報を提供することで、映像表現自体のより深い理解が可能になると考え、映像表現と隣接するジャンルをテーマとして連続講演会を開催した。		
セミナー・シンポジウム名	「所蔵作品展 こども工芸館〜!コレクション」工芸鑑賞研修会	開催日	平成 21 年 6 月 6 日
場所	東京国立近代美術館工芸館	聴講者数	28 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	講師：今井陽子(東京国立近代美術館工芸課主任研究員), 齊藤佳代(東京国立近代美術館工芸課研究補佐員)		
内容	「所蔵作品展 こども工芸館〜!コレクション」の事前研修として実施。児童・生徒を対象とする工芸鑑賞の可能性について検証した。		
セミナー・シンポジウム名	「中学校美術科における日本の伝統文化の理解に向けて」	開催日	平成 21 年 6 月 6 日
場所	東京国立近代美術館工芸館	聴講者数	58 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	講師：今井陽子, 北村仁美(東京国立近代美術館工芸課主任研究員), 三上美和(東京国立近代美術館工芸課客員研究員), 齊藤佳代(東京国立近代美術館工芸課研究補佐員)		
内容	日本における工芸の伝統と中学生を対象とする鑑賞授業の組み立てについて検証した。		

(フィルムセンター)

セミナー・シンポジウム名	ユネスコ世界視聴覚遺産の日記念特別イベント『幸福』特別上映会：シルバー・カラーの復元	開催日	平成 21 年 10 月 24 日
場所	東京国立近代美術館フィルムセンター大ホール	聴講者数	217 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	講師：鈴木美康(フィルムセンター技能補佐員) ゲスト：手塚昌明(映画監督)		

内容	ユネスコが2006年に定めた「世界視聴覚遺産の日」（10月27日）を記念するイベント事業の第2回目として、市川崑監督、水谷豊主演の『幸福』（1981年）を取り上げ、「シルバー・カラー」と呼ばれる特殊現像プロセスを再現した復元版プリントを初披露するとともに、1981年当時東洋現像所（現・IMAGICA）で本作の仕上げを担当し今回のプリント復元でもフィルムセンターの技術職員として監修を務めている鈴木美康の講演、『幸福』製作当時のスタッフであった手塚昌明氏によるトークを行った。
----	--

#### イ 京都国立近代美術館

セミナー・シンポジウム名	新収作品展 都築響一 着倒れ方丈記 記念アーティストトーク+サイン会	開催日	平成21年4月12日
場所	京都国立近代美術館講堂	聴講者数	100人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	都築響一(作家)		
内容	「ラグジュアリー：ファッションの欲望」展の関連企画として、4階コレクション・ギャラリーに新収作品展「都築響一 着倒れ方丈記」を展示した。その作家によるトークが大人数の参加のもと行われ、大変有意義なものであった。		
セミナー・シンポジウム名	小林康夫、池田満寿夫を語る	開催日	平成21年8月18日
場所	京都国立近代美術館講堂	聴講者数	45人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	講師：小林康夫(東京大学大学院総合文化研究科教授) トーク参加者：太田達(有職菓子御調進所 老松主人)		
内容	8月18日(火)から23日(日)まで、鑑賞者グループが企画した「京菓子で味わう池田満寿夫の世界」を開催した。この企画では当館のコレクションである池田満寿夫作品を、1階ロビーで京都の老舗の職人らが京菓子で表現し、あわせて4階コレクションギャラリーで池田満寿夫の実際の版画作品を展示した。 「池田満寿夫は私の青春時代のアイドルの一人だった」と語る小林氏の、広範な知識と自由なイメージが交錯する講演会で、その後、池田満寿夫についてのトークには「京菓子で味わう池田満寿夫の世界」に出品・監修した「有職菓子御調進所 老松」主人の太田達氏が参加され、大変有意義なものであった。		

#### ウ 国立西洋美術館

セミナー・シンポジウム名	「模倣・複製・創造・伝達—ルネサンス期の版画について」	開催日	平成21年5月27-28日
場所	国立西洋美術館(27日)、武蔵野美術大学(28日)	聴講者数	20人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	講師：渡辺晋輔(国立西洋美術館主任研究員)		
内容	27日は実際の版画を前にして説明、28日の講義はルネサンス期の特に関西の版画について、その特色を説明。		
セミナー・シンポジウム名	「コレクション鑑賞教材制作・普及事業に係わるレクチャー及びワークショップ」	開催日	平成21年8月18日
場所	和歌山県立近代美術館	聴講者数	40人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	講師：寺島洋子(国立西洋美術館主任研究員)		
内容	和歌山県立近代美術館の「ここはどこ？」展に合わせて、子どもを対象とするワークシートの開発についての講義とワークショップを行った。		
セミナー・シンポジウム名	特別講義	開催日	平成21年12月4日
場所	京都工芸繊維大学	聴講者数	30人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	講師：寺島洋子(国立西洋美術館主任研究員)		
内容	国立西洋美術館の教育普及活動について		
セミナー・シンポジウム名	「分身と記憶」	開催日	平成21年7月18日
場所	国立西洋美術館講堂	聴講者数	58人

講師・パネリスト等の氏名(職名)	講師：港千尋（多摩美術大学教授）		
内容	版画におけるオリジナリティと複製の境界をめぐる考察など。		
セミナー・シンポジウム名	「くつし」の美学—イメージの起源神話	開催日	平成21年7月25日
場所	国立西洋美術館講堂	聴講者数	87人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	講師：谷川渥（國學院大學教授）		
内容	「うつす」という行為に関する美学的考察。また、具体的な芸術作品の分析。		
セミナー・シンポジウム名	「情念の形態学—アビ・ヴァールブルク「ムネモシュネ」の解説	開催日	平成21年8月1日
場所	国立西洋美術館講堂	聴講者数	72人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	田中純（東京大学大学院准教授）		
内容	美術史家アビ・ヴァールブルクによるプロジェクト「ムネモシュネ」の具体的な分析と解説。		

## (2) 国内外の美術館等との連携

### ① シンポジウムの開催等による国内外の優れた研究者等との人的ネットワークの構築

#### ア 国立美術館

セミナー・シンポジウム名	工芸シンポジウム「日本工芸の国際性」	開催日	平成21年11月4日
場所	有楽町朝日ホール	聴講者数	404人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	青柳正規（独立行政法人国立美術館理事長，国立西洋美術館長），山本寛斎（デザイナー，プロデューサー），花塚久美子（『和楽』編集長），ニコル・クーリジ・ルーマニエール（セイズベリー日本藝術研究所所長，東京大学大学院客員教授），室瀬和美（重要無形文化財「蒔絵」保持者，(社)日本工芸会理事），森口邦彦（重要無形文化財「友禅」保持者，(社)日本工芸会副理事長）		

※ 文化庁委託「文化発信戦略に関する調査研究事業」の一環として開催

#### イ 東京国立近代美術館

##### (本館・工芸館)

セミナー・シンポジウム名	国際シンポジウム 権鎮圭の作品世界	開催日	平成21年10月23, 24日
場所	武蔵野美術大学	聴講者数	200余人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	甲田洋二（武蔵野美術大学学長）朴亨國（武蔵野美術大学教授）権璟淑（遺族代表）許明会（高麗大学校教授）仙名秀雄（画家，学友）安東林（清州大学校名誉教授）劉俊相（前ソウル市立美術館長）金東羽（世宗大学校教授，彫刻家）李政勲（i-studio代表，写真家）松本透（東京国立近代美術館副館長）金喆孝（韓国文化芸術委員会首席客員研究員）明珍素也（仏像修理工房「明古堂」代表）戸谷成雄（武蔵野美術大学教授）黒川弘毅（武蔵野美術大学・教授）柳枝延（韓国国立現代美術館・学芸研究士）金伊順（弘益大学校副教授）高卿豪（弘益大学校助教）柳枝延（韓国国立現代美術館学芸研究士）金容徹（翰林大学校アジア文化研究所研究員）		
セミナー・シンポジウム名	第5回アジア次世代美術館キュレーター会議	開催日	平成21年11月4日～10日
場所	シンガポール美術館，ナショナル・アート・ギャラリー・マレーシアほかシンガポール，マレーシア国内の美術機関	聴講者数	約40人（マレーシア会場での人数）
講師・パネリスト等の氏名(職名)	アデ・ダルマワン（ルアンルパ・ディレクター，インドネシア），橋本梓（国立国際美術館学芸員），イ・チュヨン，リュ・ジヨン（韓国国立現代美術館キュレーター），ド・トゥオン・リン，ウィ・ニュー・ニュエン（インディペンデントキュレーター，ベトナム），リチャード・ストレイトマター・トラン（作家，ロイヤル・メルボルン・インスティテューート・オブ・テクノロジー・ユニバーシティ・ベトナム講師，ベトナム）サム・イーシャ		

	ン（シンガポール美術館プログラム・マネージャー）、グレイス・タン、オン・ジェンミン（シンガポール・ナショナル・アートギャラリーキュレーター）、ロー・ズイーウィー（シンガポール・ナショナル・アートギャラリー学芸・コレクション部門ディレクター）リム・チンイー、シャビール・フサイン・ムスタファ（国立シンガポール大学美術館キュレーター）、ローファン・テオ（インスティテュート・オブ・コンテンポラリー・アート・シンガポールキュレーター）、ワン・ズーナン（クリスティーズ・東南アジア近現代美術調査員、シンガポール）シェド・ムフド・ハフィズ（インディペンデント・キュレーター、シンガポール）、キティボン・シリワイタヤンクーン、ソンボン・ファントン（オフィス・オブ・コンテンポラリー・アート・アンド・カルチャー、タイ）、ピチャヤ・エイム・スパパニー（バンコク・アート・アンド・カルチャーセンターキュレーター、タイ）、サイモン・スーン（インディペンデント・キュレーター、マレーシア）、タン・セイホン、ウスニタ・ナシール（ナショナル・アート・ギャラリー・マレーシアキュレーター） 当館からは中村麗子が参加した。		
セミナー・シンポジウム名	「第3回菊池ビエンナーレ」研究会	開催日	平成21年4月25日
場所	菊池寛実記念 智美術館 地下1階展示室	聴講者数	58人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	山口淀（陶芸家）、西田宣生（陶芸家）、金子賢治（東京国立近代美術館工芸課長）、林屋晴三（菊池寛実記念 智美術館長）、唐澤昌宏（東京国立近代美術館工芸課主任研究員）、森孝一（日本陶磁協会主任学芸員）		
セミナー・シンポジウム名	「荒川豊蔵の〈志野〉－自然と生命の讃歌－」	開催日	平成21年5月2日
場所	山口県立萩美術館・浦上記念館	聴講者数	63人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	唐澤昌宏（東京国立近代美術館工芸課主任研究員）		
セミナー・シンポジウム名	「近代陶芸の発展における小森忍の窯業研究と作陶」	開催日	平成21年8月22日
場所	瀬戸市文化センター会議室	聴講者数	45人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	唐澤昌宏（東京国立近代美術館工芸課主任研究員）		
セミナー・シンポジウム名	東洋陶磁学会東日本地区第5回研究会	開催日	平成21年11月29日
場所	東京国立近代美術館 講堂	聴講者数	53人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	西マーヤ（陶芸研究家）、メガン・ジョーンズ（ボストン大学大学院博士課程）、森野彰人（陶芸家・京都市立芸術大学）、富田美樹子（陶芸家）		

（フィルムセンター）

セミナー・シンポジウム名	ユネスコ世界視聴覚遺産の日記念特別イベント 『幸福』特別上映会：シルバー・カラーの復元	開催日	平成21年10月24日
場所	東京国立近代美術館フィルムセンター大ホール	聴講者数	217人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	講師：鈴木美康（フィルムセンター技能補佐員） ゲスト：手塚昌明（映画監督）		

ウ 京都国立近代美術館

セミナー・シンポジウム名	国際交流基金（ジャパンファウンデーション）京都支部 講演会 平成21年度 第1回：ドイツの日本研究者が語る日本の暦文化	開催日	平成21年5月29日
場所	京都国立近代美術館講堂	聴講者数	67人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	講師：ゲアハルト・ラインス氏 Dr.Gerhard Leinss（チューリヒ大学講師）		
セミナー・シンポジウム名	関西アメリカンセンター「新しい美術館運営のありかたとは」	開催日	平成21年9月10日
場所	京都国立近代美術館講堂	聴講者数	37人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	講演者：デボラ・クロチコ氏（サンディエゴ写真美術館エグゼクティブ・ディレクター）		
セミナー・シンポジウム名	第1回「東西文化の磁場」シンポジウム	開催日	平成21年11月7日

ウム名	「『東西文化』交流の視点から見た19世紀末 京都における一動向 第四回内国勲業博覧会開催（1895年）前後を 中心に」		
場所	京都国立近代美術館講堂	聴講者数	31人
講師・パネリスト等 の氏名（職名）	発表1「黒田清輝《朝妝》と第四回内国勲業博覧会」 アリス・ツエン（Alice Y. Tseng, ボストン大学美術史学部准教授） 発表2「伊東忠太と平安神宮」 川島智生（建築史家, 神戸女学院大学非常勤講師） 発表3「明治後半期, 海外万国博覧会出品作品の制作過程と意義—高島屋の染織出品作品を 考察する—」 廣田 孝（京都女子大学教授） 発表4「ゴットフリート・ワグネルと京都」 松原龍一（京都国立近代美術館主任研究員） 討議 司会・進行：山野英嗣（京都国立近代美術館主任研究員）		
セミナー・シンポジ ウム名	シンポジウム「プライベートなジョーク, パ ブリックな場所—建築と演劇のはざまに」	開催日	平成21年12月13日
場所	京都国立近代美術館講堂	聴講者数	72人
講師・パネリスト等 の氏名（職名）	ゲスト：オレン・サフディ Oren Safdie（劇作家） パネリスト：新井清一（京都精華大学・教授），遠藤秀平（神戸大学大学院・教授），槻 橋 修（神戸大学・准教授），松岡 聡（京都造形芸術大学・准教授），河井敏明（京都大 学）ほか コーディネーター：竹山 聖（京都大学・准教授），トーマス・ダニエル Thomas Daniell （京都精華大学・准教授）		

## エ 国立西洋美術館

セミナー・シンポジ ウム名	J・P・ゲッティ美術館との共催による国際 シンポジウム「美術・博物館のコレクション の地震対策」	開催日	平成21年7月21日-22日
場所	国立西洋美術館 講堂	聴講者数	60人
講師・パネリスト等 の氏名（職名）	ポール・サマービル（ユールエスコポレーション）チャールズ・カーチャー（カルフ オルニア・カーチャー・アンド・アソシエイツ所長）CCスピコラス（アテネ国立工科 大学土木部地震工学研究室教授）新田健史（静岡県立美術館）A. スタビリティス（カリ フォルニア大学サンディエゴ構造工科大学院）ビルゲン・サンゲイ（イスタンブール・ ボアジチ大学カデリ観測地震研究所助教授）瀨藤一起（東京大学地震研究所教授）青木徹 彦（愛知工業大学教授）内田俊秀（京都造形大学芸術学部教授）神庭伸幸（東京国立博物 館）森井順之，二神葉子（東京国立文化財研究所保存科学センター）ロベルト・ガルフ ィ（パレルモ計画地域復元センター）遠藤雄悦（荒川技研工業）佐藤孝典（アイディール ブレーン）菊地功（エーエス）ジェリー・ダニー他3名（J, P, ゲッティ美術館）箱守 栄一（慶應義塾大学院アートマネージメント分野非常勤講師）河口公男（国立西洋美術館）		
セミナー・シンポジ ウム名	全国美術館会議 情報・資料研究部会セミナ ー 「美術情報・資料の活用法 — 展覧会カタロ グから Web まで」	開催日	平成21年11月10-11日
場所	国立西洋美術館, 東京国立博物館	聴講者数	30人
講師・パネリスト等 の氏名（職名）	水谷長志（東京国立近代美術館），住広昭子（東京国立博物館），中村節子（石橋財団ブ リヂェストン美術館）川口雅子（国立西洋美術館），室屋泰三（国立新美術館）		
セミナー・シンポジ ウム名	全国美術館会議討論会 「美術品国家補償制度の設立に向けて」	開催日	平成21年5月14日
場所	ホテルメトロポリタン高崎	聴講者数	約250人
講師・パネリスト等 の氏名（職名）	村瀬剛太（文化庁長官官房政策課課長補佐），箱守栄一（美術品リスク・コンサルタン ト），森要造（東京新聞事業局長），富田章（サントリーミュージアム[天保山]学芸部長），深 谷克典（名古屋市美術館学芸課長） 司会進行：村上博哉（国立西洋美術館）		

## オ 国立国際美術館

セミナー・シンポジ ウム名	シンポジウム「オーラル・アート・ヒストリ ーの可能性」	開催日	平成21年11月14日
------------------	--------------------------------	-----	-------------

場所	国立国際美術館地下1階講堂	聴講者数	85人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	司会進行：栗田大輔(東京藝術大学非常勤講師) パネリスト等：池上裕子(大阪大学グローバルCOE特任助教)，尾崎信一郎(鳥取県立博物館副館長)，加治屋健司(広島市立大学准教授)，北原恵(大阪大学大学院文学研究科教員)，建島哲(当館館長)，前田恭二(読売新聞文化部長)		
セミナー・シンポジウム名	国立国際美術館新築移転5周年記念シンポジウム「絵画の時代—ゼロ年代の地平から」	開催日	平成22年1月23-24日
場所	国立国際美術館地下1階講堂	聴講者数	444人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	司会進行：島敦彦(当館学芸課長)，岡村知子(コーディネーター) パネリスト等：天野一夫(豊田市美術館チーフキュレーター)，池上裕子(大阪大学大学院人間科学研究科グローバルCOE特任助教)，尾崎信一郎(鳥取県立博物館副館長)，金井直(信州大学人文学部准教授)，神谷幸江(広島市現代美術館学芸担当課長)，斎藤環(精神科医/爽風会佐々木病院精神科診療部長)，建島哲(当館館長)，谷川渥(國學院大學文学部教授)，林道郎(上智大学国際教養学部教授)，保坂健二郎(東京国立近代美術館企画課研究員)，松井みどり(美術評論家)，松浦寿夫(東京外国語大学総合国際学研究院教授)		

## カ 国立新美術館

セミナー・シンポジウム名	シンポジウム「ウガンダのエイズ孤児，アーティストに出会う」	開催日	平成21年7月11日
場所	国立新美術館 講堂	聴講者数	221人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	宮島達男(現代美術家/東北芸術工科大学副学長)，石田俊輔(世界銀行 東京開発ラーニングセンター)，小山薫堂(放送作家)，マエキタミヤコ(クリエイティブエージェンシー「サステナ」代表)，大森功一(世界銀行 東京事務所 広報担当)		
セミナー・シンポジウム名	日本資料専門家欧州協会(EAJRS)第14回年次総会	開催日	平成21年9月16日
場所	セイズベリー日本芸術研究所(ノリッジ(英国))	聴講者数	—人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	平井章一(国立新美術館主任研究員)		
セミナー・シンポジウム名	第4回アジア美術館長会議	開催日	平成21年10月20-23日
場所	ソウルプラザホテル 他(韓国)	聴講者数	—人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	[参加者] 林田英樹(国立新美術館館長)，西野華子(国立新美術館主任研究員)		
セミナー・シンポジウム名	ATRo3周年記念トークセッション 「六本木アート・トライアングル：ネクスト 国立新美術館，サントリー美術館，森美術館—六本木は東京のアートの拠点になったのか？」	開催日	平成22年1月17日
場所	国立新美術館 講堂	聴講者数	128人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	パネリスト：石田佳也(サントリー美術館学芸部長)，片岡真実(森美術館チーフ・キュレーター)，山下裕二(美術史家・明治学院大学教授)，南雄介(国立新美術館学芸課長) モデレーター：後藤繁雄(編集者/クリエイティブディレクター/京都造形芸術大学教授) 司会：イーデン・コーキル(ジャパントイムズ学芸部記者)		
セミナー・シンポジウム名	「ロシアにおける日本美術」シンポジウム	開催日	平成22年2月1日
場所	国立プーシキン美術館附属青少年美術教育センター「ムセイオン」(モスクワ(ロシア))	聴講者数	—人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	ガリーナ・ボリソブナ・シシキナ(国立東洋美術館上席研究員)，アレクサンドル・ニコラエビッチ・メシェリャコフ(ロシア国立人文大学教授)，南雄介(国立新美術館学芸課長)他		
セミナー・シンポジウム名	シリーズ 美術雑誌と戦後美術—創り手たちの証言 第1回 激動と転換の60年代末 宮澤壯佳氏(元『美術手帖』編集長)	開催日	平成22年2月13日
場所	国立新美術館 研修室	聴講者数	50人

講師・パネリスト等の氏名(職名)	宮澤壯佳(元『美術手帖』編集長)		
セミナー・シンポジウム名	全国美術館会議 第25回学芸員研修会	開催日	平成22年3月12日
場所	国立新美術館 講堂	聴講者数	一人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	鴨木年泰(東京富士美術館), 水谷長志(国立美術館情報企画室長・東京国立近代美術館情報資料室長), 茂原暢(財団法人渋沢栄一記念財団 実業史研究情報センター), 野口玲子(東京都現代美術館), 室屋泰三(国立新美術館主任研究員)他		

## ② 我が国の作家, 美術作品による展覧会開催のための海外の美術館との連携・協力

### ア 東京国立近代美術館

#### (本館)

ドイツ・ドレスデンのザクセン州立美術館銅版画館が国際交流基金との共催で平成21年10月15日から平成22年1月18日まで開催した「紙/神 静と動 現代日本の美術」展に、当館職員がキュレーターとして参加, 作品調査, 企画立案ほか運営全般に協力し, また所蔵作品を多く貸し出した。日本の現代作家がまとまった形で紹介されるのは旧東独圏のドレスデンでは初のことであり, 日本の現代作家13人の作品を展示する同展は, 好評のうちに13,000人の来館者を得た。

#### (工芸館)

「文化庁委託 平成21年度文化発信戦略に関する調査研究事業」に基づき, 当館所蔵作品を中心にした近代工芸に関する展覧会企画等のニーズ調査を実施し, イギリス(大英博物館, オックスフォード大学付属アシュモリアン美術館, セインズベリー日本藝術研究所), フランス(パリ日本文化会館, ニース・アジア美術館), ドイツ(ミュンスター・漆工芸博物館, ハンブルグ工芸美術館), イタリア(ローマ日本文化会館, フィレンツェ国立美術館)の美術館等と連携・協力を図った。

#### (フィルムセンター)

平成20年度から21年度にかけて, ミュンヘン市博物館・映画博物館(ドイツ・ミュンヘン, FIAF会員)との共同主催により, 先にシネマテーク・ケベコワーズ(カナダ・モントリオール, FIAF会員)との共同主催により開催した「アニメの源へー日本のアニメーション映画(1924~1952)」で上映した53本に, 共催者が選定した近年の作品2本を加え, 上映会「日本アニメーション映画史」を開催した(会期は平成21年3月3日から5月5日まで)。

ロカルノ国際映画祭, トリノ国立映画博物館(イタリア, FIAF会員)との共同主催により, 「MANGA IMPACT」展「日本の初期アニメーション映画」部門を開催した(会期は, 平成21年8月6日から9月19日までの4日間)。

### イ 京都国立近代美術館

当館で開催した「野島康三展」を基に平成23年にイタリア・モデナの写真美術館で開催する「写真家・野島康三」展開催のための具体的な調整および作品研究の作業に入った。

## (3) 国内外の美術館及びフィルム・アーカイブ等との保存・修復に関する情報交換

### ア 東京国立近代美術館

フィルムセンターでは, アメリカ公文書館が原版を所管し, 広島市映像文化ライブラリーが入手した『EFFECTS OF THE ATOMIC BOMB ON HIROSHIMA AND NAGASAKI』完全版のデューペネガから, プリント及び日本語字幕を作成するにあたり, 広島市映像文化ライブラリーとの間で, 緊密な情報交換を行った。

イ 京都国立近代美術館

イタリア、モデナ市のジュゼッペ・パニーニ写真美術館、ローマ市の国立グラフィック研究所等との共催で「ローマ追想－19世紀写真と旅」展を開催する機会を生かし、これらの機関との間で19世紀写真作品の展示方法および保存に関する技術的問題について情報交換し、将来の当館の写真作品の保存・修復にも有益なものとなるよう配慮した。

ウ 国立西洋美術館

J・P・ゲッティ美術館との共催による国際シンポジウム「美術・博物館のコレクションの地震対策」を国立西洋美術館講堂で開催した。

(4) 所蔵作品の貸与等

①作品の貸与

館名	貸出件数	貸出点数	特別観覧件数	特別観覧点数
東京国立近代美術館(本館)	69	230	163	270
東京国立近代美術館(工芸館)	31	265	24	102
京都国立近代美術館	65	1,195	96	391
国立西洋美術館	9	16	89	358
国立国際美術館	23	119	12	24
計	197	1,825	384	1,145

東京国立近代美術館本館では、作品の貸与のほか引き続き写真閲覧制度（プリントスタディ）を実施した（利用件数12件、閲覧者数172人、閲覧作品数408点）。また、工芸館では、文化庁企画『「日本のわざと美」－重要無形文化財とそれを支える人々』展の巡回開催をはじめ、市川市芳澤ガーデンギャラリーでの秋山逸生展と滋賀県立近代美術館等での森口華弘・邦彦父子展の遺作回顧展の大量の作品を貸与し協力した。兵庫県陶芸美術館他「ハンス・コパー展」や江別市セラミックアートセンター他「小森忍 日本陶芸の幕開け」展、ふくやま美術館他「北大路魯山人展」等、巡回展への長期貸出が重なった。

京都国立近代美術館では、砺波市美術館「アイルン・スミス・コレクションによるW. ユージン・スミスの写真」展（会期21年7月11日～8月30日）に170点、喜多方市美術館「アイルン・スミス・コレクションによるW. ユージン・スミスの写真」展（会期21年9月12日～10月25日）に170点、渋谷区立松濤美術館「生誕120年 野島康三－肖像の核心」展（会期21年9月29日～11月15日）に113点、清水港湾博物館「特別展 池田満寿夫の版画」（会期21年9月12日～10月12日）に122点の作品の貸出を行った。

国立西洋美術館では、海外美術館への貸出2件（マドリードのティッセン美術館主催による「エロスの涙」展および「モネと抽象」展）、国内美術館への貸出7件（ひろしま美術館・神奈川県立近代美術館「白樺派の愛した美術」等）、あわせて9件・16点の作品貸出を行った。

国立国際美術館では、八王子市夢美術館・足利市立美術館「氾濫するイメージ－反芸術以後の印刷メディアと美術 1960's-70's」、熊本市現代美術館「花・風景展 モネと現代日本のアーティストたち－大巻伸嗣、蜷川実花、名知聡－」、宇都宮美術館「『白樺』誕生100年 白樺派の愛した美術」などに、あわせて23件・119点の貸出を行った。

②映画フィルム等の貸与

種別	貸出		特別映写観覧		複製利用	
	件数	点数	件数	点数	件数	点数

映画フィルム	82	242	129	397	39	96
--------	----	-----	-----	-----	----	----

種別	貸出		特別観覧	
	件数	点数	件数	点数
映画関連資料	5	68	24	93

海外への貸与のうち、共同主催事業では、ロカルノ国際映画祭（スイス）、トリノ国立映画博物館（イタリア）との間で開催した「MANGA IMPACT」展「日本の初期アニメーション映画」部門に対し 28 本、ミュンヘン市立博物館/映画博物館（ドイツ）との上映会「日本アニメーション映画史」には 53 本、川喜多記念映画文化財団、独立行政法人国際交流基金との共同開催による「川喜多かしこ生誕 100 年記念 日本映画海外巡回特集上映」では、香港電影資料館での上映に、4 本のフィルムを提供した。通常の貸与は、23 件であった。

国内への貸与のうち、共同主催事業では、京都国立近代美術館との間で開催した「NFC 所蔵作品選集 MoMAK Films@Goethe」に対し、『東洋の秘密』（1928 年）、『石川五右衛門の法事』（1930 年）等、日本映画及び外国映画のフィルム 19 本を提供、同じく京都国立近代美術館との間で開催した「無声映画時代ソビエト映画ポスター展」に関連する上映会に対し、『母』（1926 年）等、外国映画フィルム 3 本を提供した。また、巡回上映事業について、「生誕百年 映画監督 マキノ雅弘」では全 7 会場に 17 本を、「生誕百年 映画監督 山中貞雄」では全 6 会場に 3 本の日本劇映画のフィルムを提供した。通常の貸与では、52 件、131 本のフィルムを提供した。

映画関連資料については、国内の展覧会主催者 2 機関に、海外についてはカナダのシネマテーク・ケベコワーズ（モントリオール）とイタリア国立映画博物館（トリノ）など 3 機関へ貸与を行った。

## （5）美術教育の一翼を担うナショナルセンターとしての活動

### ① 美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修の実施

平成 21 年度「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」を実施した（参加者数：129 名、実施期間：平成 21 年 8 月 3 日～8 月 5 日、会場：東京国立近代美術館及び国立新美術館）。実施後に本研修の記録集を作成し、平成 18 年～21 年度参加者及び全国的美術館教育関係者へ配布し研修成果の普及を図った。

また、本研修において平成 21 年度「教員免許状更新講習」を実施した（受講者 14 名、全員に履修証明書を授与）。

国立西洋美術館では、6 団体（83 名）に対して鑑賞の教員研修を実施した。そのうちの一つは、東京都中学校美術教育研究会、東京国立近代美術館と合同で企画実施した。

### ② 先駆的・実験的な教材やプログラムの開発

#### ア 国立美術館

鑑賞教材「アートカード」を各館から学校へ貸し出しを行ったほか、教員の研修などの機会をとらえて積極的に紹介した。

#### イ 東京国立近代美術館

本館では、平成 23 年度から完全施行される学習指導要領をにらみ、美術館を活用した鑑賞教育の目的、方法、プログラムを紹介した小冊子「スクール・プログラム・ガイド」を制作、4,700 部を都内近郊の小中学校、教育関係者に送付した（3 月）。「ゴーギャン展」では、夏休み前に教職員対象の講演会を開催した。併せてセルフガイド 75,000 枚を学校等

に配布するなどして、会期中約 15,000 人の児童生徒の入館者を得ることができた。

工芸館では、所蔵作品展「こども工芸館 い!コレクション」開催にあわせて、小学生向けのセルフガイド「い!コレクション」及び指導案を作成し、都内及び近郊の小学校に事前配布、また会期中は館内で来館者に配布した。また、昨年度の課題をもとに、小学生とは成長段階が著しく異なる中学生を対象として、同時開催の「おとな工芸館 涼しさ招く」展のセルフガイドを作成・配布した。

#### (6) 美術館活動を担う中核的人材の育成

館名		インターンシップ受入数	博物館実習受入数
東京国立近代美術館	本館	5	—
	工芸館	5	4
	フィルムセンター	1	11
京都国立近代美術館		0	—
国立西洋美術館		6	—
国立国際美術館		7	—
国立新美術館		7	—
計		31	15

#### (7) 全国の美術館等との連携・人的ネットワークの構築

##### ① 企画展・上映会等の共同主催と共同研究

館名	共同主催件数	共同研究件数
東京国立近代美術館 (フィルムセンター)	5	6
京都国立近代美術館	4	2
国立西洋美術館	1	1
国立国際美術館	5	5
国立新美術館	3	3
計	18	17

特記事項（共同研究によって特に得られた成果等）

(ア) 東京国立近代美術館

(フィルムセンター)

- ・「日本・ブルガリア外交関係再開 50 周年記念 ブルガリア映画特集」：ブルガリア共和国大使館と協議しながら上映作品の選定を行った。
- ・「EU フィルムデーズ 2009」：欧州連合駐日欧州委員会代表部と協議し、近年の EU 加盟各国の映画動向や作品の評価を踏まえながら作品選定を行った。
- ・「日本インディペンデント映画史シリーズ② ぴあフィルムフェスティバルの軌跡 vol. 2」：ぴあ株式会社と協議しながらぴあフィルムフェスティバルの 1987 年（第 10 回）から 97 年（第 20 回）を対象に、同時代の評価と現在の評価の双方を踏まえながら作品選定を行った。
- ・「第 31 回ぴあフィルムフェスティバル」：PFF パートナーズと協議し、招待作品部門の作品選定を行った。
- ・「川喜多かしこ生誕 100 年記念事業 川喜多賞受賞監督作品選集」：川喜多記念映画文化財団、国際交流基金と協議し、川喜多賞受賞監督の作品から上映作品の選定を行っ

た。

- ・「ドキュメンタリー作家 土本典昭」展：土本監督の製作母体である映画同人シネ・アソシエの特別協力を得て、同監督の生涯の作品歴を踏まえつつ展示品の選定を行った。
- ・「生誕百年 映画女優 田中絹代」展：田中絹代の遺品を管理している下関市およびNPO法人芸游会の特別協力を得て、監督としての絹代に照準を当てるなど新たな視点を加えた形で展示品の選定を行った。
- ・京都国立近代美術館での「無声時代ソビエト映画ポスター展」：同美術館との共催事業として実施し、関連上映会においては作品選定やトークイベントなどの面で協力した。

#### (イ) 京都国立近代美術館

渋谷区立松濤美術館と写真家・野島康三の工芸家たちとの交流について、書簡など新しい資料を駆使した調査・研究を行った。東京国立近代美術館フィルムセンター（NFC）と協力し、NFC所蔵映画の定期的上映を実現した。

#### (ウ) 国立西洋美術館

「ル・コルビュジエと国立西洋美術館」展でフランスのル・コルビュジエ財団と共同研究を行った。

#### (エ) 国立国際美術館

「杉本博司 歴史の歴史」では金沢 21 世紀美術館と、「やなぎみわ 婆々娘々！」では東京都写真美術館と、「慶應義塾創立 150 年記念 関連企画展 慶應義塾をめぐる芸術家たち」では慶應義塾と、「ルーヴル美術館展 美の宮殿の子どもたち」ではルーヴル美術館、国立新美術館と、「長澤英俊展 オーロラの向かう所」では埼玉県立近代美術館、神奈川県立近代美術館などと共同研究を行った。

とりわけ特筆すべきは、慶應義塾アートセンターとの共同研究により開催された「慶應義塾創立 150 年記念 関連企画展 慶應義塾をめぐる芸術家たち」は、大学との共同研究の成果が結実したものであり、今後の大学との共同研究の方向性を示すものである。

## ② キュレーター研修

館名	受入人数
東京国立近代美術館(本館・工芸館)	2
京都国立近代美術館	1
国立西洋美術館	1
国立新美術館	1
計	5

## (8) 我が国の映画文化振興の中核的機関としてのフィルムセンターの活動

### ① 国際フィルム・アーカイブ連盟 (FIAF) の正会員としての活動

- ・フィルムセンター主幹が、平成 21 年 5 月 30 日に FIAF 会長に就任した。
- ・第 65 回 F I A F 会議に主幹と研究員が出席し、主幹がシンポジウムのアジア部門のパネルと司会をつとめた。
- ・ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」の記念特別イベントとして「『幸福』特別上映会：シルバー・カラーの復元」を開催した。

## ② 日本映画情報システムの運営

文化庁が実施する「日本映画情報システム」については、会議への出席並びに資料提供、当館公開データベースへの接続に関する協力を行った。

## ③ 所蔵映画フィルム検索システムの拡充

「所蔵映画フィルム検索システム」については、日本劇映画のレコード 354 件を新たに公開し、公開件数を 5,146 件とした。

## ④ 映画関係団体等との連携

- ・国内では、福岡市総合図書館（F I A F 会員）、山口情報芸術センター、東京国際映画祭、山形国際ドキュメンタリー映画祭、東京国際レズビアン&ゲイ映画祭、京都国際学生映画祭、ヒロシマ平和映画祭、キューバ映画祭、T O H O シネマズ等へ映画フィルムの貸与を通じて協力を行った。国外では、ミュンヘン市博物館・映画博物館及びロカルノ国際映画祭との間で開催した日本の初期アニメーション映画特集に際し、フィルムセンター研究員が上映会に参加し、解説及び研究者や観客とのディスカッションを行った。また、韓国映像資料院、ドイツ映画博物館、フィルモテカ・エスパニョーラ、チネテカ・ディ・ボローニャ、オランダ映画博物館、ノルウェー映画協会（以上 F I A F 会員）、台北金馬影展、オーバーハウゼン国際短篇映画祭（ドイツ）、香港国際映画祭等へ映画フィルムの貸与を通じて協力を行った。加えて、ギリシャ国立フィルム・アーカイブ、中国電影資料館、日本学術会議、早稲田大学演劇博物館、神戸映画資料館、全国コミュニティシネマ会議、映画保存協会、サイエンス映像学会、映画の保存と復元に関するワークショップ等が主催するシンポジウム、講演会、授業等に研究員が参加し、研究成果の発表やディスカッションを通じて協力した。
- ・加盟する国際フィルム・アーカイブ連盟(FIAF)の活動や諸事業に関しては、フィルムセンター主幹がその会長に就任したこともあり、第 65 回ブエノスアイレス会議への出席、同シンポジウムへの参加、運営委員会の開催（トゥールーズ）をはじめ、これまで以上に積極的に取り組んだ。
- ・川喜多記念映画文化財団、国際交流基金との共同主催により「川喜多かしこ生誕 100 年記念事業 川喜多賞受賞監督作品選集」を開催し、フィルムセンターを含む 3 機関が所蔵する英語字幕付き日本映画の上映会を行った。
- ・「日本映画海外普及連絡会の会合」を開催した。  
第 1 回：平成 22 年 3 月 29 日（月）  
「東京国立近代美術館フィルムセンター大学等連携委員会」を設置し、会議を開催した。  
第 1 回：平成 21 年 12 月 18 日（金）
- ・「東京国立近代美術館フィルムセンター・アーカイブ事業等検討委員会」を実施した。  
第 1 回：平成 21 年 9 月 25 日（金）
- ・文化庁の芸術選奨選考試写のため施設を提供した。  
平成 22 年 1 月 6 日（水）～8 日（金）
- ・相模原市及び独立行政法人宇宙航空研究開発機構との文化事業等協力協定に基づき、資源及び情報等を活用し、文化事業を連携・協力して行った。  
「こども映画鑑賞会と施設探検ツアー」平成 21 年 7 月 24 日（金）、25 日（土）  
「さがみ風っ子文化祭」親子映画鑑賞会平成 21 年 10 月 31 日（土）

⑤ フィルムセンターの東京国立近代美術館からの独立の検討

「メディア芸術の国際的な拠点の整備に関する検討会」の「国立メディア芸術総合センター（仮称）設立準備委員会」にオブザーバーとして出席し、検討を行った。

第1回：平成21年7月2日（木）

第2回：平成21年7月8日（水）

第3回：平成21年7月10日（金）

第4回：平成21年7月17日（金）

第5回：平成21年8月6日（木）

第6回：平成21年8月21日（金）

## II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

### 1 業務の効率化のための取り組み

#### (1) 各美術館の共通的な事務の一元化

国立美術館では、平成19年8月から本部に事務局長を置き、本部事務局の企画立案機能の充実を図るとともに、事務局長のトップマネジメントの下、各館の事務組織が有機的に連携し、効果的・効率的な業務を遂行しうる体制を整備しているところである。今年度においてはこれに加え、これまで各館で実施していた研究職員の選考等について法人として一体的に行う仕組みを構築するとともに、同様に各館で行っていた出版物のうち年報について法人本部において一元的に実施したところである。また、法人内で採用しているVPN（Virtual Private Network：暗号化された通信網）を用いてグループウェア及びテレビ会議システムを導入し活用することで、業務の効率化と経費の削減を図った。なお、法人が保有する情報に係るセキュリティのあり方と情報資産の安全な運用等について検討を行い、「国立美術館情報資産安全対策基本方針」「国立美術館情報資産安全管理規則」を策定した。

#### (2) 使用資源の削減

##### ① 省エネルギー（5年計画で1年に1.03%の減少）

●使用量、使用料金の削減割合（対前年度比（下段括弧書きは対平成17年度比））

館名	使用量			使用料金		
	電気	ガス	合計	電気	ガス	合計
東京国立近代美術館本館	94.5% (89.2%)	111.1% (75.3%)	103.8% (80.3%)	82.4% (90.5%)	87.3% (95.9%)	83.9% (92.2%)
東京国立近代美術館工芸館	95.2% (97.9%)	- (-)	95.2% (97.9%)	79.8% (86.8%)	- (-)	79.8% (86.8%)
東京国立近代美術館フィルムセンター	102.3% (114.6%)	- (-)	102.3% (114.6%)	84.8% (102.6%)	- (-)	84.8% (102.6%)
京都国立近代美術館	89.3% (80.3%)	85.8% (58.6%)	87.5% (67.8%)	86.1% (84.3%)	72.6% (79.7%)	82.5% (83.2%)
国立西洋美術館	164.9% (97.4%)	102.6% (96.8%)	121.6% (97.1%)	109.5% (95.3%)	79.0% (109.2%)	97.1% (99.5%)
国立国際美術館	91.7% (89.3%)	- (-)	91.7% (89.3%)	89.3% (95.9%)	- (-)	89.3% (95.9%)
国立新美術館	98.8% (91.6%)	105.1% (96.0%)	101.9% (93.7%)	81.1% (85.1%)	82.9% (82.9%)	81.6% (84.5%)
法人全体	105.6% (93.5%)	104.3% (90.6%)	105.0% (92.1%)	86.9% (89.9%)	81.8% (90.6%)	85.6% (90.1%)

※東京国立近代美術館工芸館・フィルムセンター及び国立国際美術館は、ガス設備を設置していない。

※使用量の合計は、電気1kwhあたり3.6MJ、ガス1m<sup>3</sup>あたり44.8MJ（資源エネルギー庁「エネルギー源別標準発熱量表」による。）に換算して合計したものである。

※国立新美術館の下段括弧書きは、平成19年度がフルオープンであるため、対平成19年度比で計上している。

##### ●特記事項（増減の理由等）

省エネルギーについては、展覧会場における空調使用や美術作品収蔵庫における一定温湿

度維持等、業務の性質上、削減が難しい事情があるものの、従来から引き続き、美術作品のない区画における空調設定温度への配慮（夏季28℃、冬季20℃）、夏季における職員の服装の軽装化、不使用設備機器類のこまめな停止等、個々の意識の啓発によりエネルギーの削減に努めた。また、国立新美術館においては、BEMS（Building and Energy Management System）を設置し、細かな建物使用エネルギーや室内環境の把握が可能となったことにより、定例的に省エネルギー推進会議を開催し、省エネルギー対策に取り組んでいる。

当事業年度における主な増減理由は使用量については京都国立近代美術館の収蔵ラック増設等工事に伴う休館による減少ならびに国立西洋美術館新館の工事完了によるフルオープンによる増加が要因である。また、使用料金については価格改定の影響を受け、前年度より減少となっている。

なお、対平成17年度（国立新美術館においてはフルオープンが平成19年度のため、対平成19年度）と比較すると、東京国立近代美術館フィルムセンターにおいては上映回数が平成17年度751回に対し、当事業年度876回と16.6%の増加があるため、使用量ならびに使用料金の増加となっているが、国立美術館全体では対平成17年度と比較して、使用量は△7.9%、使用料金は△9.9%と削減が図られている。

## ② 廃棄物減量化（排出量を5年期間中5%減少）

● 排出量、廃棄料金の削減割合（対前年度比（下段括弧書きは対平成17年度比））

館名	排出量			廃棄料金	
	一般廃棄物	産業廃棄物	合計	一般廃棄物	産業廃棄物
東京国立近代美術館本館	105.1% (50.6%)	102.3% (84.0%)	104.1% (59.0%)	184.0% (70.9%)	272.9% (122.2%)
東京国立近代美術館工芸館	115.4% (97.8%)	70.5% (78.9%)	106.6% (94.8%)	202.0% (136.9%)	139.8% (114.8%)
東京国立近代美術館フィルムセンター	89.4% (32.3%)	84.5% (26.0%)	86.7% (28.6%)	89.4% (27.0%)	84.5% (15.1%)
京都国立近代美術館	679.1% (120.0%)	146.6% (68.1%)	276.8% (92.0%)	- (-)	167.8% (64.2%)
国立西洋美術館	95.8% (114.5%)	132.9% (127.8%)	107.5% (119.4%)	95.8% (76.5%)	132.9% (77.2%)
国立国際美術館	98.7% (102.4%)	65.7% (-)	98.7% (102.4%)	100.0% (100.0%)	65.7% (3.2%)
国立新美術館	98.3% (85.0%)	111.6% (53.5%)	101.0% (75.2%)	115.1% (68.7%)	421.4% (181.9%)
法人全体	116.0% (86.0%)	118.9% (63.5%)	116.9% (76.9%)	121.5% (71.5%)	236.9% (87.3%)

※京都国立近代美術館は、一般廃棄物の処理を清掃業者に一括して委託しているため、廃棄料金が算出できない。

※国立国際美術館の産業廃棄物は、平成19年度に数量の計上方法が変更となっているため、対平成17年比較の記載ができない。

※国立新美術館の下段括弧書きは、平成19年度がフルオープンであるため、対平成19年度比で計上している。

### ● 特記事項（増減の理由等）

廃棄物の減量化については、開館日数や来館者数の増減により影響を受けるのが現状であ

るが、電子メールやグループウェアによる通知文書の発信やサーバ保存文書の共同利用、両面印刷の促進や裏紙の再利用等によるペーパーレス化ならびに用紙の節減に努めた。また、リサイクルの古紙の分別回収を進めることにより、廃棄物の削減を図った。

しかしながら、京都国立近代美術館における収蔵庫改修のための倉庫整理による廃棄物の増加や国立新美術館における蛍光灯の廃棄等の理由により、法人全体では前年度と比べ、排出量および廃棄料金が増加となった。

なお、対平成 17 年度（国立新美術館においてはフルオープンが平成 19 年度のため、対平成 19 年度）と比較すると、国立西洋美術館においては、来館者が平成 17 年度 824,336 人に対し、当事業年度 1,268,141 人と 53.8%の増加となったことや、京都国立近代美術館ならびに国立新美術館においては上記の理由により排出量の増加があったが、国立美術館全体では対平成 17 年度と比較して、排出量は△23.1%、廃棄料金は△12.7%と削減が図られている。

### ③ リサイクルの推進

古紙含有率 100%のコピー用紙の利用、古紙の裏面利用による再利用、廃棄物の分別、OA 機器等トナーカートリッジのリサイクルによる再生使用を引き続き行い、更なるリサイクルの推進に努めた。

また、当事業年度から国立新美術館のレストランにおいては、使い捨て食器から再利用食器へ変更を行い、リサイクルの推進に努めた。

## (3) 美術館施設の利用推進

### 外部への施設の貸出

各館の貸出施設名	貸出日数
東京国立近代美術館本館（講堂）	29日
東近美フィルムセンター（小ホール）	13日
東近美フィルムセンター（会議室）	15日
京都国立近代美術館（講堂）	2日
京都国立近代美術館（会議室）	5日
国立西洋美術館（講堂）	20日
国立西洋美術館（会議室）	6日
国立国際美術館（講堂）	79日
国立国際美術館（会議室）	15日
国立新美術館（講堂）	85日
国立新美術館（研修室A）	67日
国立新美術館（研修室B）	56日
国立新美術館（研修室C）	42日
計	434日

### ●特記事項

外部への施設の貸出については、館の事業に差し支えない範囲で、会議室、講堂、研修室の外部への貸出を行い、共催者から提案のあった講演会やイベント等への貸出ならびに展示室やロビー、エントランス等においてのイベントの開催等にも可能な限り対応を行った。

特に講堂については、利用促進PRのための利用案内をホームページに掲載するなど積極的に利用の推進を図り、フィルムセンターの小ホールについても、可能な限り外部への貸出を行った。

#### (4) 民間委託の推進

##### ① 一般管理部門を含めた組織・業務の見直しと民間委託の推進

次の外部委託を行い業務の効率化を図った。

(ア) 会場管理業務, (イ) 設備管理業務, (ウ) 清掃業務, (エ) 保安警備業務, (オ) 機械警備業務, (カ) 収入金等集配業務, (キ) レストラン運営業務, (ク) アートライブラリ運営業務, (ケ) ミュージアムショップ運営業務, (コ) 美術情報システム等運営支援業務, (サ) ホームページサーバ運用管理業務, (シ) 電話交換業務, (ス) 展覧会アンケート実施業務

平成 21 年度において主な民間委託の推進としては、「独立行政法人整理合理化計画（平成 19 年 12 月 24 日、閣議決定）」, (別表)「各独立行政法人について講ずべき措置」中の「【民間競争入札の適用】○東京国立近代美術館等の管理・運営業務（展示事業の企画等を除く。）について、民間競争入札を実施する。」のとおり、「東京国立近代美術館本館及び工芸館の包括管理業務」を「競争の導入による公共サービスの改革に関する法律」に則り、平成 21 年 4 月から実施した。

また、平成 21 年度の新たな外部委託としては、京都国立近代美術館における常駐警備業務の外部委託、国立西洋美術館における設備管理業務の外部委託ならびに国立新美術館における展覧会アンケートならびに顧客満足度調査等の外部委託を行うことにより、業務の効率化を図った。

##### ② 広報・普及業務の民間委託の推進

(ア) 情報案内業務, (イ) 広報物等発送業務, (ウ) 交通広告等掲載, (エ) ホームページ改訂・更新業務, (オ) インターネット検索サイト, (カ) ラジオCM等を利用した総合的な広報宣伝業務, (キ) 雑誌「ぴあ」広告掲載年間契約及びチケット販売委託, (ク) 講堂音響設備オペレーティング委託を行った。

#### (5) 競争入札の推進

##### ① 一般競争入札の実績

ア. 契約件数及び契約金額（少額随契を除く） 224 件, 13,058,655,650 円

イ. 契約種別毎の年間契約数

①競争契約 78 件 (34.8%) , 2,688,104,238 円 (20.6%)

【内訳】

・一般競争入札 78 件, 2,688,104,238 円

②随意契約 146 件 (65.2%) , 10,370,551,412 円 (79.4%)

【内訳】

・同一所管公益法人等 2 件, 7,391,621,939 円

・同一所管公益法人等以外の法人等 144 件, 2,978,929,473 円

(うち美術作品の購入に関する随意契約 87 件, 1,851,459,907 円)

ウ. 公益調達の適正化（財計第 2017 号）等に即した実施状況  
別紙 1 を参照

## ●特記事項

当事業年度において、随意契約の占める割合は、件数では全体の 65.2%、金額では全体の 79.4%となっている。このうち、同一所管公益法人等の契約（2件、7,391,621,939円）については、国立新美術館における土地購入ならびに土地借料である。また、同一所管公益法人等以外の法人等の契約（146件、10,370,551,412円）の中には、本法人特有の業務である美術作品の購入に関する随意契約（87件、1,851,459,907円）が含まれている。これらの理由により、本法人の随意契約の割合比率は高くなっているが、これらの特殊な事由を除く比率で比較すると、随意契約の比率は件数で全体の 42.2%、金額は全体の 29.5%となる。

また、随意契約見直し計画で競争性のある契約に移行することとしていた案件は当事業年度において全て競争契約へ移行済みとなっており、当事業年度において新規に発生した案件に関しても、真にやむを得ない場合を除き、全て一般競争契約や公募、企画競争等の競争性のある契約を行っている。

## 2 事業評価及び職員の研修等

### ① 外部有識者による事業評価

#### ア 本部

独立行政法人国立美術館運営委員会を2回（平成21年7月23日及び平成22年3月10日）開催し、平成20年度事業実績並びに、平成21年度事業の実施状況及び22年度事業計画（案）について説明聴取の上、意見交換を行った。

また、独立行政法人国立美術館外部評価委員会を3回（平成21年4月15日、5月27日及び6月18日）開催し、平成20年度事業実績について説明聴取の上、審議し評価報告書を取りまとめた。

#### イ 東京国立近代美術館

評議員会（美術・工芸部会）を2回（平成21年7月7日及び平成22年3月2日）、評議員会（映画部会）を2回（平成21年7月15日及び平成22年3月2日）開催し、平成20年度事業実績、平成21年度事業の実施状況及び平成22年度事業計画（案）について説明聴取の上、意見交換を行った。

#### ウ 京都国立近代美術館

評議員会を1回（平成21年11月25日）開催し、平成20年度事業実績、平成21年度年度計画及び事業実施状況、平成22年度事業計画等について説明聴取の上、意見交換を行った。

#### エ 国立西洋美術館

評議員会を1回（平成21年10月26日）開催し、平成20年度事業報告及び平成21年度事業計画について説明聴取の上、意見交換を行った。

#### オ 国立国際美術館

評議員会を1回（平成22年3月5日）開催し、平成21年度事業報告及び平成22年度事業計画について説明聴取の上、意見交換を行った。

#### カ 国立新美術館

評議員会を1回（平成21年8月20日）開催し、平成20年度事業実績、平成21年度事業実施状況及び平成24年度以降の公募展事業について説明聴取の上、意見交換を行った。

## 3 管理情報の安全性向上

個人情報保護については、個人情報保護に関する説明会への参加や情報漏えいの事例等の通知を行うとともに、個人情報ファイルの保有状況調査の実施等にあわせ、重要書類は鍵のかかる保管庫に納めること、個人情報を取り扱う業務中に離席する際は、当該書類やパソコン画面を他の職員

等から見られないような措置を講じること、廃棄する際はシュレッダーにかけることなど、厳格に書類管理を行っている。ウィルス対応ソフトウェアの導入の徹底や最新のプログラムへの更新を随時行うなど、電子メール等による外部からのウィルス進入を回避する安全策を講じた。

また、独立行政法人国立美術館保有個人情報管理規則第50条に基づき、当法人の保有個人情報の管理状況について、平成21年10月28日に監事による監査を実施した。

#### 4 人件費の抑制、給与体系の見直し

##### ① 人件費決算

決算額 967,616千円（対平成20年度比較 99.1%）

・人件費は常勤職員を対象とし、退職金、福利厚生費を含まない。

##### ●特記事項

退職者の後任不補充、新規採用や人事交流による職員の若返り等により、前年度と比較して0.9%減少した。なお、「行政改革の重要方針」（平成17年12月24日閣議決定）による人件費の削減への取り組みについては、平成21年度は、基準年度に比べ△4.8%（純減率）を達成している。

##### ② 給与体系の見直し

国家公務員の給与等を考慮して、平成18年4月から俸給表の水準を全体として平均4.8%引下げるとともに、級の構成の見直し、きめ細かい勤務実績の反映を行うため号俸の4分割を行ったほか、調整手当を廃止し、地域手当を新設するなど、国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与体系の見直しを行った。

また、国立美術館の職員が行う職務は、国の行政職俸給表（一）又は研究職俸給表の適用を受けるものと同等の職務であるとみなし、給与についても一般職給与法に準拠した給与制度で支給してきていることを前提に、これらとの比較を行った（「独立行政法人の役職員の給与等の水準（平成20年度）」平成21年7月27日総務省公表資料を参照。）。

#### ア 一般職俸給表の適用を受ける職員の給与水準

<国との比較>

項目	国	国立美術館
平均年齢	41.1歳	38.6歳
学歴（大学卒の割合）	44.7%	77.1%
調整手当支給率 ※1	41.0%	100%

※1 1級地、2級地及び4級地の支給地の割合

<他の独立行政法人との比較> 20年度年間給与額

項目	全独立行政法人	国立美術館
給与総額	7,306千円	6,152千円
平均年齢	43.4歳	38.6歳
ラスパイレス指数 ※2	107.0	103.7

※2 国の行政職俸給表（一）適用者の給与を100としたときの給与水準の指数

#### イ 研究職俸給表の適用を受ける職員の給与水準

<国との比較>

項目	国	国立美術館
平均年齢	44.8歳	43.6歳
学歴（大学卒の割合）	96.4%	100%
調整手当支給率 ※3	41.0%	100%

※3 1級地、2級地及び4級地の支給地の割合

<他の独立行政法人との比較> 20年度年間給与額

項 目	全独立行政法人	国立美術館
給与総額	9,040千円	8,285千円
平均年齢	45.0歳	43.6歳
ラスパイレス指数 ※4	100.8	95.6

※4 国の研究職俸給表適用者の給与を100としたときの給与水準の指数

ウ 常勤役員の年間報酬

項 目	全独立行政法人	国立美術館
法人の長	18,605千円	19,304千円
理事	15,495千円	17,815千円

③ 平成21年度の役職員の報酬・給与等について

別紙2「独立行政法人国立美術館の役職員の報酬・給与等について」を参照。

### Ⅲ 予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画等

#### 1 予算（単位：千円）

区 分	計画額	実績額	増△減額
収入			
運営費交付金	5,773,106	5,773,106	0
展示事業等収入（注1）	984,737	1,297,350	312,613
寄附金収入	-	16,948	16,948
施設整備費補助金（注2）	9,938,856	7,205,403	△2,733,453
文化芸術情報電子化推進費補助金	1,050,000	1,049,458	△541
計	17,746,699	15,342,266	△2,404,432
支出			
運営事業費	6,757,843	6,587,575	170,268
管理部門経費	1,804,981	1,812,926	△7,945
うち人件費（注3）	339,843	346,293	△6,450
うち一般管理費	1,465,138	1,466,632	△1,494
事業部門経費	4,952,862	4,774,649	178,212
うち人件費（注3）	815,554	843,113	△27,559
うち展覧事業費（注4）	3,076,621	2,735,154	341,466
うち調査研究事業費（注5）	157,827	197,703	△39,876
うち教育普及事業費（注5）	902,860	998,677	△95,817
施設整備費補助金（注2）	9,938,856	7,149,543	2,789,312
文化芸術情報電子化推進費補助金	1,050,000	1,049,458	541
計	17,746,699	14,786,578	2,960,120
収支差引	-	555,688	555,688

主な増減理由

（注1）入場料収入等の増加による。

（注2）前年度繰越工事の完了ならびに当年度工事未完により次期へ繰越したことによる。

（注3）前年度繰越の退職手当支出相当額を計上したことによる。

（注4）支出経費の見直しならびに業務未達成の運営費交付金の繰越による。

（注5）支出経費の見直しによる。

※金額は切り捨てのため、合計等が合致しない場合がある。

#### ●特記事項

運営費交付金を充当して行う業務では、人件費が予算に比べて34,009千円の支出増となった。これは、前年度繰越を行った運営費交付金により退職手当を支出したことが主な要因である。物件費は、当事業年度に業務を達成できなかった作品の収集に係る運営費交付金を次事業年度に繰越を行った等の要因により、予算に比べ204,279千円の支出減となった。

展示事業等収入は、展覧会の入館者数が目標入館者数を上回ったことが収入の増加に繋がった。その他事業収入では、国立新美術館の公募展事業収入が収入の増加に繋がった。これらの理由により、展示事業等収入は予算に比べて312,613千円の収入増となった。

施設整備費補助金は前年度に工事が未完となった東京国立近代美術館熱源機器設備更新工事（第2年次目）ならびに京都国立近代美術館収蔵ラック等増設工事（第2年次目）が当事業年度に完了したため収入ならびに支出が327,493千円増加し、工事が未完となった東京国立近代美術館相模原分館増築工事、東京国立近代美術館フィルムセンター外壁他改修工事ならびに東京国立近代美術館工芸館外壁等補修工事を翌事業年度に繰越をしたため3,060,946千円の収入の減少ならびに3,116,805千円の支出の減少となった。

寄附金については、59件、16,948千円を獲得した。うち11,866千円を当年度の収益とし、

残りの 5,082 千円を次年度以降に繰り越して執行する予定である。

## 2 収支計画（単位：千円）

区 分	計画額	実績額	増△減額
費用の部			
経常経費	5,945,863	5,701,027	△244,836
管理部門経費	1,861,352	1,839,939	△21,413
うち人件費                  (注1)	339,843	346,293	6,450
うち一般管理費             (注2)	1,521,509	1,493,646	△27,863
事業部門経費	3,948,862	3,689,145	△259,717
うち人件費                 (注1)	815,554	843,113	27,559
うち展示事業費             (注3)	2,091,621	1,668,745	△422,876
うち調査研究事業費       (注4)	154,827	188,316	33,489
うち教育普及事業費       (注4)	886,860	988,971	102,111
減価償却費	135,649	171,943	36,294
収益の部			
経常費用	5,945,863	5,882,951	△62,912
運営費交付金収益             (注3)	4,722,449	4,296,827	△425,622
展示事業等の収入             (注5)	984,737	1,348,104	363,367
資産見返運営費交付金戻入	111,628	155,706	44,078
資産見返寄附金戻入	-	1,544	1,544
資産見返物品受贈額戻入	23,678	14,677	△9,001
施設費収益                    (注6)	103,371	66,093	△37,278
経常利益		181,924	
臨時損失		2,763	
臨時利益		17,979	
当期純利益		197,140	
前中期目標期間繰越積立金取崩額		5,647	
当期総利益		202,787	

主な増減理由

(注1) 前期繰越予算により退職手当を支出したことによる。

(注2) 施設整備費補助金による費用への計上が減少したことによる。

(注3) 計画に基づく美術品・収蔵品を収集できなかったことから運営費交付金債務を繰越したことによる。

(注4) 支出経費の見直しを行ったことによる。

(注5) 入場料収入等の増加ならびに補助金等収益、受託収入等の計上による。

(注6) 当事業年度未完の施設整備費補助金を繰越したことによる減少。

※金額は切り捨てのため、合計等が合致しない場合がある。

### 3 資金計画（単位：千円）

区分	計画額	実績額	増△減額
資金支出	17,746,699	14,538,643	△3,208,056
業務活動による支出（注1）	6,755,768	6,680,398	△75,370
投資活動による支出（注2）	10,990,931	7,857,614	△3,133,317
財務活動による支出	-	630	630
資金収入	17,746,699	15,198,550	△2,548,149
業務活動による収入	7,807,843	7,340,241	△467,602
運営費交付金による収入	5,773,106	5,773,106	-
展示事業等による収入（注3）	984,737	1,411,291	426,554
文化芸術情報電子化推進費補助金による収入（注4）	1,050,000	155,844	△894,156
投資活動による収入	9,938,856	7,858,308	△2,080,548
施設整備補助金による収入（注2）	9,938,856	7,858,308	△2,080,548
資金に係る換算差額		△1,760	
資金増加額		658,147	
資金期首残高		1,777,306	
資金期末残高		2,435,453	

主な増減理由

（注1）活動内容の見直しによる。

（注2）前期繰越工事の完了および当期工事の未完による。

（注3）入場料収入等の増加による。

（注4）未収入金計上のため当期の実績が減少したことによる。

※金額は切り捨てのため、合計等が合致しない場合がある。

### 4 貸借対照表（単位：千円）

資産の部		負債及び純資産の部	
資産の部		負債の部	
I 流動資産	3,691,886	I 流動負債	2,681,346
II 固定資産		II 固定負債	1,084,849
1. 有形固定資産	142,334,594	負債合計	3,766,195
2. 無形固定資産	24,880		
固定資産合計	142,359,475	純資産の部	
		I 資本金	81,019,148
		II 資本剰余金	59,804,776
		III 利益剰余金	1,461,240
		純資産合計	142,285,165
資産の部合計	146,051,361	負債及び純資産の部合計	146,051,361

※金額は切り捨てのため、合計等が合致しない場合がある。

## 5 短期借入金

実績なし

## 6 重要な財産の処分等

実績なし

## 7 剰余金

### (1) 当期末処分利益の処分計画

区分	金額 (円)
当期末処分利益	202,787,866
当期総利益	202,787,866

### (2) 利益の生じた主な理由

予算額を上回った自己収入があったことによる。

#### ●特記事項

国立新美術館及び国立国際美術館の両館で開催された「ルーブル美術館展－美の宮殿の子どもたち－」において両館合わせた目標入館者数 330,000 人に対して 481,779 人、国立西洋美術館で開催した「ルーブル美術館展－17 世紀ヨーロッパ絵画－」及び「古代ローマ帝国の遺産－栄光の都ローマと悲劇の街ポンペイ－」において両展を合わせた目標入館者 460,000 人に対して 829,975 人の入館者数があったことなどにより、収入予算額を上回る収入を得ることができた。

### (3) 目的積立金の使用状況

今中期期間における目的積立金の承認がないため、実績はない。

### (4) 積立金（通則法第 44 条第 1 項）の状況（単位：円）

使途の内訳	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
積立金	675,723,670	206,844,009	0	882,567,679
前中期目標期間 繰越積立金	381,532,745	0	5,647,320	375,885,425

「独立行政法人の経営努力認定について（平成 18 年 7 月 21 日（平成 19 年 7 月 4 日改訂）総務省行政管理局）」の（3）「独立行政法人の経営努力認定の基準」、②「経営努力認定の対象案件の利益の実績が原則として前年度実績額を上回ること（ただし、前年度実績が前々年度の実績を下回っている場合には、その理由を合理的に説明することが必要。）。」に対する合理的な説明が不足したことにより、通則法 44 条第 3 項による目的積立金の申請を行わなかった。

また、前中期目標期間繰越積立金の当期減少額はファイナンスリース損益に係る影響額（前期修正分を含む）である。

## 8 人事に関する計画

### 職種別人員の増減状況（過去 5 年分）

(単位：人)

職種※	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度
定年制研究系職員	60	61	61	61	61
定年制事務系職員	70	70	70	70	70

① 「公務員の給与改定に関する取扱について（平成18年10月17日閣議決定）」に基づき、公務員の例に準じて措置、対処している。

② 人事交流の推進

事務系職員については、文化庁、国立大学法人及び他の独立行政法人との間で定期的な人事交流を行い、組織の効率化と個々の職員の能力の発揮とその向上を考慮して人事配置を行った。

③ 職員の研修等

ア 東京国立近代美術館

- ・文部科学省主催「平成21年度博物館長研修」（1名）
- ・人事院主催「平成21年度関東地区新採用職員研修」（2名）
- ・法務省主催「平成21年度人権に関する国家公務員等研修会」（2名）
- ・国立大学協会主催「平成21年度関東・甲信越地区国立大学法人等係長研修」（1名）
- ・国立大学協会主催「平成21年度関東・甲信越地区及び東京地区実践セミナー（人事・労務の部）」（1名）
- ・日本博物館協会主催「第57回全国博物館大会」（2名）
- ・第58回全国美術館会議総会（3名）
- ・全国美術館会議 教育普及研究部会 第2回フォーラム・連続公開インタビュー（1名）
- ・第5回アジア次世代美術館キュレーター会議（1名）
- ・国立情報学研究所主催「平成21年度学術ポータル担当者研修」（1名）
- ・国立情報学研究所主催「平成21年度ネットワークセキュリティ対策技術研修」（1名）
- ・国立美術館「平成21年度接遇・クレーム研修」（8名）
- ・オーストラリア大使館カルチュラル・ビジターズ・プログラム（日豪学芸員交流事業）として派遣（1名）
- ・文部科学省学芸員等在外派遣研修生として海外へ派遣（1名）
- ・防災訓練（平成21年6月24日）

イ 京都国立近代美術館

- ・人事院主催「平成21年度第2回近畿地区セクシュアル・ハラスメント防止研修」（1名）
- ・日本博物館協会主催「第57回全国博物館大会」（1名）
- ・全国美術館会議討論会（1名）
- ・国立美術館「平成21年度接遇・クレーム研修」（2名）
- ・避難誘導訓練・消火訓練（平成21年9月28日）

ウ 国立西洋美術館

- ・人事院主催「平成21年度関東地区新採用職員研修」（1名）
- ・国立文化財機構東京文化財研究所主催「平成21年度博物館・美術館等の保存担当学芸員研修」（1名）
- ・大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館主催「平成21年度アーカイブズ・カレッジ史料管理学研修会」（1名）
- ・第58回全国美術館会議総会（1名）
- ・全国美術館会議 第25回学芸員研修会（1名）
- ・全国美術館会議 教育普及研究部会 第2回フォーラム・連続公開インタビュー（1名）
- ・全国美術館会議 教育普及研究部会「からだのワークショップ ERG 特別バージョン～5時間、全身で視る」（3名）
- ・全国美術館会議 情報・資料研究部会 企画セミナー

- 「美術情報・資料の活用法―展覧会カタログから Web まで」 (1名)
- ・全国美術館会議討論会 (2名)
- ・財団法人日本産業廃棄物処理振興センター主催「平成 21 年度特別管理産業廃棄物管理責任者に関する講習会」 (1名)
- ・国立大学協会主催「平成 21 年度関東・甲信越地区国立大学法人等係長研修」 (1名)
- ・文部科学省主催「第 4 回研究機関における公的研究費の管理・監査に関する研修会」 (2名)
- ・人事院主催「第 4 1 回関東地区係長研修」 (1名)
- ・平成 21 年度国立美術館接遇・クレーム研修 (2名)
- ・消防訓練 (平成 21 年 11 月 9 日)
- ・台東区主催「上野駅周辺滞留者対策訓練」 (2名)

#### エ 国立国際美術館

- ・大阪大学主催「平成 21 年度大阪大学係長研修 (新任)」 (1名)
- ・全国美術館会議討論会 (5名)
- ・第 4 回アジア美術館長会議 (1名)
- ・第 5 回アジア次世代美術館キュレーター会議 (1名)
- ・国立美術館主催「平成 21 年度新任職員接遇・クレーム研修」 (2名)
- ・近畿管区行政評価局主催「政策評価に関する統一研修」 (1名)
- ・文部科学省学芸員等在外派遣研修生として海外へ派遣 (1名)
- ・消防訓練 (平成 21 年 10 月 19 日)

#### オ 国立新美術館

- ・文部科学省主催「大学等における省エネルギー対策に関する研修会」 (2名)
- ・国立情報学研究所主催「目録システム講習会」 (1名)
- ・全国美術館会議 情報・資料研究部会 企画セミナー  
「美術情報・資料の活用法―展覧会カタログから Web まで」 (1名)
- ・全国美術館会議討論会 (1名)
- ・平成 21 年度国立美術館「接遇・クレーム研修」 (8名)
- ・独立行政法人工業所有権・情報研修館主催「知的財産権研修 (初級)」 (1名)
- ・自衛消防訓練 (業者含む。平成 22 年 1 月 26 日)

### 9 施設整備に関する計画

東京国立近代美術館工芸館石垣補修等工事、東京国立近代美術館フィルムセンター相模原分館映画フィルム等収納設備工事、京都国立近代美術館空気調和設備改修 (2 年計画の 1 年次目) ならびに京都国立近代美術館建物等改修工事については新規事業として、また、国立新美術館土地購入については平成 19 年度からの継続事業として、平成 22 年度予算において、施設整備費補助金が計上された。

### 10 関連公益法人

該当なし。

# 「公共調達適正化について」(財計第2017号) 等に即した実施状況

〔独立行政法人国立美術館〕

## 1. 公共調達の適正化についての実施状況

### (1) 再委託の適正化を図るための措置

・措置済み ( ) ・一部未措置 ( ) ・未措置 ( )

措置済みと回答した場合

・具体的な措置内容(契約書に再委託禁止の条項を盛り込んでいる。)

### (2) 契約に係る情報の公表

・措置済み ( ) ・一部未措置 ( ) ・未措置 ( )

措置済みと回答した場合

・具体的な措置内容(法人ホームページにて公表)

各施設、各館等で公表を行っている場合に、法人のメインの公表ページへの直接リンクを行っているか

・措置済み ( ) ・未措置 ( ) ・各施設、各館等での公表はしていない。

### (3) 公共調達に関する問合せの総合窓口の設置

・措置済み ( ) ・未措置(実施に向け検討中)

措置済みと回答した場合

・問合せ窓口[担当部署] ( )

・URL ( )

### (4) 内部監査の実施

#### (イ) 監査計画等に随意契約の重点的監査を記載

・措置済み ( ) ・未措置 ( )

#### (ロ) 監査マニュアル等の整備

・措置済み ( ) ・未措置 ( )

#### (ハ) 内部監査の実施状況をデータベース化している。

・措置済み ( ) ・未措置(実施に向け検討中)

### (5) 決裁体制の強化

・措置済み ( ) ・未措置 ( )

措置済みと回答した場合

・具体的な措置内容(監査担当係を置き、相互牽制を図っている。)

## 2. 随意契約の適正化の一層の推進についての実施状況

### (1) 随意契約見直し計画の厳正な実施の徹底

・措置済み ( ) ・一部未措置 ( ) ・未措置 ( )

### (2) 監事の入札・契約の適正な実施についての徹底的なチェック

・措置済み ( ) ・未措置 ( )

## 独立行政法人国立美術館の役員報酬・給与等について

## 役員報酬等について

## 1 役員報酬についての基本方針に関する事項

## 平成21年度における役員報酬についての業績反映のさせ方

平成21年度においては、平成20年度の評価結果を基に検討の結果、業績に反映するほどの特に顕著な業績や失態がなかったと判断し、役員報酬の増減は行わなかった。

## 役員報酬基準の改定内容

## 法人の長

国家公務員の給与を考慮して、報酬月額引き下げ及び期末特別手当の支給率引き下げを行った。  
 (報酬月額: 994,000円 991,000円)  
 (期末特別手当支給率: (6月期) 100分の160, (12月期) 100分の175  
 (6月期) 100分の145, (12月期) 100分の165)

## 理事

国家公務員の給与を考慮して、報酬月額引き下げ及び期末特別手当の支給率引き下げを行った。  
 (報酬月額: 728,000円から994,000円までの範囲内で理事長が決定する額  
 726,000円から991,000円までの範囲内で理事長が決定する額)  
 (期末特別手当支給率: (6月期) 100分の160, (12月期) 100分の175  
 (6月期) 100分の145, (12月期) 100分の165)

## 監事(非常勤)

監事の業務の重要性及び業務量を勘案し、職責に相当する報酬に改善を図るため、非常勤監事に係る非常勤役員手当の引き上げを行った。  
 (月額17,000円 月額80,000円)

## 2 役員報酬等の支給状況

役名	平成21年度年間報酬等の総額				就任・退任の状況		前職
	報酬(給与)	賞与	その他(内容)	就任	退任		
法人の長	千円 18,819	千円 11,916	千円 4,834	千円 2,026 (地域手当) 43 (通勤手当)			
A理事	千円 5,145	千円 2,766	千円 1,994	千円 277 (地域手当) 108 (通勤手当)		H21.6.30	
B理事	千円 10,184	千円 7,048	千円 1,924	千円 705 (地域手当) 138 (通勤手当) 369 (単身赴任手当)	H21.7.1		
C理事	千円 17,069	千円 11,052	千円 4,386	千円 1,547 (地域手当) 84 (通勤手当)			
A監事 (非常勤)	千円 771	千円 771	千円 0	千円 0			
B監事 (非常勤)	千円 771	千円 771	千円 0	千円 0			

注1:「地域手当」とは、当該地域における民間の賃金水準を基礎とし、当該地域における物価等を考慮して規則に定める地域に在勤する役員に支給されているものである。

注2:「前職」欄には、役員の前職の種類別に以下の記号を付している。

退職公務員「\*」、役員出向者「」, 独立行政法人等の退職者「」, 退職公務員でその後独立行政法人等の退職者「\*」, 該当がない場合は空欄。

3 役員の退職手当の支給状況(平成21年度中に退職手当を支給された退職者の状況)

区分	支給額(総額)	法人での在職期間	退職年月日	業績勘案率	摘要	前職
法人の長	千円	年 月			該当者なし	
理事	5,532 千円	4 年 0 月	H21.6.30	1.0	役員退職手当規則に基づき、文部科学省独立行政法人評価委員会が決定し、政策評価・独立行政法人評価委員会から意見なしとされた業績勘案率1.0を基に支給額を決定。	
監事 (非常勤)	千円	年 月			該当者なし	

注1:「摘要」欄には、独立行政法人評価委員会による業績の評価等、退職手当支給額の決定に至った事由を記入している。

注2:「前職」欄には、退職者の役員時の前職の種類別に以下の記号を付している。  
退職公務員「\*」、役員出向者「」,独立行政法人等の退職者「」,退職公務員でその後独立行政法人等の退職者「\*」,該当がない場合は空欄。

## 職員給与について

### 1 職員給与についての基本方針に関する事項 人件費管理の基本方針

〔 人員数及び効率化等を勘案した人件費を算出し、その範囲内で執行した。 〕

#### 職員給与決定の基本方針

##### ア 給与水準の決定に際しての考慮事項とその考え方

〔 学歴、試験、経験及び職務の責任の度合いを基に給与決定を行っている。 〕

##### イ 職員の発揮した能率又は職員の勤務成績の給与への反映方法についての考え方

〔 勤務評定等の結果を踏まえた勤務成績を考慮し、昇格、昇給の実施及び勤勉手当の成績率の決定を行っている。 〕

#### 〔能率、勤務成績が反映される給与の内容〕

給与種目	制度の内容
俸給月額 (昇格)	従事する職務に応じ、かつ、総合的な能力の評価により1級上位の級に昇格させることができる。
俸給月額 (昇給)	昇給期間における勤務成績等に応じて、上位の号俸に昇給させることができる。
賞与・勤勉手当 (査定分)	基準日以前6箇月以内の期間における、勤務成績に応じて決定される支給割合(成績率)に基づき支給される。

#### ウ 平成21年度における給与制度の主な改正点

〔 国家公務員の給与を考慮して、次の改正を行った。  
 ・地域手当の引上げ(東京特別区16% 17%, 相模原市7% 9%, 大阪市13% 14%)  
 ・俸給表の改正(国家公務員に準じた引き下げ)  
 ・期末手当・勤勉手当の支給率の改正(国家公務員に準じた引き下げ)  
 ・住居手当の支給要件の改正(新築・購入した自宅に係る住居手当の廃止) 〕

## 2 職員給与の支給状況

### 職種別支給状況

区分	人員	平均年齢	平成21年度の年間給与額(平均)			
			総額	うち所定内	うち通勤手当	うち賞与
常勤職員	103人	42.5歳	7,439千円	5,583千円	159千円	1,856千円
事務・技術	43人	39.0歳	6,171千円	4,600千円	162千円	1,571千円
研究職種	55人	43.9歳	8,185千円	6,167千円	156千円	2,018千円
技能・労務職種	3人	52.2歳	5,678千円	4,312千円	174千円	1,366千円
指定職種	2人	-	-	-	-	-
非常勤職員	2人	-	-	-	-	-
事務・技術	1人	-	-	-	-	-
研究職種	1人	-	-	-	-	-

注1: 常勤職員については、在外職員、任期付職員及び再任用職員を除く。

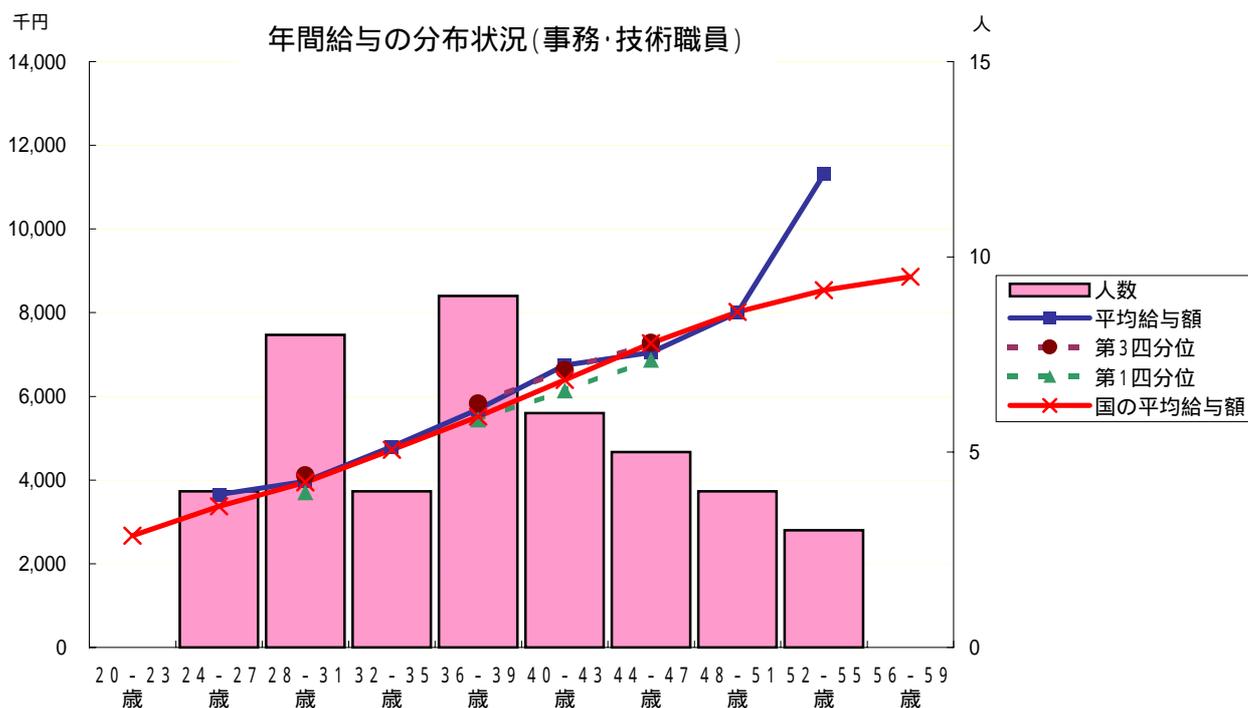
注2: 技能・労務職種とは、守衛の業務、又は映写技術に関する業務に従事する職種をいう。

注3: 指定職種とは、特に指定された高度な業務に従事する職種をいう。

注4: 常勤職員のうち指定職種及び非常勤職員に該当する者は2人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、「平均年齢」以下の項目を記載していない。

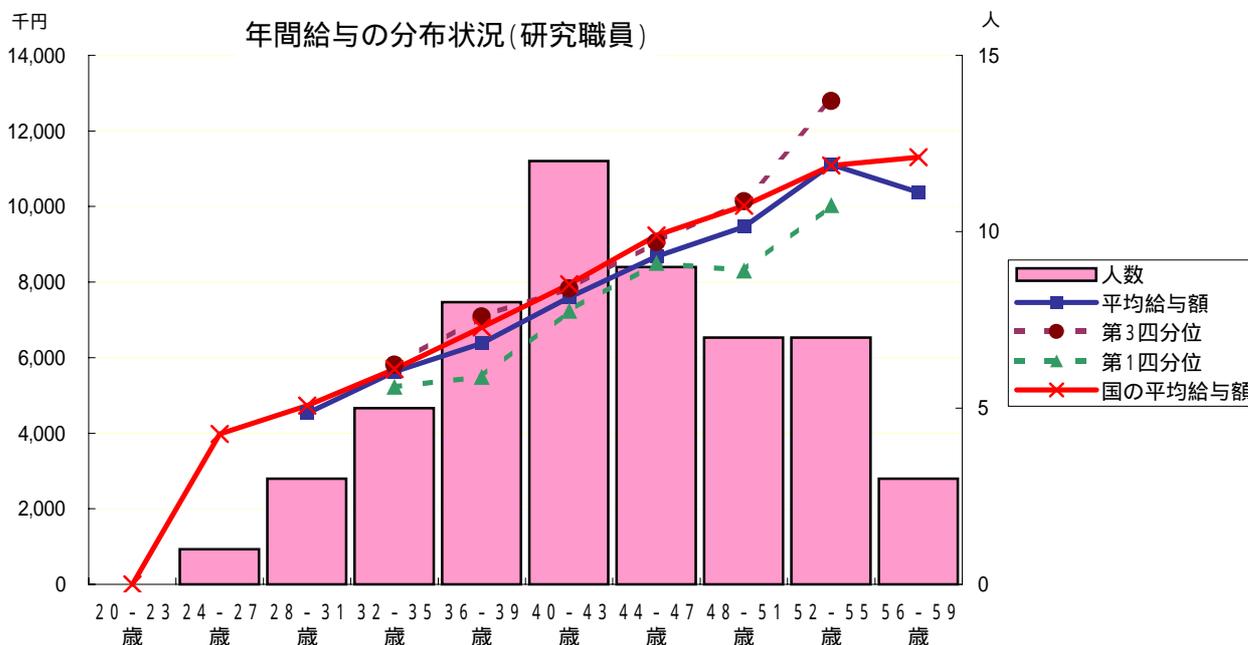
注5: 常勤職員のうち医療職種(病院医師)、医療職種(病院看護師)及び教育職種(高等専門学校教員)、在外職員、任期付職員、再任用職員並びに非常勤職員のうち事務・技術及び研究職種を除く各職種については、該当する者がいないため欄を省略した。

年間給与の分布状況(事務・技術職員 / 研究職員)〔在外職員，任期付職員及び再任用職員を除く。以下， まで同じ。〕



注1: の年間給与額から通勤手当を除いた状況である。以下， まで同じ。

注2: 年齢24-27歳，32-35歳，48 - 51歳及び52 - 55歳の該当者については4人以下のため，当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから，第1・第3分位を表示していない。



注1: 年齢28-31歳及び56-59歳の該当者については4人以下のため，当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから，第1・第3分位を表示していない。

注2: 年齢24-27歳の該当者については2人以下のため，当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから，第1・第3分位及び平均給与額を表示していない。

## (事務・技術職員)

分布状況を示すグループ	人員	平均年齢	四分位	平均	四分位
			第1分位		第3分位
	人	歳	千円	千円	千円
代表的職位					
本部局長	1	-	-	-	-
本部次長	1	-	-	-	-
課長	2	-	-	-	-
本部室長	3	50.8	-	7,766	-
室長	4	49.3	-	7,582	-
本部係長	3	38.2	-	5,775	-
係長	11	41.9	5,832	6,146	6,517
本部係主任	1	-	-	-	-
係主任	3	36.5	-	5,553	-
本部一般職員	5	28.5	3,703	3,921	4,223
一般職員	9	29.7	3,728	4,041	4,114

注1: 本部室長, 室長, 本部係長, 係主任の該当者は4人以下のため, 当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから, 第1・第3分位を記載していない。

注2: 本部局長, 本部次長, 課長, 本部係主任の該当者は2人以下のため, 当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから, 平均年齢以下の項目を記載していない。

## (研究職員)

分布状況を示すグループ	人員	平均年齢	四分位	平均	四分位
			第1分位		第3分位
	人	歳	千円	千円	千円
代表的職位					
副館長	2	-	-	-	-
課長	9	51.3	9,937	10,413	11,133
本部主任研究員	1	-	-	-	-
主任研究員	31	44.7	7,268	8,039	8,666
研究員	12	33.8	4,623	5,216	5,760

注: 副館長及び本部主任研究員の該当者は2人以下のため, 当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから, 平均年齢以下の項目を記載していない。

職級別在職状況等(平成22年4月1日現在)(事務・技術職員 / 研究職員)

(事務・技術職員)

区分	計	10級	9級	8級	7級	6級	5級	4級	3級	2級	1級
標準的な職位		施設の長	局長 副館長	局長 次長 副館長	次長 部長	部長 課長	課長 室長	室長 係長	係長 係主任	係主任 一般職員	一般職員
人員 (割合)	人 43	人 0 (0.0%)	人 1 (2.3%)	人 0 (0.0%)	人 1 (2.3%)	人 2 (4.7%)	人 0 (0.0%)	人 7 (16.3%)	人 17 (39.5%)	人 10 (23.3%)	人 5 (11.6%)
年齢(最高 ～最低)		歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳
所定内給与 年額(最高 ～最低)		千円	千円	千円	千円						
年間給与額 (最高～ 最低)		千円	千円	千円	千円						
			-	-	-	-	-	6,028～ 5,192	5,046～ 3,916	3,785～ 2,753	3,046～ 2,536
			-	-	-	-	-	8,342～ 7,182	6,874～ 5,310	5,016～ 3,703	3,992～ 3,394

注:9級,7級及び6級については該当者が2人以下であるため,当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから,「年齢(最高～最低)」以下の事項について記載していない。

(研究職員)

区分	計	6級	5級	4級	3級	2級	1級
標準的な職位		施設の長	副館長 課長	課長 主任研究員	主任研究員	研究員	研究員
人員 (割合)	人 55	人 0 (0.0%)	人 9 (16.4%)	人 17 (30.9%)	人 17 (30.9%)	人 12 (21.8%)	人 0 (0.0%)
年齢(最高 ～最低)		歳	歳	歳	歳	歳	歳
所定内給与 年額(最高 ～最低)		千円	千円	千円	千円	千円	千円
年間給与額 (最高～ 最低)		千円	千円	千円	千円	千円	千円
			9,607～ 7,409	7,971～ 5,914	6,134～ 4,590	4,918～ 3,002	
			13,281～ 9,937	10,543～ 7,928	8,126～ 6,171	6,511～ 4,040	

賞与(平成21年度)における査定部分の比率(事務・技術職員 / 研究職員)

(事務・技術職員)

区分		夏季(6月)	冬季(12月)	計
管理職員	一律支給分(期末相当)	% 58.3	% 57.2	% 57.7
	査定支給分(勤勉相当) (平均)	% 41.7	% 42.8	% 42.3
	最高～最低	% 41.8-41.5	% 44.5-41.5	% 43.1-41.6
一般職員	一律支給分(期末相当)	% 63.4	% 67.6	% 65.6
	査定支給分(勤勉相当) (平均)	% 36.6	% 32.4	% 34.4
	最高～最低	% 41.0～32.5	% 36.7～28.7	% 37.4～31.4

(研究職員)

区分		夏季(6月)	冬季(12月)	計
管理職員	一律支給分(期末相当)	% -	% -	% -
	査定支給分(勤勉相当) (平均)	% -	% -	% -
	最高～最低	% -	% -	% -
一般職員	一律支給分(期末相当)	% 64.1	% 68.1	% 66.2
	査定支給分(勤勉相当) (平均)	% 35.9	% 31.9	% 33.8
	最高～最低	% 41.0～33.1	% 36.3～29.2	% 36.6～31.0

注: 研究職員の管理職員は2人以下のため, 記載していない。

職員と国家公務員及び他の独立行政法人との給与水準(年額)の比較指標(事務・技術職員 / 研究職員)

对国家公務員(行政職(一))

105.1

对国家公務員(研究職)

95.8

对他法人(事務・技術職員)

98.7

对他法人(研究職員)

95.4

注: 当法人の年齢別人員構成をウエイトに用い, 当法人の給与を国の給与水準(「对他法人」においては, すべての独立行政法人を一つの法人とみなした場合の給与水準)に置き換えた場合の給与水準を100として, 法人が現に支給している給与費から算出される指数をいい, 人事院において算出

給与水準の比較指標について参考となる事項

事務・技術職員

項目	内容										
<p>指数の状況</p>	<p>対国家公務員 105.1</p> <table border="1" data-bbox="667 331 1380 427"> <tr> <td data-bbox="667 331 802 427">参考</td> <td data-bbox="802 331 986 365">地域勘案</td> <td data-bbox="986 331 1380 365">94.5</td> </tr> <tr> <td></td> <td data-bbox="802 365 986 398">学歴勘案</td> <td data-bbox="986 365 1380 398">103.8</td> </tr> <tr> <td></td> <td data-bbox="802 398 1380 427">地域・学歴勘案</td> <td data-bbox="986 398 1380 427">94.6</td> </tr> </table>		参考	地域勘案	94.5		学歴勘案	103.8		地域・学歴勘案	94.6
参考	地域勘案	94.5									
	学歴勘案	103.8									
	地域・学歴勘案	94.6									
<p>国に比べて給与水準が高くなっている定量的な理由</p>	<p>事務職員の給与水準については、年齢のみを勘案した対国家公務員指数は105.1と国家公務員を上回っているが、地域勘案の指数は94.5となり国家公務員を下回る。本部事務局及び5館の美術館のうちの3館が東京都特別区内に所在し、1級地に勤務する事務・技術職員の割合が国を大きく上回る(国立美術館:81.4%, 国:27.0%)ため、年齢のみを勘案した指数においては国家公務員を上回ったものと考えられる。</p> <p>国の勤務地の比率については、「平成21年国家公務員給与等実態調査」を用いて算出</p>										
<p>給与水準の適切性の検証</p>	<p>[国からの財政支出について]                  支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合 92.8%                  (国からの財政支出額 12,676百万円, 支出予算の総額 13,661百万円:平成21年度予算)                  支出総額に占める給与・報酬等支給額の割合 6.5%                  (支出総額(平成21年度決算ベース) 14,786,578千円, 給与・報酬等支出総額 967,616千円)</p> <p>[検証結果]                  俸給表、諸手当等の給与体系は国家公務員に準拠しており、地域勘案の対国家公務員指数は100を下回っていることから、国からの財政支出の割合は大きいものの、平成21年度の事務職員の給与水準は適切なものであると認識している。</p> <p>[累積欠損額について]                  累積欠損額 0円(平成20年度決算)</p> <p>[検証結果]                  非該当</p>										
<p>講ずる措置</p>	<p>平成21年12月に実施した俸給月額及び期末・勤勉手当の支給率の引き下げ等、人事院勧告を踏まえ国家公務員に準じた給与改正を行っている。平成22年度の対国家公務員指数は、年齢勘案で100程度、年齢・地域・学歴勘案で100以下になると見込まれる。今後も引き続き適正な給与水準となるよう努めるとともに、人員配置の見直し、職員の若返り等の方策の実施により、対国家公務員指数の抑制を図り、平成22年度までに対年齢勘案の指数が100以下となるよう努める。</p>										
<p>その他</p>	<p>[管理職の割合] 9.3%</p> <p>[大卒以上の高学歴者の割合] 72.1%</p>										

## 研究職員

項目	内容		
指数の状況	対国家公務員 95.8		
	参考	地域勘案	93.2
		学歴勘案	95.1
		地域・学歴勘案	92.8
国に比べて給与水準が高くなっている定量的な理由	非該当		
給与水準の適切性の検証	<p>【国からの財政支出について】</p> <p>支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合 92.8%            (国からの財政支出額 12,676百万円, 支出予算の総額 13,661百万円:平成21年度予算)</p> <p>支出総額に占める給与・報酬等支給額の割合 6.5%            (支出総額(平成21年度決算ベース) 14,786,578千円, 給与・報酬等支出総額 967,616千円)</p> <p>【検証結果】</p> <p>国からの財政支出の割合が大きいが,平成21年度の研究職員の給与水準は,対国家公務員の指数を下回っており,適切なものであると認識している。</p>		
	<p>【累積欠損額について】</p> <p>累積欠損額 0円(平成20年度決算)</p> <p>【検証結果】</p> <p>非該当</p>		
講ずる措置	平成21年12月に実施した俸給月額及び期末・勤勉手当の支給率の引き下げ等,人事院勧告を踏まえ国家公務員に準じた給与改正を行っている。今後も引き続き適正な給与水準となるよう努めたい。		

## 総人件費について

区 分	当年度 (平成21年度)	前年度 (平成20年度)	比較増 減		中期目標期間開始時(平成18年度)からの増 減	
給与, 報酬等支給総額 (A)	千円 967,616	千円 976,216	千円 8,600	(%) ( 0.9)	千円 48,660	(%) ( 4.8)
退職手当支給額 (B)	千円 107,902	千円 17,855	千円 90,047	(%) (504.3)	千円 67,197	(%) (165.1)
非常勤役職員等給与 (C)	千円 280,025	千円 272,857	千円 7,168	(%) (2.6)	千円 37,790	(%) (15.6)
福利厚生費 (D)	千円 139,999	千円 146,310	千円 6,311	(%) ( 4.3)	千円 9,177	(%) ( 6.2)
最広義人件費 (A + B + C + D)	千円 1,495,542	千円 1,413,238	千円 82,304	(%) (5.8)	千円 47,150	(%) (3.3)

### 総人件費について参考となる事項

「給与・報酬等支給総額」については、役職員の俸給月額及び期末・勤勉手当の支給率の引き下げ、退職者の後任不補充、新規採用による職員の若返り等により、前年度と比較して0.9%減少した。  
また、「最広義人件費」については、前年度は実績の無かった定年退職者が今年度は複数いたため、退職手当支給額が前年度と比較して約5倍の額となったこと等により、5.8%増加した。

・行革推進法、「行政改革の重要方針」(平成17年12月24日閣議決定)による人件費削減の取組

中期目標において、平成18年度から5年間、国家公務員に準じた人件費削減の取組を行うとともに、国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与体系の見直しを進めることとしている。

中期計画において、人件費については、退職手当、福利厚生費及び今後の人事院勧告を踏まえた給与改定分を除き、平成22年度において、平成17年度予算額(1,074,071千円)に比較して、5%以上削減することとしている。

### 総人件費改革の取組状況

年 度	基準年度 (平成17年度)	平成18 年度	平成19 年度	平成20 年度	平成21 年度
給与, 報酬等支給総額 (千円)	1,016,067	1,016,276	1,023,008	976,216	967,616
人件費削減率 (%)		0.0	0.7	3.9	4.8
人件費削減率(補正值) (%)		0.0	0.0	4.6	3.1

注: 「人件費削減率(補正值)」とは、「行政改革の重要方針」(平成17年12月24日閣議決定)による人事院勧告を踏まえた官民の給与較差に基づく給与改定分を除いた削減率である。  
なお、平成18年、平成19年、平成20年、平成21年の行政職(一)職員の年間平均給与の増減率は、それぞれ0%、0.7%、0%、2.4%である。

### 法人が必要と認める事項

特になし